

2025 年度

教育学部 講義計画と内容

[目次]

- ・基礎教育学専修 基礎教育学コース
- ・教育社会科学専修
- ・教育社会科学専修 比較教育社会学コース
- ・教育社会科学専修 教育実践・政策学コース
- ・心身発達科学専修
- ・心身発達科学専修 教育心理学コース
- ・心身発達科学専修 身体教育学コース
- ・教養学部 第 2 学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目
- ・教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス
- ・教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス
- ・特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

2025 年度は UTAS のシラバス情報が随時更新される予定のため、注意してください。

時間割コード	09251101	担当教員	隠岐 さや香		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 4
講義題目	西洋教育史概説 Introduction to Western Educational History				

授業の目的・概要	人は知識を求める存在とされる。だが、学び研究する権利は平等に配分されておらず、学ぶべきとされる内容については時代ごとに価値観の変遷があった。この授業では西洋世界を中心に、過去における教育制度や教育思想の発展経緯を概観する。部分的には諸科学の歴史も扱う。この授業は、受講者が教育史の基礎的な素養を得ること、ならびに文系・理系を問わない学際的な視野を獲得することを目指している。受講生は講義を通じて、教育制度の発展によりいかなる公共性や科学的知識が育まれたのか、またそこから誰が排除されていたのかについて歴史的知識を踏まえた考察ができるようになる。
授業計画	1. 西洋教育史とは 2. 古代ギリシアとローマにおける教育と学問 3. 西洋中世の教育 4. ルネサンス・宗教改革と教育 5.「科学革命」と教育・研究 7. 産業革命と啓蒙思想 8. 近代公教育の形成(1)世俗化と子どもへのまなざし 9. 近代公教育の形成(2)市民教育と専門教育 10. 近代国家と国民教育 11.新教育運動の展開 12.第二次世界大戦後の教育―多様性・包摂 13.総合討論
授業の方法	多くの回は講義形式で行うが、一部で課題を踏まえたディスカッションも行う
成績評価方法	平常点(ディスカッション参加と課題提出)が 60%、期末レポートが 40%とする
教科書	教員が適宜教材を配布する
参考書	授業時の各回に参考文献を提示するが、全体を通じての参考書は下記の通り。 岩下誠・三時真貴子・倉石一郎・姉川雄大『問いからはじめる教育史』有斐閣ストゥディア、2020 年。 吉田武男監修・尾上雅信編著『西洋教育史』ミネルヴァ書房、2018 年。 眞壁宏幹編『西洋教育思想史』慶應義塾大学出版会、2016 年。 塚原東吾・綾部広則・藤垣裕子・柿原泰・多久和理実編著『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022 年 John L. Rury & Eileen H. Tamura eds.&comma; O
履修上の注意・備考	西洋教育史概説 重要なことは適宜 ITC-LMS で掲示する
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)外国史[(地)外国史

時間割コード	09251102	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 5
講義題目	教育臨床学概説 Introduction to Clinical Approach to Education				

授業の目的・概要	臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義では毎回、若者・家族・教育にまつわる個別具体的な事例を取り上げます。講義者が体験したり見聞きたりした出来事だけではなく、マンガ、エッセイなども事例として取り上げる予定です(参考資料参照)。人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋がられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of case-based qualitative research. Each lecture in this course will focus on a specific case study related to youth&comma; family and education. Not only events experienced&comma; seen or heard by the lecturer&comma; but also comics&comma; essays&comma; etc. will be taken up as case studies (see references). Phenomenology&comma; the study that seeks to clarify the structure of universal human experience&comma; has a saying that 'the individual leads to the universal'. If we can deeply examine individual concrete cases&comma; we can connect them to a universal understanding of human beings in the form of &quot;I can think of something like that too&quot; or &quot;it might be possible that something like that could happen&quot;. The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.
授業計画	1 オリエンテーション 2 私たちが囚われている「あたりまえ」の枠組み:フッサール「間主観性」とハイデガー「世間」 3 自分の可能性を選びほぐす:ハイデガー「可能性」 4 当事者性の問題について考える:当事者研究とピアアプローチ 5 当事者性の問題にいて考える:胎内被爆者と 2 種類の原爆の絵 6 現代家族と過保護:「毒親」と「心の穴」 7 虐待親が語る虐待:ナラティブ・アプローチ 8 他者は理解できるのか①:フッサール「感情移入」 9 他者は理解できるのか②:空気を読む・雰囲気に基づく他者理解 10 つながり孤独:現象学における「他者」 11 愛するとはどういうことか:模図かずおから学ぶ 12 場面緘黙と学校の規範が生み出すリズム 13 語ることの功罪①:社会的養護のケアリーバーとケアワーカーの語り 14 語ることの功罪②:語りを強要することと癒し 1 Orientation 2 The 'natural' framework in which we are trapped: Husserl 'intersubjectivity' and Heidegger 'the world' 3 Choosing and unwinding our possibilities: Heidegger 'possibilities' 4 Thinking about the issue of tojishasei: research by tojisha and peer approaches 5 Thinking on the issue of tojishasei: in utero hibakusha and two kinds of atomic bomb pictures 6 Modern families and overprotection: 'toxic parents' and 'holes in the heart' 7 Abuse by abusive parents: narrative approach 8 Can others be understood (i): Husserl 'empathy' 9 Can others be understood (2): understanding others based on air-reading and atmosphere 10 Connection and loneliness: the 'other' in phenomenology 11 What does it mean to love: learning from Kazuo Umezu 12 Rhythms created by place-holding and school norms 13 The merits and demerits of storytelling (1): Narratives of care leavers and care workers in social care 14 The merits of storytelling (2): forcing storytelling and healing
授業の方法	・授業計画はあくまでも予定である。確定版は初回に示す ・受講者の人数にもよるが、講義形式で行なう。 ・毎授業の導入では、前回の授業における受講者からのリアクションペーパーへの回答を行う。 ・そのうえで、当該授業のテーマと具体的事例ならびに考察を提示する。 ・テーマによっては、授業中に受講者同士のディスカッションの時間を設ける ・授業中に出席確認を実施する。 ・授業後受講者はオンラインリアクションペーパーを提出する。 The lesson plan is

	only a tentative schedul
成績評価方法	平常点(登録人数が 100 名を超えた場合毎授業後のリアクションペーパーで出席を管理する)と期末レポート Ordinary marks (attendance is controlled by a reaction paper after each class when the number of registered students exceeds 100) and a final report.
教科書	特に指定しない。 Not specified.
参考書	遠藤野ゆり・大塚類 2014『あたりまえを疑え！』新曜社 M.ハイデガー2003『存在と時間』中央公論新社 穂村弘 2009『世界音痴』小学館 E.フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店 村上春樹 2007『東京奇譚集』新潮社 村上靖彦 2017『母親の孤独を回復する』講談社 野口裕二 2002『物語としてのケア』医学書院 煤図かずお 1995『おろち』秋田書店
履修上の注意・備考	教育臨床学概説
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251301	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 4
講義題目	文化と教育の哲学 Seminar in Philosophy of Culture and Education				

授業の目的・概要	本授業は「特権」をキーワードに教育と人間形成の現代的問題を検討する。現代社会には多様性の重視とそれに対する不寛容とが併存する状況が見受けられる。こうした問題状況と教育は無縁ではない。教育はこの問題を減じることにより貢献しうる一方で、そのような問題が生じる一因である可能性もある。マルクス・リーガー＝ラーディツヒ『特権——闘争の語彙か、それとも知の道具立てか』(レクラム社、2022 年、ドイツ語)の私訳の検討を中心として、この問題を受講生と共に考える。 本授業を通じて、西洋の教育学において用いられる諸概念や問題構成を基盤として、教育や人間形成の問題を歴史的かつ体系的に論じることができる。より具体的に言えば、本授業を通して、受講生は(1)「特権」について論じるための基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「特権」という主題との関連で、現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。以上のことを踏まえて上記のポイントについてより専門的な研究レベルに深化させることができる。
授業計画	1 回目 ガイダンス(本授業の概要説明) 2 回目 テキスト分担、授業者によるレクチャー 3 回目 授業者によるレクチャーもしくはテキスト班での話し合い 4 回目 第 1 章 5 回目 第 2 章 6 回目 第 3 章 7 回目 第 4 章 8 回目 第 5 章 9 回目 『特権』の振り返りと著者へのコメント作成 10 回目 ワークショップの準備的授業 11 回目 マルクス・リーガー＝ラーディツヒ氏講演 11、12、13 回目 リーガー＝ラーディツヒ氏とのワークショップ「アートと他者への「共感」をめぐる」(7 月 19 日(土)岡本太郎美術館訪問)
授業の方法	最初は授業者(山名)によるガイダンスおよびレクチャーを中心とする。それ以降は、(1)テキストとして選定したテキストの検討、(2)グループディスカッション、(3)全体討議、の流れで授業を行う。なお、毎回の授業の終わりに履修者はコメントペーパーを作成して提出する。 授業後半ではリーガー＝ラーディツヒ氏による講義とディスカッション、そして関連ワークショップを予定している。
成績評価方法	平常点(70 パーセント)と期末感想文(30 パーセント)の総合的評価を行う。
教科書	Rieger-Ladich&comma; Markus: Das Privileg. Kampfvokabel und Erkenntnisinstrument. Ditzingen: Reclam 2022 (マルクス・リーガー＝ラーディツヒ『特権——闘争の語彙か、それとも知の道具立てか』レクラム社、2022 年、192 頁)の私訳(授業時に配布)
参考書	ブルデュー、ピエール(2011)『自己分析』(加藤晴久訳)藤原書店 エルノー、アニー(2022)『場所』(掘茂樹訳)早川書房 エリボン、ディディエ(2020)『ランスへの帰郷』(塚原史訳)みすず書房 サンデル、マイケル(2023)『実力も運のうち——能力主義は正義か?』(鬼澤忍訳)早川書房 その他、授業時に指示する。
履修上の注意・備考	文化と教育の哲学 授業での積極的な議論参加を期待します。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251302	担当教員	小国 喜弘、森 和宏		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	日本教育史演習 Seminar in History of Japanese education				

授業の目的・概要	この授業では、日本教育史研究に必要な研究能力、ならびに基礎的な教養を獲得することを目指している。 インクルーシブ教育への転換が叫ばれている今日において、改めて戦後障害児教育の実践記録などの史料を読み解くことによって、日本における包摂と排除の教育史について検討してみたい。今年度は、養護学校義務化(1979 年)をめぐってこの包摂と排除という問題群がもっとも鋭く問われた 1970 年代に焦点を合わせ、「発達保障」と「共生・共育」の二項対立を前提としてきた従来の歴史像をいかに描き直すことができるのかを考えてみたいと思う。 また、それらの歴史的な思索およびゼミでの議論を手がかりとして、改めて現代の教育において求められていることが何なのか、検討してみたい。
授業計画	第 1 回: イントロダクション(授業内容の導入、自己紹介など) 第 2 回: 問題の所在——「発達」と「共生」の対立をめぐって 第 3 回: 先行研究の検討(1) 第 4 回: 先行研究の検討(2) 第 5 回: 文献購読(1) 第 6 回: 文献購読(2) 第 7 回: 文献購読(3) 第 8 回: 文献購読(4) 第 9 回: 文献購読(5) 第 10 回: 文献購読(6) 第 11 回: 文献購読(7) 第 12 回: 文献購読(8) 第 13 回: まとめ
授業の方法	基本的に、対面で開講します。 第 1 回・第 2 回については、講義を中心に、この講義でどのようなことに取り組むのかを考えます。 第 3 回以降は、担当者(履修者)による報告を中心としながら、全体および小グループで議論を行います。こちらの報告について、必ず 1 回は担当をしてもらいます。
成績評価方法	基本的に、担当する発表(執筆する報告資料)の質(下記の観点)によって評価します。 1 自分自身の主張を明確に言語化し、論証できているか 2 周辺の文献や先行研究を踏まえて、報告を位置づけられているか 3 文献を十分に読み込み、論点を描出できているか また、議論への参加・貢献を重視するため、各回の終わりに短いアクションペーパーを記入・提出していただきます。その提出をもって出席とみなし、一定以上の出席および報告が認められた場合のみ、成績評価の対象とします。
教科書	特に使用しません。 ただし、指定する共通文献については、事前にメーリングリストで共有します。
参考書	小国喜弘編『障害児の共生教育運動: 養護学校義務化反対をめぐる教育思想』東京大学出版会、2019 年。 小国喜弘『戦後教育史: 貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで』中央公論新社、2023 年。 そのほか、授業中に適宜紹介します。
履修上の注意・備考	日本教育史演習 何かありましたら、ご遠慮なく、いつでも下記の連絡先までご連絡下さい。 オフィスアワーは、火～金の午後 14:00 から 17:00 としますので、赤門総合研究棟 324 号室(バリアフリー教育開発研究センター)にお越しいただいても結構です。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251303	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	価値と教育 I Seminar in Values and Education I				

授業の目的・概要	「ケアの倫理と教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会における人格教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	オリエンテーションと日本語文献の講読が対面授業、英語文献の講読がオンライン授業の予定です。初回は対面で実施します。2回目以降、変更が生じた際には、メーリングリストでお知らせします。 1. オリエンテーション 2. Caring, empathy, and moral education (1) 冒頭部分 精読 3. Caring, empathy, and moral education (2) 1. The Ethics of Care 精読 4. ギリガン「序と第一章 人間／男性のライフサイクルにおける女性の位置」講読 5. Caring, empathy, and moral education (3) 2. Caring and Empathy 精読 6. ギリガン「第二章 関係性の複数のイメージ」講読 7. Caring, empathy, and moral education (4) 3. Ethics and Empathy 精読 8. ギリガン「第三章 自己と道徳性の概念」講読 9. Caring, empathy, and moral education (5) 4. Moral Education Based on Empathy 前半部分 精読 10. ギリガン「第四章 危機と移行」講読 11. Caring, empathy, and moral education (6) 4. Moral Education Based on Empathy 後半部分 精読 12. ギリガン「第五章 女性の権利と女性の判断」講読 13. Caring, empathy, and moral education (7) 5. Noddings on Moral Education 精読 14. ギリガン「第六章 成熟の姿」講読 15. まとめ
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。 授業で使用する教材やレジュメは UTOL やメールを通じて電子的に配布します。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、ゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「ケアの倫理と教育」をテーマに 2,000 字程度で論じたものとする予定である。
教科書	Michael Slote (2009) Caring, empathy, and moral education, in: Harvey Siegel ed. (2009) The Oxford Handbook of Philosophy of Education (Oxford: Oxford University Press). キャロル・ギリガン(2022)『もうひとつの声で—心理学の理論とケアの倫理』川本隆史・ 山辺恵理子・米典子訳、風行社。
参考書	M. L. ホフマン(2001)『共感と道徳性の発達心理学—思いやりと正義とのかかわりで』菊 地章夫・二宮克美訳、川島書店。 片山勝茂(2012)「教育における正義とケア—その基本的構図」『教育哲学研究』第 105 号。 Nel Noddings (2007) Caring as relation and virtue in teaching, in: Rebecca L. Walker and Philip J. Ivanhoe eds. (2007) Working Virtue: Virt
履修上の注意・備考	価値と教育 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251304	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 5
講義題目	教育の臨床現象学 Seminar in Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。 人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of qualitative research based on cases. In this lecture; the lecturers will first read several papers on clinical phenomenological case studies and learn about their format; as well as introducing themselves. Then; using the textbook "さらにあたりまえを疑え！ Question the obvious even more!"; which covers individual and specific topics related to youth; family and education; the lecturers will engage in a dialogue. as a textbook; which covers specific topics related to youth; family and education; and we will engage in dialogue together. In phenomenology; the study of the universal structure of human experience; there is a saying that "the individual leads to the universal". If we can deeply examine individual concrete cases; we will be able to connect them to a universal understanding of human beings in the form of "I have an idea of what that could be like" or "That could happen to me too". The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.
授業計画	1 オリエンテーション 2 臨床現象学に関する論文講読① 3 臨床現象学に関する論文講読② 4 序章：みんなと普通に生きられること+第一章：家族の形 5 第二章：児童虐待 6 第三章：発達障害 7 第四章：生きられる時空間 8 第五章：いじめ 9 第六章：自閉症スペクトラム障害 10 第七章：カウンセリング 11 第八章：不登校 12 第九章：非行 13 第十章：キャリア教育 14 終章：みんなと普通に生き続けること 1 Orientation 2 Reading of papers on clinical phenomenology (1) 3 Reading of papers on clinical phenomenology (2) 4 Introduction: living normally with everyone + Chapter 1: Family forms 5 Chapter 2: Child abuse 6 Chapter 3: Developmental disabilities 7 Chapter 4: Time and Space for Living 8 Chapter 5: Bullying 9 Chapter 6: Autism Spectrum Disorders 10 Chapter 7: Counselling 11 Chapter 8: Truancy 12 Chapter 9: Delinquency 13 Chapter 10: Career education 14 Concluding chapter: continuing to live normally with everyone else
授業の方法	毎回グループワークのため対面実施・少人数のゼミ形式で行う。 ・受講者は事前に教科書の該当章を読み、質問(任意)とグループワークで話したいテーマ(必須)を、LMS にて提出 ・授業冒頭は、前回のリアクションペーパーへの回答、事前質問への回答を講義者より行う。(約 10 分) ・メンバーを変えて 2 回グループワークを行う(25 分と 30 分) ・残りの時間は全体討論。テーマへの考察を深める。(約 30 分) Face-to-face classes are envisaged The course will be con
成績評価方法	平常点(毎回の出席状況と予習課題・オンラインリアクションペーパーの提出状況) Ordinary marks (attendance at each session and submission of preparatory assignments and online reaction papers)
教科書	遠藤野ゆり・大塚類 2020『さらにあたりまえを疑え！』新曜社

参考書	授業中に適宜指示します Instructions will be given in class as appropriate.
履修上の注意・備考	教育の臨床現象学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251305	担当教員	隠岐 さや香		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 4
講義題目	文系と理系の歴史 History of Education in Science and Humanities				

授業の目的・概要	本授業では、西洋の教育思想・教育制度に関する基礎知識として、西洋の古代から近現代までの学問観の思想および制度の歴史を扱う。授業は主に次の二つの部分から構成される。まず、日本では「文系」「理系」、欧米では「二つの文化」といった表現で知られる二元論的な学問観の歴史的形成過程を検討し、そのような学問観が実際の教育制度や研究政策とどのような関わりを持つに至っているのかを確認する。その上で、「文系」「理系」に関連する思想、制度の言説を扱った歴史的史料を実際に関連し、読み解くことを通じて、歴史的検証・解釈手法の獲得を目指す。
授業計画	暫定的に下記を定める。受講生と話し合っ部分的に変える事もある。 1. 「二つの文化」論と科学史方法論―本授業の概要 2. 古代の学問観と学問分類 3. 中世ヨーロッパの大学組織 4. フランシス・ベーコンと『百科全書』 5. フランス革命期からナポレオン期の教育論と科学観―テクノサイエンスの制度化 6. 近代大学の成立―カント、フィヒテ、リービヒ 7. 社会科学の方法論論争 8. 新カント派の人文科学（人文学）論 9. 東アジアと文系・理系 10. 「二つの文化」論争―スノウとリーヴィス 11. ジェンダーと諸学 12. 科学・技術イノベーション政策と大学改革
授業の方法	前半は講義形式で授業を行う。可能な限り授業に関する短いコメントを書く時間を設けてその内容を受けて次回授業へとつなげる。後半は発表報告やディスカッションが中心となる。
成績評価方法	平常点（40％）と期末レポート（60％）の総合的評価を行う。
教科書	特に指定しない。授業時に関連資料を配付する。
参考書	隠岐さや香『文系と理系はなぜ別れたか』星海社新書、2018 年 ヴォルフ・レペニース『三つの文化 仏・英・独の比較文化学』松家次朗、森 良文、吉村 健一訳、法政大学出版局、2002 年 ガイ・オルトラノ『「二つの文化」論争 戦後英国の科学・文学・文化政策』みすず書房、2019 年 前川一郎編『歴史学入門 だれにでもひらかれた14講』昭和堂、2023 年 塚原東吾・綾部広則・藤垣裕子・柿原泰・多久和理実編『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022 年 その他、各回ごとに参考文献を提示する。
履修上の注意・備考	文系と理系の歴史
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251306	担当教員	平石 晃樹		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	教育倫理学演習 Seminar in Ethics of Education				

授業の目的・概要	本年度はジャン＝フランソワ・リオタールの『ポスト・モダンの条件——知・社会・言語ゲーム』を精読する。ポストモダンブームの先駆とおもわれがちな本書は、実は現代社会における「知の条件」の探究という教育学にとっても無縁ではありえない主題をあつかっている。このことは、残念ながら今日の教育学業界で顧みられることはほとんどない。しかし、本書をひもとけば、知の理論のみならず、研究、教育、高等教育制度などについて、哲学者一流の議論が展開されているのを読者は目撃することになるだろう。現在でもなおそのアクチュアリティを失っていないはずのリオタールの問題提起をまずは可能な限り正確に理解し、そこから各人が問いを練り上げなおすにいたることが本演習の目標となる。
授業計画	初回は担当教員がイントロダクションを行う。以後の回は指定文献の輪読にあてる。
授業の方法	少人数の演習形式の授業を想定している。 日本語で講読を進めるが、フランス語原文と英訳も適宜参照する。
成績評価方法	平常点と演習での発表により総合的に評価する。最後にレポートを課すことがある。
教科書	講読文献の検討範囲のコピーを配布する。 ジャン＝フランソワ・リオタール『ポスト・モダンの条件——知・社会・言語ゲーム』小林康夫訳、水声社、1989 年。
参考書	Jean-François Lyotard, La Condition postmoderne. Rapport sur le savoir, Minuit, 1979。 その他のほかの参考文献については授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	教育倫理学演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251401	担当教員	平石 晃樹		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 4
講義題目	道徳と教育 Morality and Education				

授業の目的・概要	本講義では、基本的には日本の小中学校で「特別の教科 道徳」としておこなわれている道徳教育の実情(学習指導要領から教科書・授業実践例まで)をフィールドとして設定しながら、そこにいかなる教育哲学的な諸問題がひそんでいるのかを明らかにすること目標とする。「道徳を教育することはできるのか」「そもそも道徳とはなにか」ということ自体すでに難問であり、本講義ではもちろんこれらの問いの検討を試みる。だが他方で、日本の学校現場で使用されている道徳の教材や実践例、あるいはそれらを下支えする学習指導要領のほうから立ち上がる教育哲学上の問いというものもある。本講義ではむしろそうした問いをめぐる考察にも同程度のウェイトを置くことで、教育の理論と実践を往還する視点を受講者とともに探究することをめざしたい。
授業計画	以下の計画は暫定的なものであり受講者の関心等におうじて修正することがある。 1. イントロダクション:道徳教育の現在地 2. 道徳を教えることはできるのか 3. 道徳の授業を受けつつからには完璧に道徳的でなければならないのか 4. 道徳はほんとうにひとそれぞれなのか 5. 道徳教育は価値観の押しつけから逃れられるのか 6. 道徳教育とは「こころを育む」ことなのか 7. 道徳性が成長するとはいかなることなのか 8. 日本的道徳教育はなぜ自己犠牲が好きなのか 9. 道徳教育のゴールはどこにあるのか 10. 道徳教育と哲学教育はいかに関連するか 11. 道徳教育と公民科教育はいかに関連するか 12. 海外ではどのような道徳教育がなされているのか 13. 講義の総括:これからの道徳教育を想像する
授業の方法	担当者による講義形式をベースとしながら、受講者数や受講者の関心等を勘案して文献読解やディスカッションを取り入れる予定である。
成績評価方法	平常点(20%)と期末レポート(80%)による。
教科書	指定しない。
参考書	開講時に詳細な関連文献リストを配布する予定。
履修上の注意・備考	道徳と教育
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 ※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09251402	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、小国 喜弘、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	ダイバーシティ・インクルージョン概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09251501	担当教員	片山 勝茂、平石 晃樹、山名 淳、小国 喜弘、大塚 類、隠岐 さや香		
単位数	2	学 期	通年	時 限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名と平石が教育哲学、小国が日本教育史、隠岐が西洋教育史、片山が教育人間学、大塚が教育臨床学を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。 第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2023)『信頼される論文を書くために 第4版』
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252301	担当教員	卯月 由佳		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	教育の計量社会科学 Quantitative Social Sciences in Education				

授業の目的・概要	教育、社会、経済の関連について把握し、説明するための社会科学の理論を学び、その理論に基づいて量的データ分析を行うための、多変量解析の基礎的な考え方とモデルについて理解することが本授業の目標です。パソコンを用いたデータ分析実習も行います。なお、本授業は、社会調査士カリキュラムの E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。
授業計画	1.教育の社会科学(人間開発、不平等、世代間移動、政策) 2.社会・経済が教育に与える影響に関する理論とデータ分析 3.教育が社会・経済にもたらす効果に関する理論とデータ分析 4.線形回帰(単回帰):相関係数、共分散、最小二乗法とその前提条件 5.データ分析実習(1):単回帰 6.線形回帰(重回帰):統制変数、モデル適合度の評価、パス解析 7.データ分析実習(2):重回帰 8.非線形回帰(1):二乗項、対数項、交互作用項 9.非線形回帰(2):ロジスティック回帰 10.データ分析実習(3):ロジスティック回帰 11.教育政策立案・評価に必要なデータと分析 12.データ分析実習(4):データ分析結果の発表(重回帰、ロジスティック回帰) 13.教育の社会科学に関する多変量解析の総括テストと解説
授業の方法	講義形式及び演習形式で授業を行います。データ分析実習では統計ソフト「R」を利用してデータ分析を行い、課題提出や発表も期待します。最後に総括テストを行います。なお、進行状況に応じて授業計画を変更する場合があります。
成績評価方法	総括テストの結果に基づいて成績を評価します。授業に積極的に参加した場合は、その参加状況(課題の提出状況を含む)を成績に加味する場合があります。
教科書	指定しません。
参考書	松浦寿幸(2024)『R によるデータ分析入門:経済分析の基礎から因果推論まで』東京書籍。 そのほか、各回の授業で参考文献を提示します。
履修上の注意・備考	教育の計量社会科学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252302	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 4, 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題 Change and Problems of Japanese Society				

授業の目的・概要	日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。 一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授業計画	授業計画 第1回: オリエンテーションと講義(「不登校急増の背景」) 第2回: 講義(「日本の大学授業料問題」) 第3回: 教育格差 第4回: 教師 第5回: 進路選択 第6回: 大学教育の意味 第7回: 仕事・労働市場 第8回: 子育て 第9回: 家事 第10回: 外国ルーツの人々 第11回: 差別 第12回: 不平等 第13回: ふりかえりと期末課題構想発表
授業の方法	文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。 授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。
成績評価方法	授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。
教科書	文献等は本授業の初回で提示する。
参考書	本田由紀『「日本」ってどんな国?』ちくまプリマー新書、2021 年 本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020 年 本田由紀『社会を結びなおす』岩波ブックレット、2014 年 本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009 年
履修上の注意・備考	日本社会の変容と課題 対面(オンラインも併用)
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』はじめに 第3回: " 第9章 第4回: " 第10章 第5回: " 第11章 第6回: " 第12章 第7回: " 第13章 第8回: " 第14章 第9回: " 第15章 第10回:ダーク・フォン・レーン『ハロルド・ガーフィンケル』第1章～第3章 第11回: " 第4章～第6章 第12回: " 第7章～第9章 第13回:期末レポート構想発表
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジュメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	奥村隆『社会学の歴史Ⅱ』有斐閣、2023 年 ダーク・フォン・レーン『ハロルド・ガーフィンケル』新曜社、2024 年
参考書	佐藤俊樹『社会学の方法ーその歴史と構造』ミネルヴァ書房、2011 年 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣アルマ、2014 年 富永健一『思想としての社会学ー産業主義から社会システム理論まで』新曜社、2008 年 那須壽『クロニクル社会学ー人と理論の魅力を語る』有斐閣アルマ、1997 年 野口雅弘『マックス・ウェーバー 近代と格闘した思想家』中公新書、2020 年 今野元『マックス・ヴェーバー 主体的人間の悲喜劇』岩波新書、2020 年 中野敏男『ヴェーバー入門 理解社会学の射程』ちくま新書、2020 年 ケン・プラマー著、
履修上の注意・備考	教育社会学理論演習 対面(教室で Zoom 使用)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09252304	担当教員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土		
単位数	2	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	大学論 University Studies				

授業の目的・概要	本授業では大学の教育に焦点を当てる。大学を含めた高等教育段階の教育研究は、伝統的な教育学において主要な研究対象ではなかったが、ここ 30 年ほどで大きく研究が進展した分野である。本授業の担当教員は、普段、大学院の「大学経営・政策コース」の教育を担当しているが、その知見を学部教育に反映させ、学部生向けに編成した授業を行う。 本授業の主要な目標は、受講生各自の大学生生活の経験に立脚しながら、各自が自分の視点から、大学での学習や大学生生活の意義を捉えることができるようになることである。各自の学習や学生生活を考える材料として、それらを支える教育とカリキュラム、学生支援、歴史的・比較的視点を取り上げる。 もうひとつ、この授業で重視するのは、大学院生・大学職員と学部生との対話である。相互にとって学びの機会になると思う。
授業計画	1. 大学教育を巡る論点 2. データから見る大学と大学教育 3. 大学教育のカリキュラム 3. 国際比較の視野から見た大学教育 4. 歴史的視野から見た大学教育 5. 学生生活と大学生の経験 6. 学部・専攻の決定過程 7. 学生の経済支援: 授業料と奨学金 8. コロナ禍の大学と大学教育 9. 大学院生・職員の目から見た学部教育 ★受講生の関心等を見つつ、修正する可能性もある。
授業の方法	講義、学生間のグループディスカッション、大学院生、受講生の発表と意見交換を中心に行う。
成績評価方法	授業への参加と貢献、期末レポートによる。
教科書	授業時に配布する。
参考書	大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018 年。 小方直幸編『大学マネジメント論』放送大学、2020 年。 橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房、2021 年。 他、授業時に提示する。
履修上の注意・備考	大学論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252305	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	教育行政調査演習Ⅰ Seminar in Field Research on Educational AdministrationⅠ				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとした調査および実証分析の方法の基礎を学び、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定し、演習Ⅱ（A1・A2）での調査に向けて計画を立てる。教育行政調査演習Ⅱと併せて履修することが望ましい。
授業計画	質的・量的な調査および分析手法の基礎を学んだ上で、演習Ⅱでの調査に向けてテーマ設定・調査の企画を行う。授業の実施形態については原則として対面で実施する。 第1回 オリエンテーション 第2回 政策リサーチの方法 第3～6回 量的研究法の基礎 第7～10回 質的研究法の基礎 第11回 実証研究の検討 第12回 研究倫理 第13回 授業のまとめ
授業の方法	文献講読・発表、討議を組み合わせで行う。
成績評価方法	平常点と期末レポートによる。
教科書	特に指定しない。文献は都度配布する。
参考書	・伊藤修一郎（2022）『政策リサーチ入門 増補版』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社。 ・佐藤郁哉（2015）『社会調査の考え方（上）（下）』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉（2021）『ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社 ・畑農鋭矢・水落 正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン 新版』有斐閣。 ・藤原文雄・露口健司・武井敦史編著(2010)『学校組織調査法』学事出版。
履修上の注意・備考	教育行政調査演習Ⅰ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252306	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 3
講義題目	教育行政調査演習Ⅱ Seminar in Field Research on Educational Administration Ⅱ				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。調査結果を報告書にまとめる。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、調査の計画・実施、データ分析、報告書の作成を小グループを単位として行う。原則として対面で授業を実施する。 第 1 回 オリエンテーション 第 2～3 回 班・テーマ設定 第 4 回 量的調査・研究例の検討 第 5 回 質的調査・研究例の検討 第 6～9 回 班での作業 第 10 回 中間発表 第 11 回 班での作業 第 12 回 班での作業 第 13 回 最終発表
授業の方法	グループで計画を立て、調査・分析を行う。時間割上に設定された時間以外に調査を行う場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席状況と報告書による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	教育行政調査演習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252307	担当教員	橋野 晶寛		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 4
講義題目	教育行政・学校経営演習Ⅱ Seminar in Educational Administration and School Management Ⅱ				

授業の目的・概要	この授業では、現代の教育政策・行政の動向および考え方・論点を学ぶ。教育政策・行財政の現代的トピックについて、政策動向を把握するだけでなく、普遍的・中核的論点について教育学のみならず隣接社会科学分野の実証研究・規範論を参照しながら、多角的に深く考察する視点を養う。
授業計画	第 2 回以降は発表者を割り当て、文献輪読を行う。主に扱うトピックは以下の通り(扱うトピックは教育行政・学校経営演習Ⅰのものと棲み分けするようにする)。 1)教育政策の目的・価値 ・教育政策の可否を何によって判断すべきか ・学校教育における自由はどこまで可能か ・教育機会の平等のために政策・行政には何ができるか/できないか、何をすべきか/すべきでないか、等。 2)教育財政・教育費負担 ・教育財政支出を正当化する根拠は何か ・財政的集権・分権は教育政策にどのように影響するか ・教育費負担をめぐる政治において、政治的制約(シルバー民主主義、増税忌避)とどう向き合うか、等 3)教員政策 ・日本型教育制度は教員の人材確保における量的・質的側面、教員の厚生にどのように影響するのか ・教職の特質は、人材確保、働き方、力量形成・動機づけにどのように影響するか ・教員の量的・質的人材確保に寄与する政策は何か、等 4)教育政策とデータフィクション・データサイエンス ・成果、貢献、必要性を測ることはできるか/どう測るのか ・エビデンスは教育政策に関わる政治と学術の関係を変えうるか ・「予測」は教育政策・行政に何をもたらすのか、等 第 1 回 オリエンテーション 第 2~13 回 文献輪読
授業の方法	第 2 回以降は、文献輪読を行う。 毎回指定された文献(論文または図書の一部、分量は 30~40 頁程度)を事前に読んできた上で、発表者が文献要旨と論点を報告し、議論を行う。
成績評価方法	平常点(発表、授業中の発言)による。 ただし、日程の都合等で発表を担当できない場合は、期末に相応のレポートを提出してもらう。
教科書	特になし。毎回文献を用意する。
参考書	市川昭午(2021)『教育改革の終焉』教育開発研究所。 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣。(1~6 章, 終章)。
履修上の注意・備考	教育行政・学校経営演習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252308	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	教育方法学演習Ⅲ Seminar of Research on Teaching and Curriculum Ⅲ				

授業の目的・概要	[授業の目標] この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究手法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。 1. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。 2. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関して、研究課題を設定し、探究する。 3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。 4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。 [授業の概要] 教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教師研究、教育内容研究、教育評価研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、評価などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。
授業計画	第1回 ガイダンス:教育方法学とは 第2回 教育実践研究の課題(1)教師研究 第3回 教育実践研究の課題(2)授業研究 第4回 教育実践研究の課題(3)保育研究 第5回 教育実践の研究(1)フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法) 第6回 教育実践の研究(2)フィールドワーク 第7回 教育実践の研究(3)報告会
授業の方法	第1回は、ガイダンスの後、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。 第2回～第4回は、主として教育実践研究に関する文献を購読し、教育実践研究のあり方や課題を学ぶ 第5回～第7回は、主として教育実践研究の方法に関する文献購読、実施、報告を行う。
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。 用意された活動のすべてに参加した者を成績評価の対象とする。
教科書	指定しない。
参考書	秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15 の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究:20 の事例にみる教師研究方法論』東京図書 浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く:教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社 秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー:学校参加
履修上の注意・備考	教育方法学演習Ⅲ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252309	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習Ⅲ Seminar in Adult and Lifelong Education Ⅲ				

授業の目的・概要	本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション&教育福祉について考える。 第 2 回 問題の所在(第 1 章～第 4 章) 第 3 回 実践の諸相(第 5 章～第 8 章) 第 4 回 実践から学ぶ①ゲストスピーカーによる特別講義 第 5 回 課題と展望(第 9 章～第 12 章) 第 6 回 実践から学ぶ②実践現場の見学 第 7 回 全体のまとめ(第 13 章)
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。 なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読票、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	授業で提示する。
参考書	授業で随時紹介する。
履修上の注意・備考	社会教育学演習Ⅲ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	A2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I				

授業の目的・概要	都市における市民の学習・文化活動の実態はどのようなものか。それが都市の形成とどのように作用しあいながら営まれてきたか。行政はそうした活動をどう支えているか。文献講読と大学近隣の地域活動の調査を通じて探る。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文献講読と調査準備(1) 第3回 文献講読と調査準備(2)調整がつけばゲストスピーチあるいは全体での現地調査 第4～5回 グループ別、あるいは全体での現地調査 第6回 調査結果の持ち寄り 第7回 発表会
授業の方法	文献講読とフィールドワークによる。大学近隣の自治体の社会教育施設、あるいはNPO や自治会等の活動に注目し、そこで活動している方々に取材しながら、そこで行われている活動内容、培われる人間関係、作り出されてきた文化の内容などに注目してレポートする。調査の形態(全体で調査するか、グループに分かれるか)および調査先は(現在大学近隣、あるいは東京都内多摩地域の自治体を予定している)、受講人数と受講者の関心に応じて最終的には決定する。 ※変更があれば随時シラバスを書き換えますが、大きな方向性に関しては買えない予定です
成績評価方法	出席および授業への参加状況により判断する。
教科書	山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造―暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
参考書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	社会教育学演習 I フィールド調査を主体にした授業を想定しているが、感染症の動向などにより困難な場合は、文献講読のみの内容とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252311	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1	学 期	通年	時 限	木 6
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	実習は、事前のガイダンス、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。 4 月 17 日にガイダンスを行うので(オンラインで実施予定)、履修希望者は必ず参加すること。近年参加せず履修する学生が増えているため、正当な理由なく参加しなかった場合は評価を下げる。 【3月9日追記】授業日を4月10日と以前案内していましたが、4月17日とします。10日は行いません。
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけではなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	使 用 し な い が 、 以 下 の 「 博 物 館 実 習 ガ イ ド ラ イ ン 」 を 参 照 。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	博物館学特別研究 ・不明点等はメールにて問い合わせること。 ・実習の際は、感染症対策に十分留意し、実習先の指示に従うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252312	担当教員	宮田 玲		
単位数	2	学 期	S1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	教育と言語処理 Education and Language Processing				

授業の目的・概要	言語処理の基本的な技術を演習形式で学びながら、教育場面への応用やその課題について理解する。前半では、文字列処理・言語処理の要素技術について個別に解説した上で、具体的な教育実践・教育研究を想定しながら、実際のテキストに対する分析を行う。後半では、生成 AI サービスの基盤となる技術の仕組みや挙動を解説した上で、教育場面における言語処理技術の活用に関する最近の動向を概観する。最後に、教育と言語処理をテーマに、テキスト分析、ツール開発、実践事例調査のいずれかの演習課題に取り組む。 本授業では、言語処理技術でできること・できないことを把握した上で、その応用について検討できるようになることが目標である。また、言語処理の技術的側面を扱いつつ、知識の伝達を可能にする記号・言語・文書のあり方とはどのようなものか、という基本的な問いに随時立ち戻りながら授業を進める。
授業計画	1 オリエンテーション 2 テキストの基本操作(文字エンコーディング、ファイル操作、正規表現) 3 テキストの整備(文書、コーパス、アノテーション) 4 文の解析(形態素解析、構文解析、意味解析) 5 概念の分析(固有表現抽出、専門用語抽出) 6 機械学習の基礎(種類、仕組み) 7 ニューラルネットワークの基礎(学習の仕組み、テキストのベクトル表現) 8 ニューラルネットワークの応用(Transformer、BERT、大規模言語モデル、生成 AI) 9 自然言語処理の教育応用(機械翻訳と英語教育、リーダビリティとことばの支援) 10～13 総合演習 以上はあくまで目安であり、参加者の関心・背景知識に応じて、適宜内容を組み替える。
授業の方法	講義と演習を組み合わせる。レジュメやベースとなるソースコードを配布する。
成績評価方法	授業参加、演習課題(発表含む)、レポートによって総合的に評価する。
教科書	使用しない。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育と言語処理
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252313	担当教員	齋藤 泰則		
単位数	2	学 期	A1	時 限	木 1, 木 2
講義題目	情報サービス演習 Seminar in Information Service				

授業の目的・概要	情報源(レファレンス資料)についてその信頼性を評価する手法の習得と、レファレンス質問への回答に必要な検索戦略の構築のための知識とスキルの取得を目指す。 ／ The objectives of this class are to acquire the following expertise and skills. 1) on evaluating library and information resources 2) on building the search strategy 3) on answering the reference questions
授業計画	第1回: 情報サービスの概要 第2回: 情報源(レファレンス資料)の評価 第3回: インターネット情報源の評価 第4回: 文字・言葉に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第5回: 事象・事物に関する情報源の評価 第6回: 事象・事物に関するレファレンス質問の処理 第7回: 歴史・日時に関する情報源の評価 第8回: 歴史・日時に関するレファレンス質問の処理 第9回: 地理・地名に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第 10 回: 人物・団体に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第 11 回: 図書・雑誌に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第 12 回: 雑誌記事に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第 13 回: 新聞記事に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第 14 回: まとめ ／ The 1st: Overview of information services The 2nd: Evaluation of library and information resources The 3rd: Evaluation of internet resources The 4th: Evaluation of information resources on languages & letters and answering reference questions on language & letters The 5th: Evaluation of information resources on matters and facts The 6th: Answering reference questions on matters and facts The 7th: Evaluation of information resources on history and events The 8th: Answering reference questions on history and events The 9th: Evaluation of information resources on geography&comma; and answering reference questions on geography The 10th: Evaluation of information resources on persons & corporate bodies&comma; and answering reference questions on persons & corporate bodies The 11th: Evaluation of information resources on books & serials&comma; and answering reference questions on books & serials The 12th: Evaluation of information resources on journal articles and answering reference questions on journal articles The 13th: Evaluation of information resources on articles of newspapers and answering reference questions on articles of newspapers The 14th: Summary
授業の方法	図書館を利用した演習形式で行う。 ／ Seminar mainly in the library.
成績評価方法	毎回の課題の提出物により評価する。 ／ Grade Evaluation is based on reports.
教科書	特に使用しない。 ／ Not used
参考書	大谷康晴、齋藤泰則編著.『情報サービス演習』新訂版&comma; 日本図書館協会&comma; 2020&comma; 258p. 長澤雅男&comma; 石黒裕子著『レファレンスブックス: 選び方・使い方』三訂版&comma; 日本図書館協会&comma; 2016&comma; 242p. 斎藤文男&comma; 藤村せつ子著『実践型レファレンスサービス入門』補訂 2 版&comma; 日本図書館協会&comma; 2019&comma; 203p. ／ Otani&comma; Yasuharu an
履修上の注意・備考	情報サービス演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252314	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 1
講義題目	講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通して I Skills for Understanding Lectures: Using MIT Linear Algebra Video Lecture as a Case I				

授業の目的・概要	以下の二点を目標とする。 (1) 英語授業を聞くために必要な語学としての英語のスキルを診断確認するとともに「文書パッケージ」としての授業を理解するために言語・記号をたどるための基礎技術を身につけること。 (2) 線形代数の基本を統計学の最小二乗法に対応する直行射影のところまで理解すること。 This lecture course has two objectives: (1) To diagnose students' own English skills in understanding university-level English lectures and to gain basic skills of following manipulation of symbols and language expressions necessary for undersatnding lectures as a &quot;document package&quot;; (2) To understand introductory Linear Algebra up to orthogonal projection that correponds to least square solutions in statistics.
授業計画	夏学期は、MIT Open Course Series 18.06 Linear Algebra の第 1 講から第 16 講を聞き、対応した線形代数の内容の理解と内容を理解するために講義をきく技術の基本を身につける。扱う MIT の講義は以下である。 Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 14 Lecture 15 Lecture 16 Lecture 11-13 は応用なので課題とする。 講義をきく技術としては、主に以下を扱うが、参加者の状況に応じて柔軟に変える。 - 言語表現そのものへの着目 - 既知と未知、それに対応した新たな知識の領域とそれを意味づける流域との区別 - 問いの定式化 - 量子子を含む論理形式の初歩的認識 - 質疑において言語表現を参照すること - 解答・理解の探索領域の明示化 The lecture course will cover MIT Linear Algebra course Lectuer 1 to Lecture 16. Participants are supposed to understand the Linear Algebra covered by the lecture and to gain basic skills of listening to lecture courses. MIT lectures covered will be: Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 14 Lecture 15 Lecture 16 Lectures 11-13 will be left for participants for self stody. As for the skills for listening to lecture courses&comma; the following will be covered&comma; subject to change dependent on students. - Identifying language expressions per se; - Old and new information and corresponding new knowledge and the sphere of meanings; - Formulating questions; - Rudimentary logical statements including quantifiers; - Referring to language expressions in QA; - Clarification of the search space for QA.
授業の方法	毎回、概ね以下を繰り返す。 前回までの確認(冒頭 5-10 分) MIT lecture をきく(40-55分) 質疑応答(10 分前まで) まとめ(10 分) For each lecture; - revieing what we learned (up to) the previous week (5-10 min) - Listening to MIT lecture (40-55 min) - QA (to 10 min before the end) - summary (10 min)
成績評価方法	平常点 Based on class participation
教科書	Strang&comma; G. Introduction to Linear Algebra. (6th edition is the newest) Wellesley-Cambridge Press. ストラング・G『世界標準 MIT 教科書 ストラング:線形代数イントロダクション』近代科学社 ただし、予算的に難しい場合には必ずしも購入する必要はない。
参考書	Strang&comma; G. Introduction to Linear Algebra. (6th edition is the newest) Wellesley-Cambridge Press. ストラング・G『世界標準 MIT 教科書 ストラング:線形代数イントロダクション』近代科学社.
履修上の注意・備考	講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通して I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252315	担当教員	影浦 峽		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 1
講義題目	講義をさく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通してⅡ				
	Skills for Understanding Lectures: Using MIT Linear Algebra Video Lecture as a Case Ⅱ				

授業の目的・概要	以下の二点を目標とする。 (1) 英語授業を聞くために必要な語学としての英語のスキルを診断確認するとともに「文書パッケージ」としての授業を理解するために言語・記号をたどるための基礎技術を身につけること。 (2) 線形代数の基本を固有値・固有ベクトル、SVD と一般化逆行列のところまで理解すること。 This lecture course has two objectives: (1) To diagnose students' own English skills in understanding university-level English lectures and to gain basic skills of following manipulation of symbols and language expressions necessary for undersatnding lectures as a &quot;document package&quot;; (2) To understand introductory Linear Algebra up to engenvales and eigenvectors&comma; and SVD and generalised inverse.
授業計画	夏学期は、MIT Open Course Series 18.06 Linear Algebra の第 17 講から第 33 講を聞き、対応した線形代数の内容の理解と内容を理解するために講義をきく技術の基本を身につける。扱う MIT の講義は以下である。 Lecture 17 Lecture 18 19 Lecture 20 Lecture 21 Lecture 22 Lecture 23 24 Lecture 25 Lecture 27 Lecture 28 Lecture 29 Lecture 30 Lecture 31 Lecture 33 Lecture 24b&comma; 26&comma; 32&comma; 34 は応用・クイズなので課題とする。 講義をきく技術としては、主に以下を扱うが、参加者の状況に応じて柔軟に変える。 - 言語表現そのものの反復 - 言語・記号への参照と意味の表出、対応する新情報と旧情報 - 個体指示による対象の固定 - 説明とは何をするとか - 統合的入れ替えと系列的置き換え - 構造マッチングに基づく問の定式化 The lecture course will cover MIT Linear Algebra course Lectuer 17 to Lecture 33. Participants are supposed to understand the Linear Algebra covered by the lecture and to gain basic skills of listening to lecture courses. MIT lectures covered will be: Lecture 17 Lecture 18 19 Lecture 20 Lecture 21 Lecture 22 Lecture 23 24 Lecture 25 Lecture 27 Lecture 28 Lecture 29 Lecture 30 Lecture 31 Lecture 33 Lecture 24b&comma; 26&comma; 32&comma; 34 は応用・クイズなので課題とする。 Lectures 24b&comma; 26&comma; 32 and 34 will be left for participants for self stody. As for the skills for listening to lecture courses&comma; the following will be covered&comma; subject to change dependent on students. - Repeating exact language expressions; - Referring to symbols and language expressions&comma; distinguishing use to represent meanings and mentioning the symbols&comma; and identifying new and known information; - Fixing the referent by using singular entity identifiers; - Understanding &quot;explaining&quot;; - Using syntagmatic swapping and paradigmatic replacement; - Detecting questions by using structural matching.
授業の方法	毎回、概ね以下を繰り返す。 前回までの確認(冒頭 5-10 分) MIT lecture をきく(40-55分) 質疑応答(10 分前まで) まとめ(10 分) For each lecture: - revieing what we learned (up to) the previous week (5-10 min) - Listening to MIT lecture (40-55 min) - QA (to 10 min before the end) - summary (10 min)
成績評価方法	平常点 Based on class participation
教科書	Strang&comma; G. Introduction to Linear Algebra. (6th edition is the newest) Wellesley-Cambridge Press. ストラング・G『世界標準 MIT 教科書 ストラング:線形代数イントロダクション』近代科学社 ただし、予算的に難しい場合には必ずしも購入する必要はない。
参考書	Strang&comma; G. Introduction to Linear Algebra. (6th edition is the newest) Wellesley-Cambridge Press. ストラング・G『世界標準 MIT 教科書 ストラング:線形代数イントロダクション』近代科学社.
履修上の注意・備考	講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通してⅡ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252401	担当教員	藤原 翔		
単位数	2	学 期	S1	時 限	水 3, 水 4
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology				

授業の目的・概要	教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目指す。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。／This course provides an introductory lecture on statistics necessary for analyzing social survey data used in social scientific research on education. Specifically, it covers distributions and statistics, correlation coefficients, basic probability theory, sampling, estimation and testing, cross-tabulation, and regression analysis. The goal is to acquire basic knowledge to accurately understand the meaning of existing analytical results and to conduct meaningful quantitative analysis independently. Students enrolled in "Educational Sociology Survey Practice" should take this lecture concurrently.
授業計画	・イントロダクション ・度数分布表 ・基本統計量 ・相関係数 ・確率モデルと統計的推定 ・統計的検定 ・平均値の差の検定 ・クロス集計と独立性の検定 ・多重クロス集計とエラボレーション ・回帰分析 ・偏相関と重回帰分析 ・回帰モデルの説明力と検定 ・回帰分析の応用 (以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)／ - Introduction - Frequency Distributions - Basic Statistical Measures - Correlation Coefficients - Probability Models and Statistical Estimation - Statistical Testing - Testing Differences between Means - Cross-tabulation and Tests of Independence - Multiple Cross-tabulation and Elaboration - Regression Analysis - Partial Correlation and Multiple Regression - Explanatory Power and Testing of Regression Models - Applications of Regression Analysis (Please note that this schedule is tentative and subject to change.)
授業の方法	教科書の主要部分を用いて講義を行う。また SSJ データ・アーカイブで公開されているデータ(あるいは教員が独自に収集したパネルデータ)を用いた R による実習も行う。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。／ The lecture will cover the main sections of the textbook. Practical exercises using R will be conducted with data from the SSJ Data Archive (or panel
成績評価方法	課題レポート(60%)と最終レポート(40%)によって評価を行う。／ Evaluation will be based on weekly assignments (60%) and a final report (40%).
教科書	杉野勇『入門・社会統計学——2ステップで基礎から[Rで]学ぶ』(法律文化社、2017年)
参考書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第4版]——2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2021年)
履修上の注意・備考	教育調査分析法 この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。／This course corresponds to "D. Statistical Methods for Social Research" required for the Social Researcher Certification, and "Subject-related Courses (Sociolo
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09252402	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	フィールドワークの理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork				

授業の目的・概要	エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワークを演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。
授業計画	第一回 ①質的調査とはなにか: 目的、意義、プロセス ②参与観察を行う: 現場のメモからフィールドノートへ 第二回 ①フィールドノートを書く: 何をどう描写するか ②フィールドにアクセスする: 研究者のポジショナリティと研究倫理 第三回 ①質的テキストを分析する: コーディングとグラウンデッド・セオリー・アプローチ実践 ②研究計画をたてる: 先行研究・リサーチ・クエスションの設定・フィールド/対象の選定 第四回 ①話を聴く: インタビュー、生活史調査、ライフストーリー研究 ②《グループ・プロジェクト》テーマを設定し、インタビュー・ガイドラインの検討 第五回 ① インタビューの技法と授業内ミニ実践 ②《グループ・プロジェクト》データ収集の進捗状況確認、コーディングの検討 第六回 ①質的研究法を使って論文を書く: 良い質的研究論文の条件 ②《グループ・プロジェクト》次週の発表準備: コードから仮説生成へ 第七回 プロジェクトのグループ発表
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	小田博志 2010 『エスノグラフィー入門―〈現場〉を質的研究する』春秋社。 佐藤郁也 2007 『フィールドワーク増訂版―書を持って街へ出よう』新曜社。
参考書	エマーソン&comma; R. 1998. 『方法としてのフィールドノート―現地取材から物語作成まで』新曜社。 佐藤郁也 2002『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。 藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社。
履修上の注意・備考	フィールドワークの理論と実践
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09252403	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 2
講義題目	比較社会学の方法 Methods and Approaches in Comparative Sociology				

授業の目的・概要	社会学は、もし異なった社会的・歴史的環境に置かれていたら、今の自分とは異なる価値判断をしていたかもしれないという想像力を比較によって喚起する。この比較には様々な単位がありうるが、本講義では国民国家を単位とした比較における日本社会の特徴に焦点をおき、その理論化と実証のための方法を先行研究から学んでいく。根拠のない特殊性論や文化還元主義的のトトロロジー、あるいは自覚なく欧米中心主義や計量帝国主義に依拠することの問題点を理解できるようになることが目標である。
授業計画	第 1 回: イントロダクション: 何のために比較するのか 第 2 回: 日本社会は特殊か 第 3 回: 他社会との比較からみた日本の教育(1) 第 4 回: 他社会との比較からみた日本の教育(2) 第 5 回: 他社会との比較からみた日本の教育(3) 第 6 回: 他社会との比較からみた日本の労働(1) 第 7 回: 他社会との比較からみた日本の労働(2) 第 8 回: 他社会との比較からみた日本の労働(3) 第 9 回: 教育システムと労働市場の制度的相補性 第 10 回: 量的研究・質的研究と実証 第 11 回: オリエンタリズムを乗り越える 第 12 回: 比較社会学の方法: 理論と実証 第 13 回: まとめと期末課題について
授業の方法	授業は、教員による講義を中心にしつつ、受講学生による議論を組み合わせる形式でおこなう。いくつかの回では、指定された文献を読み、事前あるいは事後に講読票を提出してもらう。また、いくつかの回では、授業での議論を踏まえてコメントを提出してもらう。
成績評価方法	上述の①講読票、②コメントシートに加え、③期末レポートの提出を課す。また、④授業への積極的な参加についても一定程度加味する。以上 4 点の評価のウェイトは、①3 割、②3 割、③3 割、④1 割である。
教科書	授業で用いる文献は、授業内に指示する。
参考書	授業で中心的に取り上げる文献のうち、書籍として出版されているものを以下に挙げる(おそらく手に入りにくいものもある)。 エミール・デュルケーム, 1897=1985, 『自殺論』中公文庫。 ルース・ベネディクト, 1946=1948, 『菊と刀: 日本文化の型』講談社学術文庫。 ジェームズ・アベグレン, 1958=2004, 『日本の経営<新訳版>』日本経済新聞社。 中根千枝, 1967, 『タテ社会の人間関係: 単一社会の理論』講談社現代新書。 ウォルター・ワラス, 1971=2018, 『科学論理の社会学: 「ワラスの輪」というモデル』
履修上の注意・備考	比較社会学の方法
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252404	担当教員	荻巣 崇世		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	国際教育開発論 International Education Development				

授業の目的・概要	本講義では、教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味を、理論と実践の両面から考えていく。特に、現代のグローバル化する世界において、教育はどのような課題に直面しているのか、同時に、教育にはどんな役割が期待されているのかを、具体的な事例に基づいて検討していく。 本講義は前半・後半の二部構成で展開する。第一部では、広い意味で「教育」という営みを理解した上で、教育と社会の関係を捉えていく。教育学、経済学、社会学、哲学など多方面から、「教育」を「開発」することの意味について考えるとともに、国際教育開発の歴史と潮流を整理する。 第二部では、グローバル化する世界において教育が抱える様々な課題を取り上げ、これらの課題に対してこれまでどのような国際協力・国際開発が行われてきたのか、また、教育開発が現地の人々にどのような影響を及ぼしてきたのかについて、途上国に限らず日本の事例なども取り上げて具体的に見ていく。参加者の興味関心に基づき、可能な場合には各分野の専門家の話を聞く機会も設ける。 本講義では、知識、批判的思考、コミュニケーション、態度・行動の 4 つの領域においてそれぞれ以下のような知識とスキルを身につけることを目指す。 知識:教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味をふまえて、国際教育開発の歴史と潮流、実践上の課題や難しさを理解する。 批判的思考:世界が直面している教育課題に関心を持ち、自分自身の経験や身近な現実と結びつけて考えて説明することができる。 コミュニケーション:他者の意見を聞きながら自分のスタンスを明確にし、資料やデータを使って効果的に意見を表明できる(口頭およびレポート)。 態度・行動:授業で扱うトピックについて理解を深めたり、新しい意見や見方を学んだりするため、多様な意見を持つクラスメイトと対話し協力することができる。
授業計画	第1回:オリエンテーション、シラバスと評価方法の説明 第2回:「教育」とは何か?:教育学の考察 第3回:「教育」と「社会」:社会学的考察 第4回:「教育」と「経済発展」:経済学的考察 第5回:「教育」と「開発」:教育開発の歴史と潮流 第6回:「国際」と「教育」と「開発」:哲学的考察 第7回:現代の教育課題①:教育の格差 第8回:現代の教育課題②:教育の質と学び 第9回:現代の教育課題③:教育の内容と方法 第10回:現代の教育課題④:人の移動と教育 第11回:現代の教育課題⑤:SDGsと教育 第12回:現代の教育課題⑥:教育のグローバリゼーション 第13回:第二部の振り返り
授業の方法	本講義は学生の主体的な学びを中心に進める。そのため、各自が授業前に内容のある程度理解し、自分なりの問いや考えを持って授業に臨むことが欠かせない。授業は、それぞれが持ち寄った問いや意見を共有し、受講者同士が学び合う場となるよう、ディスカッションやグループワークを中心に進めていく。 基本的には、毎回の講義に参加する前に指定された文献を読み、簡単なコメントペーパーを講義のグループサイトにアップする。コメントの内容は読んだ文献の筆者への質問や疑問でも良いし、文献の内容を身近な例に引きつけて考えたことでも良く、20
成績評価方法	授業への参加・貢献度:20% コメントペーパー:30% レポート:50%
教科書	各回の課題文献については講義の中で提示するが、以下を本講義の主なテキストとして使用する。 荻巣崇世・橋本憲幸・川口純編『国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論』、2021 年、東信堂
参考書	黒田一雄・横関祐見子編『国際教育開発論—理論と実践』、2005 年、有斐閣 北村友人・佐藤真久・佐藤学編『SDGs 時代の教育:すべての人に質の高い学びの機会を』、2019 年、学文社
履修上の注意・備考	国際教育開発論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09252405	担当教員	本多 真隆		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 2
講義題目	家族と親密な関係の社会学 The sociology of families and intimate relationships				

授業の目的・概要	「家族」は、私たちにとって身近で普遍的な存在のように思われやすいが、実は時代や社会のあり方によって大きく変わる。近年では少子化や未婚化など、家族に関する状況の変化が注目を集めているが、その背景にはグローバル化に伴う戦後日本の社会構造の変容が大きく関わっている。 さらに近年の家族社会学では、「家族の多様化」が重要なトピックとなっており、国内外でその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族社会学研究はこうした動向を知ることなしに理解することは難しい。 受講生は講義を通じて、近現代日本の家族の変遷、また家族社会学の理論の概要を学び、現代の家族の諸問題について、歴史的背景と理論的枠組みを踏まえた考察ができるようになる。
授業計画	1 イントロダクション―家族と社会 2 「家族」とは何か―「近代家族」の成立 3 「家」と「家庭」―日本型近代家族の形成 4 戦後日本家族の形成と特徴―高度経済成長と家族 5 ポスト工業化社会の家族問題―平成期の社会構造の変化と家族 6 未婚化と少子化―昭和期家族モデルの機能不全 7 共働き社会の国際比較―女性の働き方の多様性 8 「結婚」を捉え直す―Intimacy をめぐる現状と理論 9 「扶け合い」を捉え直す―Care をめぐる現状と理論 10 「家族」を捉え直す―Family の変換 11 家族研究学説史―家・ムラ理論、近代化論からマルクス主義まで 12 家族研究学説史―近代家族論、構築主義、個人化論からケア論まで 13 総合討論
授業の方法	基本的には講義をメインに構成される。受講者の状況に応じて、発表、ディスカッションの回を設ける場合もある。詳細は授業の初回に説明する。
成績評価方法	レポート試験(70%)と出席状況、リアクションペーパー(30%)。発表を課す場合はレポート試験に代替される。
教科書	開講時に適宜文献を配布、紹介する。
参考書	Deborah Chambers & Pablo Gracia , 2021, A Sociology of Family Life, Polity. 本多真隆 , 2023, 『「家庭」の誕生』筑摩書房. 落合恵美子, 2019, 『21 世紀家族へ [第 4 版]』有斐閣.
履修上の注意・備考	家族と親密な関係の社会学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252406	担当教員	古田 雄一		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	比較教育行政論 Comparative Study of Educational Administration				

授業の目的・概要	本授業では、アメリカの教育制度・政策の変遷や現代的動向について学び、日本との比較も取り入れながら、その特徴や課題について考察することにより、教育行政のあり方について多面的に理解できるようになることを目的とする。
授業計画	1. イントロダクション 2. アメリカの教育制度の概要(1) 3. アメリカの教育制度の概要(2) 4. 学力保障をめぐる教育改革の変遷(1)1960 年代～ インプット重視の平等保障政策 5. 学力保障をめぐる教育改革の変遷(2)1990 年代～アウトカム重視の教育改革 6. 学力保障をめぐる教育改革の変遷(3)2010 年代～ 改革の見直しと現代的動向 7. 教育の質保証と評価(1)学校評価 8. 教育の質保証と評価(2)教員評価 9. 学校／教育における選択(1)学校選択 10. 学校／教育における選択(2)学校以外の選択肢 11. 学校的意思決定への保護者・住民・生徒の参加 12. 公教育と政治 13. まとめと振り返り
授業の方法	主に講義形式で行うが、人数に応じて受講者間でのディスカッションなども取り入れる。 また、毎回の授業で振り返りの小課題(リアクション・ペーパー)を課す予定である。
成績評価方法	・レポート課題(約 50%) ・平常点(約 50%)・・・授業で課す小課題、授業への参加・貢献度等を総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。資料を配布する。
参考書	・北野秋男・吉良直・大桃敏行編『アメリカ教育改革の最前線―頂点への競争』学術出版会、2012 年。 ・リチャード・エルモア『現代アメリカの学校改革―教育政策・教育実践・学力』同時代社、2006 年。 ・ケネス・ハウ『教育の平等と正義』東信堂、2004 年。 ・西野倫世『現代アメリカにみる「教師の効果」測定―学力テスト活用による伸長度評価の生成と功罪』学文社、2024 年。 ・古田雄一『現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革―教室・学校・地域の連関の創造』東信堂、2021 年。 ・山下晃一『学校評議会制度における政策決
履修上の注意・備考	比較教育行政論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252407	担当教員	今村 聡子		
単位数	2	学 期	A1	時 限	水 5, 水 6
講義題目	教育法 Educational Law				

授業の目的・概要	教育基本法・学校教育法をはじめとする我が国の教育関係法令の体系やその広がりについて理解するとともに、近年の教育関係法令改正における論点について議論・考察することを通じて、法的思考力(リーガルマインド)をよりよい教育(行政)実践に生かす素地を養うことを目標とする。 この科目は教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学(公)法律学(国際法を含む)である。
授業計画	第1回・第2回 イン트로ダクション、教育に関する法令の分類と体系1:体系とその広がり 第3回・第4回 教育に関する法令の分類と体系2:学校教育関係の法令 第5回・第6回 教育法学の概観 第7回・第8回 近年の法改正とその論点1:教員人材確保関係 第9回・第10回 近年の法改正とその論点2:修学支援関係 第11回・第12回 近年の法改正とその論点3:児童生徒の性暴力被害防止関係 第13回・第14回 近年の法改正とその論点4:大学の研究振興とガバナンス関係、まとめ 第7回以降で取り上げる事項については予定であり、直近の法改正及び受講者の興味・関心等に応じて差し替える可能性がある。 また、第7回以降で教育委員会職員をゲストとする授業を設ける予定。
授業の方法	講義形式(対面のみ) 資料や講義による講師からの話題提供と、講師と学生及び学生間の対話やグループワークにより進める。 毎回(2時限連続授業のため、2時限目の最後に)リアクションペーパー記入時間を設ける。
成績評価方法	授業における議論への貢献度・出席状況(60%)、リアクションペーパー(40%)
教科書	特に指定しない。必要な資料は配布する予定。
参考書	授業では直接使用しないが、文部科学省職員が利用している代表的なものとして以下を挙げる。 『文部科学法令要覧』(ぎょうせい) 『逐条解説 改正教育基本法』(田中壮一郎、教育基本法研究会、第一法規) 『逐条 学校教育法』(鈴木勲、学陽書房) 『国立大学法人法コンメンタール 改訂版』(国立大学法人法制研究会、ジアース教育新社) 『逐条解説 地方教育行政の組織及び運営に関する法律』(木田宏、教育行政研究会、第一法規)
履修上の注意・備考	教育法 受講生の中に国家公務員志望者がいる場合は、希望に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れる予定。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学 (公)法律学(国際法を含む)

時間割コード	09252408	担当教員	神林 寿幸		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	教育政策の計量分析入門 Introduction to Quantitative Analysis of Education Policy				

授業の目的・概要	教育政策研究の方法の一つに、計量分析があります。国内外の教育行政学では、教育政策に関する計量分析が急速に発展し、近年ではエビデンスに基づく教育政策も重視されます。研究の場面だけでなく、教育実務や日常生活でも、正確に教育政策を量的な側面から検証を行い、その結果を適切に解釈する能力が重要です。 本授業では、フリーの統計解析パッケージである R を用いて、教育に関するデータの取り扱いと基礎的なデータ分析の方法を学びます。自分で設定したりサーチ・クエスチョンに答えるために必要な教育データを構築し、そのデータを正確に分析し、結果を解釈して考察できるようになることを目指します。 One of the methods in educational policy research is quantitative analysis. In the field of educational administration, both domestically and internationally, quantitative analysis related to educational policy has rapidly advanced. In recent years, evidence-based educational policy has also been emphasized. It is important not only in research settings but also in educational practice and daily life to accurately conduct quantitative analysis of educational policy and appropriately interpret the results. In this course, we will use the free statistical analysis package R to learn how to handle educational data and basic data analysis methods. The goal of this course is to construct the educational data necessary to answer your own research questions, accurately analyze the data, and interpret and discuss the results.
授業計画	1 イントロダクション 2 R のインストール、R の基本操作、データの読み込み 3 記述統計量の確認 4 t 検定—2 群の平均値の差を比較する 5 分散分析—3 群以上の平均値の差を比較する 6 相関と偏相関 7 単回帰分析 8 重回帰分析 9 クロス集計 10 ロジスティック回帰分析 11 因子分析 12 主成分分析 13 全体の振り返りと補足 1 Introduction 2 Installing R, Calculations using R, and Reading data into R 3 Calculating descriptive statistics 4 t-test 5 Analysis of Variance (ANOVA) 6 Correlation and Partial Correlation 7 Single Linear Regression 8 Multiple Linear Regression 9 Crosstabulation 10 Logistic Regression Analysis 11 Factor Analysis 12 Principal Component Analysis (PCA) 13 Summary and Appendix
授業の方法	本授業は講義と演習から構成されます。まず、各単元の内容を担当教員が解説します。その後、解説を踏まえて、統計解析パッケージ R を使い、各自またはペア・グループで演習問題に取り組みます。 This course consists of lectures and exercises. First, the instructor will explain the content of each unit. Then, based on the explanation, stu
成績評価方法	各単元の演習問題 (50%)、最終レポート (50%) Exercise problems for each unit (50%), Final report (50%)
教科書	教科書は特に指定しません。授業資料を配布します。 No specific textbook is required. Course materials will be distributed.
参考書	※以下の書籍は購入不要ですが、図書館なども活用して、積極的に参照してください。 平井明代・岡秀亮・草薙邦広編著 (2022)『教育・心理系研究のための R によるデータ分析』東京図書 (定価: 3300 円、ISBN: 978-4-489-02377-4) 川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之 (2018)『R による多変量解析入門—データ分析の実践と理論』オーム社 (定価: 3,740 円、ISBN: 978-4-274-22236-8) 林賢一著・下平英寿編 (2020)『R で学ぶ統計的データ解析』講談社 (定価: 3300 円、
履修上の注意・備考	教育政策の計量分析入門
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252409	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	英語教授法・学習法概論 An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English				

授業の目的・概要	・言語教育・人文科教育学などの流れの中で英語教育がどのような位置付けがなされているのか、理解する。 ・英語教育に必要な基礎知識(母語・第二言語習得, 外国語教授法, 4 技能 5 領域、学習者理論等)を概観し、これらの理解を深める ・各自の外国語教育・学習歴を振り返り、英語教育・英語学習に対する認識を深める ・効果的な英語教授法・学習法について歴史を踏まえて考察し、これからの英語教授法・学習法を展望する 以上の目標達成を目指して、状況に応じながら、双方向的な授業を行います。
授業計画	第 1 回: イントロダクション: 言葉の教育をめぐる現状分析 第 2 回: 言葉を学ぶために必要な研究領域 第 3 回: 教授法と学習法 第 4 回: 英語教育学、日本語教育学、国語教育学と教授法 第 5 回: 外国語教授法と英語教育学 第 6 回: 聞くことの指導と学習 第 7 回: 読むことの指導と学習 文法教育 第 8 回: 読むことの指導と学習 読解と解釈、批評 第 9 回: 話すことの指導と学習 第 10 回: 書くことの指導と学習 第 11 回: これからの英語教授法 第 12 回: これからの英語学習法 第 13 回: 授業のまとめ 第 14 回: 教授法と学習法に関するまとめの最終試験 ※注意: 上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。
授業の方法	・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習・受講者のプレゼンテーションを組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。 ・LMS での教材配布、ZOOM での授業を組み合わせる予定です。
成績評価方法	・課題 70%、最終試験 30% ・上記にグループワークの成果、発表、最終レポート等も踏まえて、総合的に評価します。
教科書	・教材を配布します
参考書	・Jim Scrivener (2011) Learning Teaching. Macmillan Education. ・伊村元道『日本の英語教育 200 年』大修館書店 ・田崎清忠編『現代英語教授法総覧』大修館書店 ・月刊「英語教育」大修館書店 その他は授業中に紹介します
履修上の注意・備考	英語教授法・学習法概論 ・本講義は、以下の日程の予定で行う集中講義です: 8 月 28 日(木)2～4 限、8 月 29 日(金)1～4 限、9 月 1 日(月)1～4 限、9 月 2 日(火)2～4 限 ・初回授業(8 月 28 日 2-4 限)は対面で行います。 ・授業運営や内容についてお知らせがある際、ITC-LMS で行います。 ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、LMS のお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252410	担当教員	小川 義和		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。 博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。
授業計画	第 1 回 博物館教育の意義と理念(1)学びの意義 第 2 回 博物館教育の意義と理念(2)博物館教育の範囲 第 3 回 博物館教育の意義と理念(3)博物館教育の特徴 第 4 回 博物館教育の意義と理念(4)博物館教育の歴史 第 5 回 博物館教育の意義と理念(5)生涯学習の場としての博物館 第 6 回 博物館教育の意義と理念(6)人材養成の場としての博物館 第 7 回 博物館教育の意義と理念(7)博物館における学びの特性と学習理論 第 8 回 博物館教育の意義と理念(8)ミュージアムリテラシーの理念と構成 第 9 回 変化する社会における博物館教育(1)コミュニケーションとしての博物館教育 第 10 回 変化する社会における博物館教育(2)博物館の利用実態と利用者の博物館体験 第 11 回 変化する社会における博物館教育(3)博物館教育の方針と評価・博物館教育と学校教育 第 12 回 博物館教育の実践(1)博物館教育活動の企画と実際(1) 第 13 回 博物館教育の実践(2)博物館教育活動の企画と実際(2)
授業の方法	各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。 受講生は最終回に課題を提出する。
成績評価方法	講義の出席・提出報告書(6 割)及び最終課題(4 割)で判断する。
教科書	使用しない。
参考書	ジョージハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社、2010) 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版、2012) 小川義和・五月女賢司編著「挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ!!」(ジダイ社、2018) 小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」(ジダイ社、2019) 小川義和・五月女賢司編著「発信する博物館 持続可能な社会に向けて」(ジダイ社、2021)
履修上の注意・備考	博物館教育論 https://www.river-museum.jp/
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252411	担当教員	山内 祐平		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 2
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。 知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る 技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける
授業計画	2025/04/16 オリエンテーション 授業の概説 2025/04/23 デジタル教材概論 領域の概論 2025/04/30 ゲストトーク 2025/05/07 初等中等教育での展開 Khan Academy 2025/05/14 高等教育での展開 Minerva Schools 2025/05/21 幼児教育での展開 Kits 2025/05/28 企業内教育での展開 Sakidori Pocket OJT 2025/06/04 オープンエデュケーシ ョン Coursera 2025/06/11 シリアスゲーム Minecraft 2025/06/18 GIGA スクール Google for Education 2025/06/25 AI の活用 Academic Term Converter 2025/07/02 ゲストトーク 2025/07/09 ワークショップ CAMP 2025/07/16 カフェ での学び UTalk (ゲストとの調整で一部変更の可能性があります)
授業の方法	1)担当グループが事例研究を行い発表する 2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討 する 3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める 4)教育・学習研究の概念との接続について教 員が解説する
成績評価方法	毎回の小レポート評価(50%) グループの事例研究報告の評価(25%) グループ議論における貢献と発見(25%)
教科書	山内祐平「学習環境のイノベーション」東京大学出版会、2020
参考書	山内祐平・池尻良平・澄川靖信「EdTech で創る未来の探究学習」明治図書、2024 堀田龍也・山内祐平監修「クラウド で育てる 次世代型情報活用能力」小学館、2021 山内祐平・森玲奈・安斎勇樹「ワークショップデザイン論」慶応大学 出版会、2013
履修上の注意・備考	学習環境のデザイン 本授業は対面での参加を原則とし、特別な事情がある場合のみオンライン参加を認めるハイブリッド形式で行う。 各種 資料の提供およびレポート提出は ITC-LMS で行うため、そちらも履修登録を行うこと。 4 月 16 日(水)10:30 より対面 でオリエンテーションを行ないます。 (赤門横情報学環・福武ホール B2 福武ラーニングスタジオ 1)
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252412	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。また、博物館以外の文化・教育施設（公共ホール、公民館、図書館等）、文化的な活動が生起する空間も視野に入れる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 博物館学の目的・方法・構成 3. 博物館という思想 4. 博物館の定義 5. 博物館史(1) 古代ギリシア～17 世紀 6. 博物館史(2) ペーコン～19 世紀 7. 博物館史(3) 文明のなかの博物学 8. 博物館史(4) 近代日本の博物館 9. 博物館と社会 10. 記憶の場所としての博物館(1) 想起について 11. 記憶の場所としての博物館(2) 東京大学との関わり 12. ゆっくり見る(1) 13. ゆっくり見る(2) 14. 博物館をとりまく人 15. まとめ
授業の方法	基本は対面講義とする予定だが、オンライン授業とする場合もある。博物館見学や、手配がつけばゲスト講義等もおりまぜる予定である。
成績評価方法	最終レポート(50%)および授業中に出す課題(50%)による。
教科書	シャリー・ティシュマン著、北垣憲仁・新藤浩伸訳『スロー・ルッキングーよく見るためのレッスン』東京大学出版会、2025（近刊）
参考書	山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造』水曜社、2024 中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕編『触発するミュージアム』あいり出版、2016 その他授業中に指示する。
履修上の注意・備考	博物館概論 ICOM: The International Council of Museums http://icom.museum/
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252413	担当教員	福島 幸宏		
単位数	2	学 期	A2	時 限	木 1, 木 2
講義題目	図書館・博物館情報メディア論 Information Media in Library and Museum				

授業の目的・概要	図書館・博物館等における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、情報を活用するための前提となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持てることも目標とする。 Developing Fundamental Skills for Providing and Utilizing Information in Libraries, Museums, and Similar Institutions. This includes presenting the practical aspects of the field, addressing intellectual property rights and information ethics as foundational elements for information utilization. Additionally, the goal is to cultivate a perspective that considers information media from its historical context.
授業計画	1. 資料と情報の過去 2. 資料と情報の現在 3. 資料と情報の未来 4. 文化資源をめぐる関係制度・法制 5. 図書館・博物館等の情報の流通と連携 6. 施設見学 7. 文化資源を拓く
授業の方法	講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各回ごとに意見等の提出を求める。 While the primary mode of instruction is through lectures by the instructor, active participation from participants is encouraged, with regular opportunities for them to contribute their thoug
成績評価方法	授業中の発言等を通じての授業への参加（10%）、レポート（90%）を総合的に評価する。 The overall evaluation will be based on active participation during class discussions（10%）and comprehensive assessment of reports（90%）.
教科書	指定しない。 Unspecified.
参考書	アーカイブズ学用語研究会. (2024). アーカイブズ学用語辞典. 柏書房. 岡田一祐. (2019). ネット文化資源の読み方・作り方. 文学通信. 数藤雅彦（責任編集）. (2022). 知識インフラの再設計. 勉誠出版. 長尾真. (1994). 電子図書館. 岩波書店.（新装版は 2010 年） 日本図書館情報学会（編）. (2023). 図書館情報学事典. 丸善出版. 庭田杏珠., & 渡邊英徳. (2020). AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争. 光文社. 蛭田廣一
履修上の注意・備考	図書館・博物館情報メディア論 講義内容は進行状況によって前後する場合がある。 また、状況によってはゲスト講師を依頼することもある。 The lecture content may vary in sequence depending on the progress, and there might be instances where guest speakers are invited based on the situation.
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252414	担当教員	茂里 毅、李 正連、新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

授業の目的・概要	人生 100 年時代、Society5.0 の到来、DX の急速な進展など、急速な変化を続ける社会においては、生涯学習・社会教育の役割も、従来の枠にとどまらず、時代・社会の変化に見合ったものに変化していくことが求められている。経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング (Well-being)」の考え方が重視されてきており、我が国においても教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。 VUCA の時代とも呼ばれる予測困難な時代においては、学校教育終了後も人生の諸段階に応じて様々な学びが不可欠となる。今後は時代のニーズに即して職業上新たに求められるスキルを習得するためのリスクリング、社会人を対象とした職業能力等の向上のためのアップスキリングにとどまらず、社会の変化に対応して年齢を問わず必要となる基礎的なスキルの習得のための学習や、自己実現を図る上で必要となる学習等も含めた広い意味でのリカレント教育を個々人のニーズに応じえて受けられる機会の充実を図り、生涯を通じたウェルビーイングの実現につなげることが重要である。 また、生涯学習・社会教育は、人々の生活基盤を形成する「学び」の実践を核とした地域づくりのための営みという性格を強く持っており、これまでもコミュニティ形成の基盤となる役割を担ってきた。今後はデジタル社会において不可欠となるデジタルデバイドの解消等の新たな課題にも対応し、各地域において誰一人取り残さない社会的包摂を実現することで、個人だけではなく地域社会のウェルビーイングにもつなげることも求められている。 本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育について、地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに、今後の展望を考察する。 文部科学省や地方公共団体において生涯学習政策、社会教育政策、教育行政等を担当する、あるいは担当した経験のある文部科学省職員による講義も設けたい。また文部科学省職員と受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え、感じながら施策の立案・推進に当たっているかを披瀝しつつ、今後の政策についてともに考える「開かれ、つながる」講義としたい。
授業計画	(若干変更する可能性あり) 1. 教育政策の全体像と方向性 2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題 3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題 4. 学校・地域の連携・協働、大学と地域との連携 5. 共生社会に関する学習の現状と課題 6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話・意見交換 等
授業の方法	講義、討議等
成績評価方法	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする。
教科書	特になし
参考書	講師が講義の中で必要な資料を配付する予定。
履修上の注意・備考	生涯学習政策論 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252415	担当教員	田所 祐史		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	社会教育経営論 Management of Adult and Lifelong Learning				

授業の目的・概要	社会教育概念、法制、行政、機関・施設等の概要について基礎的な理解をした上で、地域社会を舞台に住民主体で学ぶ環境・条件と、学びの実践についてつかむことを目標とする。 現代社会教育の現状と課題の理解、日本社会教育史(主に 20 世紀前半)の理解を通じて、理論と実践、歴史から「社会教育経営」をとらえる視座と力量を獲得することを目指す。 また、受講生の興味関心や問題意識にもできる限り応じた、柔軟な授業展開に努める。
授業計画	1. ガイダンス 社会教育概念 2. 社会教育法制・社会教育行政 3. 社会教育機関・施設(社会教育事業・経営の実際——公民館を中心に) 4. 日本社会教育史① 日露戦後～戦間期 5. 日本社会教育史② 戦間期～戦時期 6. 日本社会教育史③ 占領期 7. 日本社会教育史④ 高度経済成長期 8. 連携・協働 地域社会と社会教育 9. 連携・協働 教育福祉 10. 連携・協働 地域づくり 11. 社会教育実践の現状と課題① (社会教育機関・施設の見学等のフィールドワークまたは理論・歴史・実践検討) 12. 社会教育実践の現状と課題②(同上) 13. 社会教育実践の現状と課題③(同上) 14. 社会教育実践の現状と課題④(同上) 15. 社会教育実践の現状と課題⑤(同上)
授業の方法	・対面のみで開催予定。 ・レジュメと資料プリント、教科書で講義する。適宜、映画・ドキュメンタリーなども視聴。 ・受講生と検討の上で、社会教育施設・機関や社会教育史関連の見学など、フィールドワーク実施を予定。 (最終日の終日を予定。参加人数規模、見学先の状況等を勘案し、代替等の選択も相談の上で検討)
成績評価方法	期末レポート 60%、主体的な授業参加や指定課題など 40%
教科書	【必携】 大串隆吉・田所祐史 『日本社会教育史』[改訂版]有信堂高文社、2024 年 3 月(本体 2,000 円＋税) ISBN 978-4-8420-8531-9 ※ 2021 年刊行の初版は使わない。[改訂版]を予め必ず入手のこと。レポート等で必要。
参考書	講義中に紹介する。 ・『月刊社会教育』(旬報社)などで社会教育の現状や課題をつかむこと。 ・『社会教育・生涯学習事典』朝倉書店、2012 年 ・社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』第 9 版、エイデル研究所、2017 年
履修上の注意・備考	社会教育経営論 ・対面以外での連絡先・方法は、特に指示のない限りは、以下に示すアドレス宛のメールに限定する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252416	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	図書館サービス論 Library Services				

授業の目的・概要	図書館におけるサービスは、その対象や図書館の種類によってさまざまである。そういったサービスをその歴史や関係する法制度とともに概観しつつ、図書館が競合するサービスとの関係の中でどのように位置づけられているのかを明らかにする。
授業計画	1 オリエンテーション 2 図書館サービスの基本 3 資料提供サービス 4 情報サービス 5 館種ごとのサービス 6 利用対象者ごとのサービス 7 中間まとめ 8 広報、企画、集会活動 9 図書館協力 10 図書館と法制度 11 図書館以外における同種のサービス 12 これからの図書館サービス 13 最終まとめ
授業の方法	教科書は使わず、レジュメを配布する。
成績評価方法	授業への積極的参加およびテストによって評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	図書館サービス論 UTOL からレジュメをダウンロードできるようにする予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252417	担当教員	小山 憲司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 4
講義題目	大学図書館サービス論 University Library Services				

授業の目的・概要	大学図書館は、大学の組織の一部である。したがって大学図書館は、大学が果たすべき使命、すなわち研究、学習・教育、そして社会貢献を十全に達成できるよう、そのサービスを構築し、運用することが求められる。本授業では、これら大学の 3 つの使命を切り口として、大学図書館サービスの現状および課題を明らかにし、今後のサービスのありかたについて検討する。 Academic libraries are part of the universities to which they belong. Therefore&comma; academic libraries are expected to develop and operate their services to achieve the universities' mission of research&comma; learning and teaching&comma; and social contribution. This course will consider the functions&comma; roles&comma; and services of academic libraries and examine their current status&comma; challenges&comma; and prospects.
授業計画	1. ガイダンス、大学図書館の利用者を知る 2. 高等教育政策と大学図書館 3. 身近な大学図書館を知る(1): 課題提示 4. 身近な大学図書館を知る(2): 発表、まとめとふりかえり 5. 大学図書館を支える学術情報基盤 6. 大学図書館と学習支援 7. 多様な学習支援を考える(1): 課題提示 8. 多様な学習支援を考える(2): 発表、まとめとふりかえり 9. 大学図書館と研究支援 10. 多様な研究支援を考える(1): 課題提示 11. 多様な研究支援を考える(2): 発表、まとめとふりかえり 12. 大学図書館と資料保存 13. 大学図書館サービスの課題と今後の展望 14. まとめ
授業の方法	講義、グループワーク、グループワークの成果発表と議論
成績評価方法	期末レポート 30%、授業への参画度 70%
教科書	テキストは使用しない。 授業で用いる文献は、その都度指示する。
参考書	竹内比呂也&comma; 逸村裕編『変わりゆく大学図書館』勁草書房&comma; 2005. 倉田敬子著.『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房&comma; 2007. 加藤信也&comma; 小山憲司共編訳.『ラーニング・コモンズ:大学図書館の新しいかたち』勁草書房&comma; 2012. ジョン・ポールフリー著&comma; 雪野あき訳.『ネット時代の図書館戦略』原書房&comma; 2016. クリスティン・L・ボーグマン著&comma; 佐藤義則&comma; 小山憲司共訳.『ビ
履修上の注意・備考	大学図書館サービス論 授業は対面を基本とするが、授業内容等に応じてオンラインで実施する場合もある。なお、授業を円滑に進めるために、UTOL(https://utol.ecc.u-tokyo.ac.jp/)を利用する予定である。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252418	担当教員	山田 翔平		
単位数	2	学 期	S2	時 限	金 1, 金 2
講義題目	情報組織論 Theories of Information Organization				

授業の目的・概要	伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の 2 つの中心であった。21 世紀は、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代であるが、今も目録と分類が情報組織化の重要な手法であることに変わりはない。 本授業の目的は、目録を中心とする情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および目録の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した目録法(おもに記述目録法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつある書誌コントロールの理論と技法を学ぶパートの順に進める。(2)では、目録の対象となる情報資源集合の構造について、とりわけ情報資源の同一性の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を一部行う予定である。
授業計画	1. 導入:図書館と情報組織化, 情報組織化と目録法 2. 目録の歴史(1):古代から 19 世紀まで, 目録の歴史(2):20 世紀以降 3. 記述目録法(1):『日本目録規則』, 記述目録法(2):書誌記入の構成要素と記述の原則 4. 記述目録法(3):図書・逐次刊行物の記述, 小テスト(1)と解説 5. メタデータ(1):目録法見直しの必要性, メタデータ(2):ダブリンコアと RDF 6. メタデータ(3):FRBR と RDA, 書誌コントロール(1):国立国会図書館, 書誌コントロール(2):書誌ユーティリティと IFLA 7. 書誌コントロール(3):非コントロール情報資源, 小テスト(2)と解説
授業の方法	基本的に講義形式と実習を交互に行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回授業資料を配布する予定。
成績評価方法	授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。
教科書	使用しない。毎回オリジナルの資料を配付する。
参考書	以下の 2 点のほかは授業中に随時紹介する。 ・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房, 1998。 ・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会, 2013。
履修上の注意・備考	情報組織論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252419	担当教員	今井 福司		
単位数	2	学 期	S1	時 限	金 1, 金 2
講義題目	学校経営と学校図書館 School Management and School Libraries				

授業の目的・概要	学校図書館は、学校図書館法において学校教育に資する施設であることが明記されており、学校教育を支える基盤とされている。しかし実態は一致しておらず、資料、予算、人、周囲の理解を含めて課題が多く残されている。このような状況の中では、司書教諭は単に求めに応じてサービスを提供するだけでなく、自ら積極的に周囲の教員や学校関係者に働きかけを行い、実践を展開せざるを得ない。この授業においてはそうした実践を展開するときに、必要となる知識や基本的なスキルを身につけることを目的とする。特に、学校経営の文脈だけに限らず、学校図書館に関わるあらゆる分野の基本的な内容を幅広く扱い、他の司書教諭講習相当科目に対する入門編とすることを意図している。 その上で、本授業では司書教諭として、学校内において積極的に学校図書館実践を展開していくために必要とされる基本的な知識を身につけた上で、学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、受講者がアイデアを提示できるようになることを目標とする。 The School Library Law clearly states that school libraries are facilities that contribute to school education&comma; and they are regarded as the foundation that supports school education. However&comma; the actual situation is not consistent&comma; and many issues remain&comma; including materials&comma; budget&comma; personnel&comma; and the understanding of the surrounding community. Under these circumstances&comma; librarians must not only provide services in response to requests&comma; but must also proactively encourage surrounding teachers and school personnel to develop their own practices. In this class&comma; we aim to acquire the knowledge and basic skills necessary to develop such practices. In particular&comma; it is intended to cover a wide range of basic content in all fields related to school libraries&comma; not only in the context of school management&comma; and to serve as an introduction to other subjects equivalent to the course for teacher librarians. In addition&comma; this course aims to provide students with the basic knowledge necessary to actively develop school library practices in schools as a teacher librarian&comma; and to enable them to propose ideas for school library practices that correspond to the objectives of school education.
授業計画	第 1 回 授業概要の説明、学校図書館に関する統計数字 第 2 回 学校教育実践における学校図書館、学校図書館関係法規と国、自治体の振興政策 第 3 回 アメリカ・日本における学校図書館史とその理念・意義 第 4 回 学習指導要領における学校図書館の扱い 第 5 回 学校図書館の整備Ⅰ メディアの選択と組織化 第 6 回 学校図書館の活動Ⅰ 読書センターとしての活動 第 7 回 多様なニーズに向けた学校図書館のあり方 第 8 回 学校図書館の活動Ⅱ: 学習・情報センターとしての活動 第 9 回 学校図書館職員の位置づけ 第 10 回 学校図書館の経営(学校教育計画の中での位置づけ)、学校図書館の評価と改善 第 11 回 著作権と学校図書館の関わり 第 12 回 学校図書館の整備Ⅱ 環境整備(施設・設備) 第 13 回 図書館の自由に関する宣言と学校図書館 第 14 回 情報教育と学校図書館の関わり 第 15 回 試験とまとめ
授業の方法	講義を中心とし、受講生の人数に応じて、ディスカッションや演習を取り入れた授業を行う予定である。授業前の予習復習時間は 1 コマあたり 4 時間を予定している。
成績評価方法	授業の参加(発言を頻繁に求める)、グループ・個人発表、授業時間外に取り組む課題(レポート)、小テストを 50%、最終試験もしくは最終課題を 50%として、総合評価 60%以上を単位認定の最低条件とする。
教科書	坂田 仰、河内 祥子(編著).『学校図書館への招待(第 2 版)』八千代出版 &comma; 2020. この他、頻繁にレジュメや参考資料を配布する。
参考書	根本彰編(著).『探究学習と図書館－調べる学習コンクールがもたらす効果』学文社&comma; 2012. 日本図書館協会 図書館利用教育委員会(編著).『問いをつくるスパイラルー考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011.

履修上の注意・備考	学校経営と学校図書館
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252420	担当教員	吉澤 小百合		
単位数	2	学 期	A2	時 限	金 1, 金 2
講義題目	探究学習の方法 Methodology of Inquiry Learning				

授業の目的・概要	学校図書館は学校の外にある外部知と学校教育とを繋ぐ窓口である。本科目ではまずアーカイブとドキュメントとの関係性について講じた上で、学校図書館が繋ぐ各種メディア活用についての理解を図る。次に、学習指導要領において重視されている探究学習について、学校図書館を通じた指導支援方法について紹介する。さらに近年の動向について理解を深めるため、下記の機関への見学及びゲストティーチャーへの質疑応答を予定している。 ・国際バカロレアカリキュラムの視点:東京学芸大学附属国際中等教育学校(訪問見学) ・学校カリキュラムの視点:軽井沢風越学園司書教諭・大作光子先生(オンラインでの質疑応答) ・デジタルアーカイブの視点:S×UKILAM 連携・大井将生先生(オンラインでの質疑応答) 本科目を履修することによって、①児童生徒が一人一台端末を所有する環境の中、敢えて学校図書館を活用する意義はどこにあるのかを説明できるようになること、②学校教育と学校図書館の活用が組み合わさる姿を具体的に想像できるようになることを目的とする。 ----- The school library is a contact point that connects school education with knowledge outside the school. In this course&comma; we will first discuss the relationship between archives and documents&comma; after which&comma; we will attempt to understand the use of various media connected to school libraries. Next&comma; I will introduce the methods of instructional support through school libraries for inquiry-based learning&comma; which is emphasized in the curriculum guidelines. By taking this course&comma; students will be able to (1) explain the significance of using school libraries in an environment where every student owns a device and (2) imagine the combination of school education and the use of school libraries. To deepen my understanding of recent trends&comma; I plan to visit the following institutions and people and conduct question-and-answer sessions with guest teachers. ・Tokyo Gakugei University International Secondary School (observation visit): To understand the perspective of the international baccalaureate curriculum: ・Mitsuko Daisaku&comma; teacher librarian at Karuizawa Kazakoshi Gakuen (online Q&A session): To understand the school curriculum perspective ・Masao Ooi&comma; S×UKILAM collaborator (online Q&A session): To understand the perspective of digital archives
授業計画	1. アーカイブとドキュメント 2. 学校図書館が繋ぐ各種メディアの活用 3. 学校図書館を通じた探究学習の指導と支援 4. 近年の学習指導と学校図書館の動向 4.1. 国際バカロレアカリキュラムの視点 4.1.1. 国際バカロレアカリキュラムと学校図書館 4.1.2. 事例:東京学芸大学附属中等教育学校 4.2. 学校カリキュラムの視点 4.2.1. 探究カリキュラムと学校図書館 4.2.2. 事例:軽井沢風越学園 4.3. デジタルアーカイブの視点 4.3.1. デジタルアーカイブと学校図書館 4.3.2. 事例:S×UKILAM 連携 5. 受講生による発表と質疑応答 6. 生成 AI 活用を含めた学習指導と学校図書館の今後
授業の方法	講義, 学校見学とゲストティーチャーへの質疑応答, 最終授業における発表とディスカッションが中心となる。
成績評価方法	・授業後、次の週の火曜日夜までに授業の内容を自分でまとめたものをオンラインにて教員へ送信する(40%)(※最終授業を除く) ・最終授業における発表内容(30%) ・最終授業におけるディスカッションへの貢献度(30%)
教科書	配布資料を使用する
参考書	・『知の図書館情報学』(根本彰著, 丸善出版, 2024 年, 978-4-621-31022-9) ・『調べる力がぐんぐん身につく藤田式「調べる学習」指導法 小学校編』(藤田利江著, 子どもの未来社, 2017 年, 978-4-864-12122-4) ・『改訂版学びの技』(登本洋子ほか著, 玉川大学出版部, 2023 年, 978-4-472-40631-7) その他, 授業中に紹介する。
履修上の注意・備考	探究学習の方法
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09252421	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、 小国 喜弘、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	ダイバーシティ・インクルージョン概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09253101	担当教員	中村 高康		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐる我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	さしあたり以下の内容を予定している(若干の変更の可能性あり。初回講義時に説明する)。 ①イントロダクション・教育社会学とは何か ②教育社会学のパラダイム1 ③教育社会学のパラダイム2 ④社会の中で生まれる一属性・社会化・言語- ⑤家庭の中で育つ一家族と教育- ⑥ 学校に入る一近代化と教育投資- ⑦学校の中で育つ1-学校の社会的機能- ⑧学校の中で育つ2-教育内容・教育方法と社会- ⑨学校の中で育つ3-学校安全・学校問題- ⑩学校から労働へ 就職とキャリア ⑪次の世代へ社会階層と教育- ⑫ジェンダーと教育 ⑬まとめ:現代の教育を見る視点
授業の方法	リアクションペーパーやコメントメモを提出してもらい、それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	通常のリアクションペーパーおよびコメントメモ(随時)のほかに、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は、リアクションペーパー他:期末レポート=40:60 の比で評価する。授業への参加度(発言等)も若干加味することがある。
教科書	特定の教科書は使用しない。必要な文献は授業時に適宜紹介する。
参考書	各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示する。 基礎的参考書としては、以下をあげておく。 中村高康・松岡亮二編(2021)『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房(教育格差を軸にした教職向け教科書) 酒井朗・多賀太・中村高康編(2012)『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房(キーワードの見開き解説) 本田由紀・中村高康編(2025)『[新訂]教育の社会学』放送大学教育振興会(より専門的な内容)
履修上の注意・備考	教育社会学概論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照 ※C 参照

時間割コード	09253102	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 3
講義題目	高等教育概論 Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	本講義は、高等教育の構造と機能についての理解を深めることを目標とする。基本的な概念・考え方の習得と、具体的な歴史と現状の検討を通じ、今ある高等教育を他でもあり得たものとして批判的に捉える視野を提供する。高等教育のあり方とそれを要請する教育外部の社会構造との相互作用に目を向けるため、異なる時代や異なる社会を取り上げて比較をおこなう。
授業計画	1. イントロダクション 2. 大学の歴史(1) 3. 大学の歴史(2) 4. 大学の歴史(3) 5. 戦前日本の高等教育(1) 6. 戦前日本の高等教育(2) 7. 戦後日本の高等教育(1) 8. 戦後日本の高等教育(2) 9. 欧米における高等教育(1) 10. 欧米における高等教育(2) 11. 高等教育の段階移行論 12. 日本の高等教育システムの特徴と課題 13. 総括
授業の方法	主に講義形式でおこなうが、授業時には発言や議論への参加を求めることがある。受講者には、指定された内容についてのリアクションペーパー等を課す。
成績評価方法	平常点(50%)、期末レポート(50%)
教科書	文献は授業時に指示する。
参考書	教科書としてそのまま用いるわけではないが、以下の書籍を持っておくと受講にあたって便利である。 橋本鉦市・阿曾沼明裕編, 2021, 『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房。 その他の文献は授業時に指示する。
履修上の注意・備考	高等教育概論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学[(公)社会学

時間割コード	09253103	担当教員	額賀 美紗子、荻巣 崇世、北村 友人		
単位数	2	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。 講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。 具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関する国際比較、②主に途上国における教育発展を扱う国際教育開発の理論と実践、③21 世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、④人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、である。 なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。
授業計画	第1週 (4/10 1コマのみ) 担当:額賀 比較教育学とは何か 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学力、学校文化、子育てなど具体的なテーマに関するデータを検討しながら、日本の教育を相対化して考える視点について学び、グローバル化時代における国際比較研究の意義を考える。 第 2 週 (4/17) 担当:額賀 国際移動と教育 日本社会の多民族化・多文化化の状況について学び、異文化間教育学・比較教育学の視点から移民背景をもつ子どもたちの教育機会について考える。特にこうした子どもたちの「差異」が日本の教育現場においてどのようにまなざされ、政策的・実践的に対応されているかについて、国際比較の視点を交えながら批判的に考察する。授業の後半は、ストックホルム大学の教員とオンラインで繋ぎ、スウェーデンの生涯学習や多文化政策についてレクチャーを受ける。 第 3 週 (4/24) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ①理論編 国際教育開発論について、比較教育学における意義と位置付け、課題と展望について概観する。特にカンボジアを事例として、国際教育開発が扱う研究課題や方法について理解を深めるとともに、価値観の押し付け論などの倫理的な問題についても考える。 第 4 週 (5/1) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ②実践編 カンボジアで活動する日本の NGO「SALASUSU」より、代表の青木氏ほか 2 名をゲストスピーカーとし、国際教育開発の実践に携わることへの思いや葛藤、今後の展望などについてお話を伺う。SALASUSU は「かものはしプロジェクト」から派生した団体で、カンボジアにおいて人身売買の危険に晒されている女性や子どもに対して独自のライフスキル教育プログラムを提供している。こうした具体的な活動について知り、実践者と対話することで、翻って比較教育学や国際教育開発論を学ぶことの意味を考える機会としたい。 第 5 週 (5/15) 担当:額賀 外国籍の子どもの教育を受ける権利 (横浜中華学校訪問) 日本には多くの外国人学校が存在し、外国籍だけではなく日本国籍の子どもがさまざまな理由から外国人学校を選択し、在籍している。しかし、その多くは学校教育法で定められた一条校ではないため持続的な運営に困難が生じやすく、地域社会や日本的一条校との間の関係構築が難しい場合がみられる。また、日本では外国籍の子どもに就学義務がないため、外国人学校に通う子どもの学ぶ権利は看過されがちである。この授業では横浜にある中華学校を訪問し、授業見学や生徒との交流を通じて外国人学校の存在意義や直面する困難について理解を深める。 第 6 週 (5/22) 担当:北村 比較教育学の国際的な視点からの捉え直し 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題について、グローバル化の影響を踏まえながら検討を加える。持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。 第 7 週 (5/29) 担当:北村 比較教育学の課題と展望 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。

授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 10%、毎回の授業におけるミニレポート課題（北村 30%、額賀 30%、荻巣 30%）
教科書	ジョエル・スプリング著、北村友人監訳 2023 『教育グローバル化のダイナミズムーなぜ教育は国境を越えるのか』東信堂。 ※北村の担当回で使用
参考書	恒吉僚子・額賀美紗子 2022 『新グローバル時代に挑む日本の教育ー多文化社会を考える比較教育学の視座』東京大学出版会。 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 2019 『移民から教育を考えるー子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』ナカニシヤ出版。 荻巣崇世・橋本憲之・川口純編 2021 『国際教育開発の挑戦ーこれからの教育・社会・理論』東信堂。
履修上の注意・備考	比較教育学概論 連絡先 北村友人:yuto.kitamura@gmail.com 額賀美紗子:nukaga@p.u-tokyo.ac.jp 荻巣崇世:ogisutak@p.u-tokyo.ac.jp
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09253201	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、西村 幸浩		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 I Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II～IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。 2 文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法。 3 文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。 4 文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。 5 文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説―作業仮説―検証。 6 文献講読。社会調査の目的。仮説―質問項目。 7 文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。 8 文献講読。質問紙のしくみ。 9 文献講読。ワーディングの注意点。 10 調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。 11 文献講読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。 12 研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等) 13 文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社)
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習 I 初回の授業は2限に行います。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09253202	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、西村 幸浩		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅲ Training in Research Methods for the Sociology of Education Ⅲ				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5 月：文献講読（実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ）、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6 月～7 月：仮説構成、調査票の作成（質問項目づくり、ワーディングの検討）。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』（2021年、法律文化社）
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』（2014年、オーム社） その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習Ⅲ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）社会学 （公）社会学

時間割コード	09253203	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、西村 幸浩		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習Ⅱ Training in Research Methods for the Sociology of Education Ⅱ				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅱ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用方法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。 2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。 3 調査票の構成と、質問文を作成する上での方法と留意点に関する講義。 4 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。) 5 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。) 6 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。) 7 エディティング、コーディング作業。同上 8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。) 9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。) 10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法) 11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。 12 報告書を作成する際の留意点について。 13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09253204	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、寺澤 さやか、西村 幸浩		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅳ Training in Research Methods for the Sociology of Education IV				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ～Ⅲ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅳ」では、「教育社会学調査実習Ⅲ」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。
授業計画	10 月：質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。 11～12 月：統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業、データクリーニング作業、集計表作成作業。 1～2 月：データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成、成果報告会。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』（2021年、法律文化社）
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』（2014年、オーム社） その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	教育社会学調査実習Ⅳ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）社会学 （公）社会学

時間割コード	09253205	担当教員	本田 由紀、荻巣 崇世、多喜 弘文、額賀 美紗子、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2	学 期	通年	時 限	水 6
講義題目	比較教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	各教員が第一回ゼミに説明する。
参考書	各教員が第一回ゼミに説明する。
履修上の注意・備考	比較教育社会学論文指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09253501	担当教員	本田 由紀、荻巣 崇世、多喜 弘文、額賀 美紗子、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2	学 期	通年	時 限	月 1
講義題目	比較教育社会学研究指導 Tutorial in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
参考書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
履修上の注意・備考	比較教育社会学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09254101	担当教員	上田 孝典		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 4
講義題目	社会教育論Ⅱ Theories of Adult Education Ⅱ				

授業の目的・概要	この授業では、戦後の社会教育の歴史、政策、法制度について概説する。また UNESCO を中心とする生涯学習理論との比較によって、日本の社会教育の独自性と課題について理解する。これらを通して、今後の社会教育のあり方と公教育として果たす役割について考察することができるようになる。 This class will provide an overview of the history, policies, and legal system of social education in the postwar period Japan. Through comparisons with UNESCO and other lifelong learning theories, students will understand the uniqueness and challenges of Japanese social education. The course will also examine the future of social education and the role it should contribute as public education.
授業計画	1. 近代の社会教育 2. 戦争と社会教育 3. 日本国憲法と社会教育 4. 社会教育法と社会教育の自由 5. 高度経済成長期の社会教育 6. 都市と農村の社会教育 7. UNESCO の生涯教育理論 8. CONFINTIA と学習権 9. 新自由主義と生涯学習政策 10. アンドラゴジーと成人学習論 11. 生涯学習政策と自治体合併 12. 地域づくりと社会教育 13. 社会教育士と社会教育主事
授業の方法	講義とディスカッション、必要に応じてワークショップやプレゼンテーションを課す
成績評価方法	レポート 50% 小レポート 30% 授業への参加状況 20%
教科書	授業において提示する。
参考書	国 立 教 育 政 策 研 究 所 『 公 民 館 に 関 す る 基 礎 資 料 』 https://www.nier.go.jp/jissen/book/r02/pdf/com_center_base_all.pdf UNESCO ”Global Report on Adult Learning and Education (GLARE)" https://www.uil.unesco.org/en/adult-education/global-report-grale?hub=270
履修上の注意・備考	社会教育論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09254102	担当教員	北村 友人、荻巣 崇世、額賀 美紗子		
単位数	2	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。 講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。 具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関する国際比較、②主に途上国における教育発展を扱う国際教育開発の理論と実践、③21 世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、④人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、である。 なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。
授業計画	第1週 (4/10 1コマのみ) 担当:額賀 比較教育学とは何か 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学力、学校文化、子育てなど具体的なテーマに関するデータを検討しながら、日本の教育を相対化して考える視点について学び、グローバル化時代における国際比較研究の意義を考える。 第 2 週 (4/17) 担当:額賀 国際移動と教育 日本社会の多民族化・多文化化の状況について学び、異文化間教育学・比較教育学の視点から移民背景をもつ子どもたちの教育機会について考える。特にこうした子どもたちの「差異」が日本の教育現場においてどのようにまなざされ、政策的・実践的に対応されているかについて、国際比較の視点を交えながら批判的に考察する。授業の後半は、ストックホルム大学の教員とオンラインで繋ぎ、スウェーデンの生涯学習や多文化政策についてレクチャーを受ける。 第 3 週 (4/24) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ①理論編 国際教育開発論について、比較教育学における意義と位置付け、課題と展望について概観する。特にカンボジアを事例として、国際教育開発が扱う研究課題や方法について理解を深めるとともに、価値観の押し付け論などの倫理的な問題についても考える。 第 4 週 (5/1) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ②実践編 カンボジアで活動する日本の NGO「SALASUSU」より、代表の青木氏ほか 2 名をゲストスピーカーとし、国際教育開発の実践に携わることへの思いや葛藤、今後の展望などについてお話を伺う。SALASUSU は「かものはしプロジェクト」から派生した団体で、カンボジアにおいて人身売買の危険に晒されている女性や子どもに対して独自のライフスキル教育プログラムを提供している。こうした具体的な活動について知り、実践者と対話することで、翻って比較教育学や国際教育開発論を学ぶことの意味を考える機会としたい。 第 5 週 (5/15) 担当:額賀 外国籍の子どもの教育を受ける権利 (横浜中華学校訪問) 日本には多くの外国人学校が存在し、外国籍だけではなく日本国籍の子どもがさまざまな理由から外国人学校を選択し、在籍している。しかし、その多くは学校教育法で定められた一条校ではないため持続的な運営に困難が生じやすく、地域社会や日本的一条校との間の関係構築が難しい場合がみられる。また、日本では外国籍の子どもに就学義務がないため、外国人学校に通う子どもの学ぶ権利は看過されがちである。この授業では横浜にある中華学校を訪問し、授業見学や生徒との交流を通じて外国人学校の存在意義や直面する困難について理解を深める。 第 6 週 (5/22) 担当:北村 比較教育学の国際的な視点からの捉え直し 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題について、グローバル化の影響を踏まえながら検討を加える。持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。 第 7 週 (5/29) 担当:北村 比較教育学の課題と展望 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。

授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 10%、毎回の授業におけるミニレポート課題（北村 30%、額賀 30%、荻巣 30%）
教科書	ジョエル・スプリング著、北村友人監訳 2023 『教育グローバル化のダイナミズムーなぜ教育は国境を越えるのか』東信堂。 ※北村の担当回で使用
参考書	恒吉僚子・額賀美紗子 2022 『新グローバル時代に挑む日本の教育ー多文化社会を考える比較教育学の視座』東京大学出版会。 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 2019 『移民から教育を考えるー子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』ナカニシヤ出版。 荻巣崇世・橋本憲之・川口純編 2021 『国際教育開発の挑戦ーこれからの教育・社会・理論』東信堂。
履修上の注意・備考	比較教育学概論 連絡先 北村友人:yuto.kitamura@gmail.com 額賀美紗子:nukaga@p.u-tokyo.ac.jp 荻巣崇世:ogisutak@p.u-tokyo.ac.jp
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09254103	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 3
講義題目	図書館情報学概論 Introduction of Library and Information Studies				

授業の目的・概要	本授業では、図書館、図書館情報学、そしてその関連分野についての基礎的な概念を理解することを目標とする。まずは、普遍的な図書館の理念と、時代・地域ごとの図書館の役割を講義する。その後、館種(国立図書館、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館)ごとにどのような機能を果たしているのかを講義する。最後に、「場所」、関連機関との図書館および図書館情報学の関係について述べる。
授業計画	1 オリエンテーション 2 図書館と図書館情報学の理念 3 公共図書館 4 学校図書館 5 大学図書館 6 国立図書館 7 中間まとめ 8 専門図書館 9 図書館と知識の歴史 10 場所としての図書館 11 司書の養成 12 図書館の関連機関 13 最終まとめ
授業の方法	教科書は使わず、レジュメを配布する。
成績評価方法	授業への積極的参加およびテストによって評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	図書館情報学概論 UTOL からレジュメをダウンロードできるようにする予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09254104	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	教職論 Introduction to Research on Teacher Development				

授業の目的・概要	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
授業計画	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 ガイダンス 2回 変容する社会の教師(1) 転換期の学校 3回 変容する社会の教師(2) 知識社会の学校と教師 4回 教師の知識(1) 資質と知識 5回 教師の知識(2) 教師の実践的思考様式 6回 教師の同僚性と共同体(1) 教師の同僚性 7回 教師の同僚性と共同体(2) 専門家共同体 8回 教師と学校の責任(1) 教師のヴァルネラビリティ 9回 教師と学校の責任(2) 教師と学校の責任 10回 日本の授業研究の歴史(1) 授業研究の視点 11回 日本の授業研究の歴史(2) 授業研究の歴史 12回 専門性と専門職性(1) 教師の専門職性 13回 専門性と専門職性(2) 反省的実践家としての教師 14回 カリキュラムのデザイン(1) カリキュラムの概念 15回 カリキュラムのデザイン(2) カリキュラムの変化 15回 まとめ
授業の方法	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
成績評価方法	出席と課題レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015 年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教職論 特になし。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照 ※B 参照

時間割コード	09254105	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	〔授業の目標〕教育方法学という学問の射程とその方法について概観するとともに、教育方法学の研究対象のなかでも学校教育における「授業」という事象について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。 1. 教育方法学という学問について理解する。 2. 学校教育における授業の特質について理解する。 3. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。 4. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。 5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。 〔授業の概要〕学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追及していく。
授業計画	①ガイダンス：教育方法学とはどのような学問か ②教室という時空間 ③教室における学習の特徴 ④ディスカッション1 ⑤学習者とは ⑥学習者の声を聴く ⑦ディスカッション2 ⑧授業の成り立ち ⑨授業を準備する ⑩授業をおこなう ⑪授業を評価する ⑫ディスカッション3 ⑬まとめ
授業の方法	講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。
成績評価方法	定期試験を行わず、平常試験(課題・レポート等)で総合評価する。 「毎回の小課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、毎回の小課題の提出が全体の3分の2に満たない場合、および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。
教科書	指定せず、授業中に資料を配付する。
参考書	秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会) 秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店) 佐藤学『教育方法学』(岩波書店)
履修上の注意・備考	教育方法論 ※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員：藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09254106	担当教員	上野 正道		
単位数	2	学 期	A2	時 限	集中
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることにする。
授業計画	この授業は、Zoom のリアルタイムとオンデマンドの動画配信の両方を使ったオンライン授業になります。 1月28日 1限(第1回) ガイダンス 教育課程とは何か(Zoomリアルタイム) 2限(第2回) 学校と教育課程の現代史 3限(第3回) グローバル時代の学校と教育課程 4限(第4回) フィードバックとディスカッション(Zoom リアルタイム) 1月29日 1限(第5回) 近代日本の学校と教育課程 2限(第6回) 西洋近代の学校と教育課程 3限(第7回) 新教育から現代の教育課程へ 4限(第8回) フィードバックとディスカッション(Zoom リアルタイム) 1月30日 1限(第9回) アート教育とカリキュラム 2限(第10回) シティズンシップ教育とカリキュラム 3限(第11回) シティズンシップ教育とカリキュラム 4限(第12回) 教職の専門性と教育課程 5限(第13回) まとめ(Zoom リアルタイム)
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点とリアクション課題(レポート)による
教科書	上野正道『民主主義への教育――民主主義への教育』東京大学出版会、2013 年 (教科書は、東大生協本郷書籍部で販売しています。授業で使用しますので、初回までに購入し準備してください。)
参考書	上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014 年 上野正道『ジョン・デューイ――民主主義と教育の哲学』岩波新書、2022 年
履修上の注意・備考	教育課程論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09254201	担当教員	大高 研道		
単位数	2	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	社会教育学演習Ⅱ Seminar in Adult and Lifelong Education Ⅱ				

授業の目的・概要	本講義では、複雑な社会における協同・共生というテーマを軸に社会教育の意味・課題・可能性について考えたい。わが国の社会教育実践・研究は、法概念としての社会教育（公民館を中心とした公的社会教育）を前提としつつも、それが有する地域づくりといった社会的機能を踏まえ、家庭・学校・地域社会におけるさまざまな協同的営みと重なり合いながら展開する教育実践として捉えられてきた。とりわけ、人びとの共同生活の過程と教育の相互性に着目した J. デューイの教育観はわが国の社会教育実践・研究に大きな影響を与えてきたが、生活過程の普遍的市場化が進み、他者とつながることの困難性がますます高まっている現代において、自律した個人やコミュニティがいかにして支え合う関係を再構築するのか、さらには異質性を超えた豊かな他者関係（自己内他者）を形成する学びがいかにして生まれるのか、が、焦眉の課題となっている。講義では、今日の競争社会によって失われつつある他者との関係性や人間性を回復させる砦としてあらためて注目されている「コミュニティ」の現代的な形、およびそれらと密接な関連をもつ労働や学習のあり方について、多面的な生活領域および活動主体の実践紹介を交えながら検討したい。 This Seminar aims to consider the meaning&comma; challenges and possibilities of social education in relation to the concepts of cooperation and conviviality in a complex society. Social education practice and research in Japan has been seen as an educational practice that develops in overlapping with various collaborative activities in the home&comma; school and local community. In an age of universal marketisation of life processes and increasing difficulties in connecting with others&comma; the pertinent questions are how autonomous individuals and communities can rebuild relationships of mutual support&comma; and how learning to form generous other-relationships (self-in-others) that transcend heterogeneity can be generated. In the lecture&comma; the contemporary form of ‘community’&comma; which is attracting renewed attention as a means for restoring the relationships with others and humanity that are being lost in today’s competitive society&comma; and the nature of work and learning that are closely related to such relationships are discussed&comma; focusing on practices in various fields of life and activities.
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：地域をつくる社会教育 第3回：共生社会と社会教育（1） 第4回：共生社会と社会教育（2） 第5回：市民活動と社会教育（1） 第6回：市民活動と社会教育（2） 第7回：地域学習と社会教育（1） 第8回：地域学習と社会教育（2） 第9回：公民館と社会教育（フィールドワーク 1） 第 10 回：公民館と社会教育（フィールドワーク 2） 第 11 回目 学校と社会教育（1） 第 12 回目 学校と社会教育（2） 第 13 回目 地域をつくる社会教育の展開に向けて 第 14 回目 総括討論とまとめ
授業の方法	基礎知識に関する座学、文献講読に基づいた個別論題報告・ディスカッション、現地フィールドワーク（国立公民館）からなる。具体的な進め方は初回授業時に履修者と相談の上、決定する。
成績評価方法	平常点（授業への参加度、報告・発表内容等）70%、レポート 30%
教科書	佐藤一子・田中雅文編著（2025）『共生への学びの構築：市民の協働にねざす教育創造』東京大学出版会
参考書	日本社会教育学会編（2024）『現代社会教育学事典』東洋館出版社
履修上の注意・備考	社会教育学演習Ⅱ 本演習は、近代社会の矛盾をベースとした現代社会構造への批判的・創造的検討と、そこで求められる実践コミュニティへの学習論的アプローチの模索が主題となる。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09254202	担当教員	村上 祐介		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 3
講義題目	教育行政・学校経営演習 I Seminar in Educational Administration and School Management I				

授業の目的・概要	この授業では、教育行政・学校経営に関する制度・政策や最近の動向について、文献講読を通じて理解を深めることを目的とする。2 年次開講の概論科目「教育行財政学」の教育行財政分野の内容をより深める、もしくは概論では十分に扱えなかったが重要なトピックを取り上げる。
授業計画	第Ⅰ部 国と自治体の教育行財政 文部科学省の組織と役割、地方教育行政の改革、教育費と教育財政など 第Ⅱ部 学校と教職員に関する行政・制度 教員の働き方改革、教育課程行政など 第Ⅲ部 教育行政・政策の諸課題 高等教育政策、幼児教育・保育政策、私学行政など
授業の方法	・授業は基本的に対面とオンライン併用(ハイフレックス)で行うが、オンラインのみの場合もありうる。 ・指定された文献(回により異なるが、平均して 1 回につき 50～100 頁程度を予定)をあらかじめ読み、事前に A4 で半分から 1 枚程度のコメントを UTOL(学習管理システム)にアップロードする。 ・また、報告者を設け、報告者は 4000 字以上のコメントを執筆し、それに基づいて授業内で報告を行う。ただし受講者数によっては報告者を設けないことがある。 ・授業では報告や参加者のコメントをもとに討論を進める。
成績評価方法	・毎回のコメント、報告または期末レポート、授業への参加度により評価を行う。 ・授業回数の 3 分の 2 以上でコメントを提出し、かつ、(報告を課す場合は)報告を 1 回以上行うことを単位取得の要件とする。 ・報告を課さない場合は、期末レポート課題の提出を行う。 ・欠席した分については、2 週間以内に 2000 字以上のコメントペーパーを提出すれば、3 回までは出席とみなす。
教科書	初回の授業で指示する。
参考書	村上祐介・勝野正章編著(2024)『教育行政と学校経営(改訂新版)』放送大学教育振興会 青木栄一・川上泰彦編著(2019)『教育の行政・政治・経営(改訂版)』放送大学教育振興会 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣
履修上の注意・備考	教育行政・学校経営演習 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09254203	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習Ⅳ Seminar of Research on Teaching and Curriculum Ⅳ				

授業の目的・概要	[授業の目標] この授業では、保育・幼児教育施設や小学校、中学校、高等学校などの教育の現場におけるフィールドワークを通して、教育実践を観察することの基礎を身につける。具体的には下記の通りである。 1. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。 2. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 [授業の概要] 教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。
授業計画	第1回 教育実践の課題 ガイダンス 第2回 教育実践の研究(1)フィールドワーク① 第3回 教育実践の研究(2)報告会① 第4回 教育実践の研究(3)フィールドワーク② 第5回 教育実践の研究(4)報告会② 第6回 教育実践の研究(5)フィールドワーク③ 第7回 教育実践の研究(6)報告会③
授業の方法	主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。 用意された活動のすべてに参加した者のみを成績評価の対象とする。
教科書	指定しない。
参考書	秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15 の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究:20 の事例にみる教師研究方法論』東京図書 浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く:教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社 稲垣忠彦・佐藤学(著)『授業研究入門』岩波書店 佐藤学『教育方法学』岩波書店 秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 このほか
履修上の注意・備考	教育方法学演習Ⅳ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09254501	担当教員	橋野 晶寛、河村 俊太郎、宮田 玲、影浦 峡、北村 友人、勝野 正章、高橋 和子、李 正連、村上 祐介、藤江 康彦、浅井 幸子、新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	通年	時 限	木 6
講義題目	教育実践・政策学研究指導 Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・学校教育学・社会教育学・図書館情報学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
参考書	テーマに応じて文献紹介を行う。
履修上の注意・備考	教育実践・政策学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255301	担当教員	能智 正博		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	質的心理学研究法Ⅱ Research Methods for Qualitative Psychology Ⅱ				

授業の目的・概要	めまぐるしく変化する社会のなかで、教育や臨床の現場において現れてくる問題も変化しており、心理学もまた実験室的な研究だけではなく、現場の実践と関わりながらの新たなアイデアの探索と知識の生成が求められている。そうした背景のもとで近年注目されているのが、問題の発見と仮説生成を重視する質的研究であり、質的な方法を用いて〈現実〉にアプローチしようとする心理学の実践の全体を「質的心理学」と呼ぶ。本年は、質的研究の概説書を輪読しながらその全体像に関する理解を深める。
授業計画	1) イントロダクション 2) 質的研究のあらましの理解 3) 質的研究の構成要素を考える 4) 質的研究をスタートする 5) データを収集する 6) 質的データの分析① 7) 質的データの分析② 8) 分析の検証 9) 質的研究を書く 10) 研究を評価する 11) 研究論文の実際① 12) 研究論文の実際② 13) 研究論文の実際③ 14) まとめ
授業の方法	受講生の発表を中心に授業を進めていく。適宜エクササイズを行って、授業内容の理解を深める。
成績評価方法	授業への出席 20% 授業への参加・発表内容 50% 最終レポート 30%
教科書	クレスウェル&バイアス『質的研究をはじめのための 30 の基礎スキル』(新曜社、2016)
参考書	能智正博『質的研究法』(東京大学出版会、2011)
履修上の注意・備考	質的心理学研究法Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09255302	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 2
講義題目	生涯発達心理学演習 Seminar in Life-span Developmental Psychology				

授業の目的・概要	胎児期から老年期に至る生涯発達のプロセスとメカニズムについて学ぶ。この演習の目的は、現代生涯発達心理学のホットなトピックを見極めることと時代の先を読んで新しい研究テーマを切り拓く感性やスキルを身につけることであり、また文献レビューの方法や研究デザインの組み方等について具体的な示唆を得ることである。
授業計画	実際の進め方としては、数名の者からなる小グループに分かれ、それぞれ1つの発達ステージを選択・担当する。そして、その発達ステージに関して、これまで、心理学・教育学およびその周辺諸科学では、どのような形で研究が進められてきたか、その動向を簡単に説明し、かつ、代表的な実証研究の概要を紹介する。また、その発達ステージに絡む現代的諸問題について論究し、その上で、批判的観点から、これまでの研究の問題点や欠落点等を指摘、さらにそれらを補うには、今後どのような研究を新たに実施していく必要があるか、具体的に研究計画の立案を試みる。
授業の方法	基本的に演習形式で行う。
成績評価方法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	生涯発達心理学演習
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（公）心理学

時間割コード	09255303	担当教員	一柳 智紀		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 2
講義題目	教授・学習心理学演習Ⅱ Seminar on Psychology of Learning and InsturctionⅡ				

授業の目的・概要	本演習では、教授・学習領域における学術研究を読み、まとめ、発表するためのスキルを学ぶ。
授業計画	1:興味・関心から研究テーマを設定する 2:文献を検索する 3:論文を読む 4～8:受講者による論文の発表・討論 9:関連する英語論文を読む 10～13:受講者による英語論文の発表・討論
授業の方法	受講者が各自の興味関心からテーマを設定し、選んだ日本語文献を読み、まとめ、その内容を発表する。それをもとに、参加者全員で討論を行う。また、日本語文献に関連する英語文献も読み、まとめ、その内容を発表し、参加者全員で討論を行う。
成績評価方法	担当回での発表、授業時の議論への参加、課題の提出によって総合的に評価する。
教科書	指定なし
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教授・学習心理学演習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255304	担当教員	中島 由宇、稲吉 玲美、大瀧 玲子、能智 正博、高橋 美保、滝沢 龍		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 4
講義題目	心理演習 Seminar in Psychology				

授業の目的・概要	心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度、人とかかわり人のこころを理解しようとするありかたについて、こころをつかって(体感的、内省的、対話的に)学びます。そうした学びを土台として、 ・心理的支援を要する人への心理療法などに関する知識や技能の修得を目指します。 ・心理的支援を要する人の理解やニーズの把握、支援計画の作成を行うためのアセスメント能力を養います。 ・心理的支援を要する人の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携や地域連携に必要な、対話し協働する力を養います。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務の意義を理解します。
授業計画	授業前半では、臨床心理学の社会的、心理学的、生物学的基盤、臨床心理学の研究、心理的支援技法などについて講義する予定です。 授業後半では、心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度について、ロールプレイとディスカッションを通して学ぶ予定です。
授業の方法	授業の前半は、臨床心理学実践の基本的な知識や姿勢について学ぶ講義を主とします。後半はロールプレイの演習を主とします。
成績評価方法	レポートを中心に、授業内のディスカッションも含めて評価します。
教科書	特に指定しません。
参考書	必要に応じて授業内で提示します。
履修上の注意・備考	心理演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255305	担当教員	稲吉 玲美、大瀧 玲子、能智 正博		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 1
講義題目	心理実習 Practical Training in Psychology				

授業の目的・概要	公認心理師の活躍する各領域の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。 ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ・多職種連携及び地域連携 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
授業計画	① オリエンテーション ② 保健医療分野の概観 ③ 福祉・教育分野の概観 ④ 産業・司法分野の概観 11 月 ～1 月 先方と都合を合わせて実習に出る ⑫⑬ 振り返り
授業の方法	まず座学において、保健医療、福祉、教育、産業、司法分野における公認心理師の活動について学んだ上で、以下の実習機関すべてを回ることになる。 ・東京大学医学部附属病院(5 日間、20 時間) ・社会福祉法人 三井記念病院 (1 日間、8 時間) ・社会福祉法人 泉会 岡本福祉作業ホーム玉堤分場 (2 日間、16 時間) ・東京少年鑑別所(1 日間、2 時間半) ・キューブ・インテグレーション株式会社(1 日間、3 時間) ・跡見学園中学校高等学校(1 日間、1 時間) ※ 実習先についてはあくまで予定であり、情勢等によって中止や内容
成績評価方法	平常点 70%(現地実習指導者による評価も含む)、 レポート 30%(施設毎に、A4 で1～2枚程度) レポートの締め切り・提出方法は授業内で提示する。
教科書	津川律子・江口昌克(編)公認心理師分野別テキスト1「保健医療分野」(創元社, 2019) ＝1章、2章を読む 片岡玲子・米田弘枝(編)公認心理師分野別テキスト2「福祉分野」(創元社, 2019) ＝1章、2章を読む 増田健太郎(編)公認心理師分野別テキスト3「教育分野」(創元社, 2019) ＝1章、2章を読む 生島 浩(編)公認心理師分野別テキスト4「司法・犯罪分野」(創元社, 2019) ＝1章、2章を読む 平木典子(編)公認心理師分野別テキスト5「産業・労働分野」(創元社, 2019) ＝1章、2章を読む
参考書	必要に応じて指示する。
履修上の注意・備考	心理実習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255306	担当教員	植阪 友理		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	認知カウンセリング実践演習 I Practical Training of Cognitive Counseling I				

授業の目的・概要	心理学を生かした実践的研究活動である、「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例、「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。自己調整学習などの知見も活用しながら学習者の自立を促している。 こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。 本授業では、実際に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設と連携し、実際に相談にくる小中学生に対して認知カウンセリングを行う。参加者は、基本的にはは事前に S セメスターで「認知カウンセリングの技法と応用」を受講することが望ましいが、受講していない学生についても授業を取れるように配慮する。 おお、診断初期、中期にその様子を報告し、参加者同士で議論する機会を設ける。最終的には、文京区教育センターや貧困家庭支援施設での最終発表を行い、その指導をめぐって議論する場を設ける。 実践の性質上、15~20 名程度を上限とする。
授業計画	S セメスターで学んだことを活かして(今学期から参加する場合には、それに応じた指導を受けた後)、文京区教育センターもしくは生活保護受給者家庭の施設において、実習を行う。8~10 回にわたる指導を行ってもらい、そこでの様子をそれぞれが持ち寄って議論する。これらの実習の時間については授業以外の時間帯に行われるため、それについて問題がない学生のための受講を受け付ける。 終了後にロングレポートを作成してもらい、実践した施設において、発表を行う。 実習の進行状況や、実践を行う施設との調整の結果、当該の授業時間以外にも発表等が行われる場合がある。これについては受講者と相談しながら進める。 なお、相談開始までの期間はこれまでに提出されているケースレポートなどを読んで議論し、研修する時間に当てる。認知カウンセリングの発想を生かした一斉授業の検討になる場合もある。
授業の方法	対面を基本とする。
成績評価方法	授業に関連する活動およびレポートによって総合的に判断する。授業に関連する活動としては、授業中の議論への参加および授業後に提出を求める「振り返りシート」、「最終レポート」への記入状況などを総合して判断する。
教科書	適宜指示する。
参考書	関連する資料は、指定されたフォルダにアップされる。Slack に登録し、必要な情報を得ること。
履修上の注意・備考	認知カウンセリング実践演習 I 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255307	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 1, 火 2
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education				

授業の目的・概要	この授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。 親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法が挙げられる。何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。 授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。 体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。 In this class&comma; you learn educational methodologies for children who are in the process of developing so that they can move their bodies well without being averse to exercise&comma; and that they are able to play lifelong sports (physical activity and exercise). Specifically&comma; students learn about school physical education&comma; athletic club activities&comma; and lifelong sports. Classes will focus on lectures based on specific examples of teaching methods according to age and grade level&comma; and survey reports by students. The starting point of discussion is to clarify the actual situation and problems of exercise experiences with parents and children&comma; early childhood education (physical education)&comma; school physical education&comma; university physical education (students)&comma; youth sports clubs&comma; club activities&comma; and voluntary circles. For example&comma; there are measures to deal with the polarization of children who have a high quality and quantity of physical activity and exercise and those who do not. It is known that once a person dislikes exercise for some reason&comma; it becomes quite difficult to participate in the future&comma; and thinking about ways to prevent this is also a major issue required of current physical education. In addition to regular lectures&comma; classes are conducted in a format in which the students in charge summarize books&comma; papers&comma; various statistical materials&comma; etc. based on a predetermined theme&comma; present them&comma; and discuss them with all students. The course content is suitable not only for students who wish to earn credits for a physical education teaching license&comma; but also for students who are interested in the state of physical education. This subject corresponds to the subjects &quot;Teaching Methods for (Body) Health and Physical Education&quot; and &quot;Teaching Methods for (Insurance) Health Departments&quot;.
授業計画	4 月 8 日: イントロダクション、4 月 15 日: 学習指導要領、4 月 22 日: 子どもの体力問題、5 月 13 日: 運動部活動、5 月 20 日: 生涯スポーツ、5 月 27 日: プレゼンテーション(1 回目)、6 月 3 日: プレゼンテーション(2 回目)と総括。 April 8: Introduction&comma; April 15: Course of Study&comma; April 22: Children’s physical fitness problems&comma; MAY 13: Sports club activities&comma; May 20: Lifelong sports&comma; May 27: Presentation (1st)&comma; June 3: Presentation (2nd) and summary.
授業の方法	学習指導要領・資料・新聞記事・パワポイントなどを用いた講義、ディスカッションを行う。各自に当該方法論に関するプレゼンテーション(20 分程度)を実施してもらう。 Lectures and discussions using the Course of Study&comma; materials&comma; newspaper articles&comma; power points&comma; etc. are conducted. Students give a presentation on th

成績評価方法	毎回の授業におけるミニレポートと、プレゼンテーションの質を総合して評価する。テストは実施しない。 The quality of the small report and presentation in each class is evaluated comprehensively. No testing is conducted.
教科書	指定図書はない。 There are no designated books.
参考書	文部科学省：小学校学習指導要領（体育編）、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編） Japan Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology: Course of Study for Elementary Schools (Physical Education), Course of Study for Junior High and High Schools (Health
履修上の注意・備考	身体教育方法論 緊急の場合、下のメールアドレスまたは電話に連絡すること。 In case of emergency, please contact me at the email address below or by phone. 授業で用いるすべての資料(9 種類の PDF)は下からダウンロードできる。 ただし、授業専用の資料なので、転送やネットへのアップなどを固く禁じる。 https://drive.google.com/drive/folders/1t2q0Enpxg4YGOylqb6VCxxnsqfyM
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（体）保健体育科の指導法

時間割コード	09255308	担当教員	東郷 史治、佐々木 司		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 3
講義題目	教育の疫学入門 Studying Epidemiology in the Field of Education				

授業の目的・概要	健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上でも今後必要不可欠になると考えられる。
授業計画	疫学とその研究の方法論に関する基礎知識について講義する。
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	基本的に期末試験で評価する。
教科書	中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第4版)」医学書院
参考書	S.B.Hulley et al. Designing Clinical Research, 4th Edition, Lippincott, Williams & Wilkins. (木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン: 研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」メディカル・サイエンス・インターナショナル) Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford Universit
履修上の注意・備考	教育の疫学入門
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09255309	担当教員	山本 義春、内匠 透		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。 Educational physiology aims to physiologically elucidate the various mental and physical functions of educational subjects that make them receptive to education, and the effects of educational content, methods, and environment on these functions. In this course, students will learn the structure and function of the nervous system, and deepen their understanding of the neurophysiological basis of education, such as movement, learning and memory, and the origins of sleep and mental functions and their disruption.
授業計画	以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 ・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理) ・運動の制御 ・睡眠と生体リズム ・情動 ・学習と記憶 ・統合失調症と感情障害 ・不安障害と発達障害
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	Physiology of Behavior, Neil R. Carlson, 13th edition, Pearson.
参考書	カールソン、神経科学テキスト 脳と行動、原書 13 版、丸善.
履修上の注意・備考	教育の生理学
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09255310	担当教員	多賀 厳太郎		
単位数	2	学 期	S1	時 限	月 2, 木 2
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達とは、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	講義内容 1. 生命の普遍的な性質 生命とは何か、形態形成、人間の胚子の発生、発達と進化 2. 人間の脳はいかにできるか 脳のかたちと皺の形成、ネットワーク形成、胎児における自発行動と原始感覚の出現、脳の再構築と U 字型発達、乳児における脳の機能発現 3. 個体の成立 脳と身体性、自発運動から目的志向運動へ、睡眠と意識、個性とは 4. 世界との共生 物理的世界の経験と記憶、他者の知覚、言語の知覚と生成、音楽とコミュニケーション、腸内細菌との共生 5. 人類進化を駆動する発達 二足歩行のネオテニー進化、言語を生成する脳の発達と進化 6. 人間を捉え直す 新たな人間形成理論の展望、生きていること・生きていくこと・生かされること 演習課題 授業時間内のミニレポート 指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	授業時間内のミニレポート、レポート課題、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	開講時に参考書リストを配布。
履修上の注意・備考	心と脳の発達
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09255311	担当教員	東郷 史治		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 1, 金 1
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	近年、国内での交通事故件数や交通事故死者数は減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、自然災害、SNS など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 ガイダンス 学校安全(1):安全安心科学 学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故 学校安全(3):部活動 学校安全(4):ピアサポート 災害安全(1):自然災害 災害安全(2):救命処置 現代生活安全(1):精神保健 現代生活安全(2):インターネット・情報セキュリティ 現代生活安全(3):高齢社会 環境安全(1):熱中症 環境安全(2):化学物質 定期テスト
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。対面での実施予定。ただし、状況に応じて、対面とオンラインの併用(ハイブリッド式)に変更する。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	なし
参考書	初回に紹介する
履修上の注意・備考	安全・安心教育
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09255401	担当教員	寺尾 尚大		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 4
講義題目	心理学統計法Ⅱ Psychological Statistics II				

授業の目的・概要	本授業では、心理学で用いられる統計手法に共通する考え方と最もよく用いられるごく基本的な統計手法について講義を行います。加えて、より高度な統計手法を学んでいくうえでの基盤となる各種統計手法の数理的な側面についても講義を行います。具体的には、推定と検定の考え方を学んだうえで平均値差と連関に関する推測の方法について学修し、その後、線形モデルの基礎について学修します。本授業の目標は、「心理学で用いられる統計手法」や「統計に関する基礎的な知識」について習得することです。
授業計画	本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。 第 1 回 推定量とその標準誤差 第 2 回 検定の考え方 第 3 回 検定力とその利用, 区間推定の考え方 第 4 回 独立な 2 群の平均値差の検定 第 5 回 平均値差および効果量の区間推定 第 6 回 対応のある 2 群の平均値差の検定と推定 第 7 回 2 群の比率の差の検定 第 8 回 カテゴリ変数間の連関の分析 第 9 回 変数と統計量のベクトルによる表現 第 10 回 回帰分析のベクトル表現 第 11 回 平方和および分散の分割 第 12 回 独立変数の効果の検定と自由度 第 13 回 平均値差への回帰分析的アプローチ, 線形モデルに基づく統計的方法
授業の方法	すべての回の講義は、対面で実施します。講義は、教科書に基づき作成した資料を利用します。式の展開を実施するので、ノートやルーズリーフ、タブレットなど、式の展開を担当者の板書と一緒に追えるものを持参してください。宿題として、講義回に対応する内容について、統計分析ソフト R を用いた演習課題を 10 回課します。
成績評価方法	期末テスト 60%, R の課題 20%, 毎回の感想入力 20%
教科書	南風原朝和 (2002). 心理統計学の基礎——統合的理解のために 有斐閣.
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊 (2009). 心理統計学ワークブック——理解の確認と深化のために 有斐閣. 石井秀宗 (2014). 人間科学のための統計分析——ここに関心があるすべての人のために 医歯薬出版
履修上の注意・備考	心理学統計法Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ Psychological Statistics Ⅲ				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	下記の事柄を 13 コマで実施する。 1. 部分相関係数と偏相関係数 2. 偏回帰係数とその解釈 3. 重回帰分析のしくみ 4. 平方和の分割と重相関係数の検定 5. 個々の独立変数の寄与の評価 6. 完全無作為 1 要因デザイン 7. 多重比較の考え方 8. 完全無作為 2 要因デザイン 9. 対応のある 1 要因デザイン 10. 共分散分析 11. 因子分析の考え方とモデル 12. 因子分析のしくみと因子の解釈 13. 因子の回転 14. 共分散構造と母数の推定 15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析 16. 項目反応理論・階層線形モデルに関する基礎
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブッカー理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年) 南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)
履修上の注意・備考	心理学統計法Ⅲ 【履修上の注意点】 2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255403	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 2
講義題目	社会性と感情の発達心理学(感情・人格心理学) Psychology of human socioemotional development				

授業の目的・概要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの社会情緒的側面の発達について概説するとともに、そこに生じる個人差が遺伝と環境のいかなる要因によって規定されるかについて考察を行う。また、人間の社会性を高度に支える種々の感情の発生機序や機能性などに関して、さらに人間のパーソナリティ(人格)の基本的性質・構造およびその形成過程などに関しても、最新の研究知見に基づきながら概観を行う。
授業計画	具体的には以下のようなテーマについて掘り下げて論じることにした。Ⅱ・乳幼児期における社会的知覚(顔・表情・視線・発声などの知覚・理解) ・原初的コミュニケーションの起源と発達(言葉を準備する非言語的コミュニケーション) ・感情に関する理論及び感情喚起の機序 ・感情が行動に及ぼす影響(感情の機能性・合理性) ・感情および感情制御・感情的知性の起源と発達 ・自己および自我理解の起源と発達 ・子どもの心的理解の起源と発達 ・共感性・道徳性と向社会的行動の起源と発達 ・子どもの対人関係の起源と発達 ・社会性に関わる発達上の病理・障害とその支援 ・社会性発達の進化論的基盤・遺伝的基盤・脳神経学的基盤・環境的基盤 ・親子関係から alloparenting/allocare へ ・パーソナリティ(人格)の概念及び形成過程 ・パーソナリティ(人格)の類型、特性 etc.
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	出席状況と試験成績によって評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	社会性と感情の発達心理学(感情・人格心理学) 【履修上の注意点】 2019 年度以前開講「社会性の発達心理学」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09255404	担当教員	植阪 友理		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 3
講義題目	認知カウンセリングの技法と応用 I Cognitive Counseling and its Applications I				

授業の目的・概要	心理学を生かした実践的研究活動である、「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例,「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。本授業では、これらの基本的な技法や考え方、実際の支援のあり方について、座学のみならずロールプレイなども通じて体験し、学んでもらう。さらに、こうした個別学習支援の発想を、集団指導に応用していく方法についても学んでいく。 なお、後期に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設で実習を行いたい場合には、Aセメスターで本授業と接続する「認知カウンセリング実践演習」もあわせて受講されたい。
授業計画	初回:ガイダンス(第1回) S1 セメスター(第2回～6回) 認知カウンセリングの基本的技法を座学および体験型ワークショップで学ぶとともに、具体的なケース検討会を行う。 S2セメスター(第7回～12 回) 認知カウンセリングの発想をいかした一斉指導のあり方について、座学と体験型ワークショップなどで学ぶとともに、実際の授業のビデオを見ながら議論を行う。 最終回:まとめ(第13回)
授業の方法	対面、毎回の授業で座学およびグループワークを実施。
成績評価方法	授業への出席に関連する評価と、最終レポートを組み合わせる総合的に判断する。授業への出席に関連する評価の中身は、毎回のグループワークの様子や、授業後に提出を求める「振り返りシート」、最終レポートを含む諸課題等の提出状況から、総合的に判断する。
教科書	適宜指示する。
参考書	関係する資料を指定するフォルダにアップする
履修上の注意・備考	認知カウンセリングの技法と応用 I 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255405	担当教員	山森 光陽		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	教育評価 Educational Evaluation				

授業の目的・概要	この講義の目的は、教員だけでなく学校教育に何らかのかたちで関わる者が身につけるべき教育評価の知識と技能を習得し、概念を形成することである。教育評価は潜在変数の把握や測定によって行われ、被評価者の能力等の変化に影響を与えうるため、教育心理学の研究領域の一つである。この講義では教育心理学的な教育評価研究の歴史と動向、教育実践の観点からの妥当性、認知心理学との関連、学習評価が被評価者に与える影響などを、図書館の資料や研究論文を調べながら検討する。／The aim of this course is for students to develop competencies in educational measurement and assessment that are required not only by school teachers but also by education professionals. Studies in educational measurement and assessment are considered part of the research field of educational psychology because educational assessment is conducted through the identification and measurement of latent variables&comma; and these processes influence changes in the abilities of those being assessed. The following topics will be covered: history and trends of educational assessment research from aeducational psychology perspectives&comma; expanded concept of validity&comma; relevance of cognitive psychology to educational measurement&comma; and effects of classroom assessment on learners. Students are expected to utilize library collection including both print and electronic resources.｜
授業計画	以下に大まかな講義トピックを示す。複数回の授業にまたがるトピックを含む。順序は履修者の人数や興味関心によって入れ替えることがある。｜1. 教育関係者が身につけることが求められる教育評価の知識と技能 2. 教育評価の歴史: (1) 知能検査の歴史と誤用 3. 教育評価の歴史: (2) 教育測定運動の国内外の学校教育に対する影響 4. 教育評価と教育行政 5. 教育評価としての妥当性 6. 認知心理学の教育測定に対する意義 7. 適性処遇交互作用 8. 学習評価の役割と効果 9. 学習を促進する評価: (1) フィードバック 10. 学習を促進する評価: (2) 自己評価と相互評価
授業の方法	講義、学生による発表と議論を織り交ぜながら展開する。履修者数にもよりますが、割り当てた文献を読んで発表していただいたり、グループワークを取り入れることを予定している。
成績評価方法	講義内課題(50%) 期末課題(レポートを予定 50%)
教科書	教科書は指定しないが以下に収載の論文を扱うので、図書館の在架や電子媒体の入手方法を事前に確認しておくこと。これら以外の文献を扱う場合には入手方法を指示する。 [和書]]江口潔（2010）. 教育測定の社会史―田中寛一を中心に 田研出版 田中寛一（1926）教育的測定学 松邑三松堂 リン&comma; R. L.&comma; 池田央・藤田恵瑩・柳井晴夫・繁桝算男（編訳）(1992). 教育測定学 みくに出版 (Linn&comma; R. L. (Ed.). (1988). Educationa
参考書	Brennan&comma; R. L. (Ed.). (2006). Educational measurement (4th ed.). Praeger Publishers.｜グールド&comma; S. J.&comma; 鈴木善次・森脇靖子（訳）(2008). 人間の測りまちがい―差別の科学史（上下巻） 河出書房 （Gould&comma; S. J. (1996). The mismeasure of man (Rev. and expanded&comma; with a new int
履修上の注意・備考	教育評価
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255406	担当教員	野村 晴夫		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	生涯発達心理学 Life-span Developmental Psychology				

授業の目的・概要	生涯にわたる語りの発達について理解する。 日常的な語りとセラピーの語りについて理解する。
授業計画	私が私であるという自己の固有性や連続性を支える経路の一つは、自己についての語り、すなわち自己語り(self-narrative)である。では、自己語りは生涯にわたってどのように獲得され、洗練され、終息するのだろうか。本講義では、自己を語ることが困難をきたすセラピーの語りを糸口に、ライフの語り、いわゆるライフストーリーの発達の道筋を解説する。そして、自己語りをもつ生涯発達の・心理臨床的意義について探求する。
授業の方法	講師による解説に加え、文献や映像の資料の参照を通じた討論を行う。
成績評価方法	授業への参加度および授業内外での小レポートにより評価する。
教科書	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	生涯発達心理学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255407	担当教員	元永 拓郎		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	公認心理師に関係する法律と制度(関係行政論) Legal and Administrative System of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師及び臨床心理士などの心理職が心理支援を行う際に、さまざまな法律と行政上の施策等が関係する。心理支援は、①保健医療分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野の5分野に大きく分けることができる。また、これらの分野をまたいで横断的に対応する必要がある心理支援もある。発達障害や自殺、虐待などの課題である。さらに、5 分野に含まれない、その他の分野として、施設開業の心理相談室等の活動もある。これらの心理支援を行う上で、どのような法律が関係するのか、法律も含めてどのような施策や制度が設定され展開されているのか、どのような歴史的経緯で法律や制度が構築されどのような課題を有しているのか等を学んでいく。また、これらの分野や課題別の法律や制度の基盤となる、日本国憲法や公認心理師法などの基盤的法制度やその理念への理解も重要となる。この授業で扱う内容は、公認心理師が身に付けておくべきコアコンピテンシーの中で、「プロフェッショナルリズム」「多様性と個別性」「多職種協働／学際的な考え方」が主に関連する。 この授業では、心理支援を行うものが必ず知っておくべき法律と行政的な仕組みについて学修するが、具体的な事例についてディスカッションする機会も設け理解を深める。 心理支援に関する法律や諸制度を学ぶことで、心理専門職を目指す人はもちろん、一般就職をする人も、将来社会人となった時によりよく社会参加していく上で、その知識や時代背景の理解が役立つであろう。家族や友人、知人が心理支援を必要とした時の諸制度の利用、家庭を持ち子育て含め地域生活を営む際に受けることのできる行政、福祉、教育サービスへの理解を深めることで、自らの人生をよい形で展開することにも貢献するであろう。 なお、この科目は、公認心理師資格を取得するために必要な科目にも位置付けられる。 <到達目標> 1) 心の支援に関連する法律や制度の全体像を、国民からの期待や社会的使命をふまえて説明できる。 2) 公認心理師を含めた心理職が活動する上で出会う特に5分野における法律や制度を把握し、具体的な 役割を認識できる。 3) 公認心理師が重要かつ難しい臨床判断をする上で、必要な法律や制度の知識の有効活用について 説明できる。 4) 法律や制度の知識や制度を活用し、多職種の専門家や行政、関係者、一般市民との、意義深い協働 について説明できる。 5) 心理支援に関する法律や制度の現状や課題を理解した上で、要支援者の心情を理解し自己決定への 寄り添いを、心理支援の本質として認識できる。 6) 心理支援に関する法律や制度の現状と課題を理解し、望ましい心理支援に関する制度設計に関する 自らの意見を持つことができる。
授業計画	【第1回】・ガイダンス／・法律と倫理の総論 * グループワークディスカッション 【第2回】・公認心理師法について 【第3回】・医療全般における法律と制度(保健医療分野①) 【第4回】・精神科医療における法律と制度 (保健医療分野②) 【第5回】・保健活動における法律と制度(保健医療分野③) * グループワークディスカッション 【第6回】・児童福祉における法律と制度(福祉分野①) 【第7回】・障害者における法律と制度(福祉分野②) 【第8回】・高齢者における法律と制度(福祉分野③) * グループワークディスカッション 【第9回】・教育における法律と制度 (教育分野①) 【第 10 回】・教育における法律と制度(教育分野②) * グループワークディスカッション 【第 11 回】・非行矯正における法律と制度 (司法・犯罪分野①) 【第 12 回】・犯罪及び犯罪被害における法律と制度(司法・犯罪分野②) * 民事における法律と制度を含む 【第 13 回】・産業労働における法律と制度 (産業・労働分野) 【第 14 回】・いのちに関する法律と制度、倫理 【第 15 回】・まとめと展望
授業の方法	パワーポイントと配布資料を基にした講義をベースにして、ディスカッション及びグループワークを行い、理解を深める。授業に通底するのは、心理職とは何者か、その本質とは何か、専門性とはどういうものなのか、という問いである。その問いを、法律や制度、そしてそれらの成り立ち、現状と課題を通して、議論を深める。
成績評価方法	授業内で求めるリアクションペーパー40%、小テスト 20%、課題レポート 40%
教科書	元永拓郎編(法律監修 黒川達雄) 公認心理師の基礎と実践シリーズ-②③関係行政論[第 3 版] 遠見書房
参考書	津川律子・元永拓郎 編著 心の専門家が出会う法律[新版] 誠信書房 津川律子・元永拓郎 編著 心理臨床におけ

	る法・倫理・制度 放送大学教育振興会
履修上の注意・備考	公認心理師に関する法律と制度（関係行政論）
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255408	担当教員	大橋 靖史		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	司法・犯罪心理学 Forensic and Criminal Psychology				

授業の目的・概要	司法・犯罪心理学に関する知識を習得するとともに、そうした知識をもとに、さまざまな犯罪や司法に関わる出来事を多様な視点から捉えることができるようになることを目指す。 犯罪が生じた心理学的原因を探ることにとどまらず、犯罪(加害)者、(冤罪被害者を含む)被疑者／被告人、(犯罪被害者を含む)市民という3者の視点から、司法・犯罪心理学を捉えていく。こうした視点をとることにより、犯罪という現象や司法という制度に関わる(関わらざるを得なくなる)人間の心理を理解することが可能となる。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 事例紹介 第3回 犯罪の原因(バイオ、サイコ) 第4回 犯罪の原因(ソーシャル) 第5回 精神鑑定、医療観察法 第6回 犯罪者の矯正・更生(アセスメントを含む) 第7回 プロファイリング 第8回 ポリグラフ検査 第9回 取調べの方法 第10回 供述の分析 第11回 犯罪被害者の心理 第12回 犯罪の未然防止 第13回 家事事件
授業の方法	講義
成績評価方法	授業参加 10 点 レポート 20 点 期末試験 70 点
教科書	特に指定しない。授業内で使用する資料等については、授業内で指示します。
参考書	特に指定しない。授業内で適宜、紹介します。
履修上の注意・備考	司法・犯罪心理学
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255409	担当教員	武見 ゆかり		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	栄養学概論 Introduction to Human Nutrition				

授業の目的・概要	栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動が続ける営みをいう。人間の健康の維持、増進には適切な栄養が必要である。人間は、食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら栄養の営みを行い、食生活を営んでいる。食生活は個人的な問題とされがちだが、職業、収入、ジェンダーなど社会的決定要因の影響も大きい。本講では、人間の栄養の営み及び食生活を、地域社会や環境との関わりも含めてとらえ、生涯を通した健康的な食生活のための基礎的知識とその活用方法を学修する。自分を事例として、健康状態やライフスタイルに合わせて、学んだことを実生活で活用する力の修得も目的とする。
授業計画	1. 人生 100 年時代だからこそその食生活の重要性:自分の食生活を考えてみよう 2. 何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイドの理解と活用 3. 何をどのくらい、いつ食べたらよいか(時間栄養学の知見から) 4. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質、食物繊維) 5. 栄養素の機能と代謝② たんぱく質 6. 栄養素の機能と代謝③ 脂質 7. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン、ミネラル、水分 8. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準 9. スポーツと栄養 10. 社会的決定要因と生活習慣病・食生活:国民健康・栄養調査結果を中心に 11. 農業政策と栄養政策,「健康な食事」実現のための食環境整備 12. 世界の健康・栄養対策の動向:健康を超えて、地球環境を考慮した持続可能性の重視 13. 健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう 14. 総合レポート
授業の方法	1 回目, 2回目, 13 回目は対面授業。 その他はオンライン講義形式とし, Zoom を用いて同時配信の授業を行う。 一部自分で演習(ワーク)を実施してもらい、その提出物を求める。
成績評価方法	最終回の総合レポート(50%)、および提出物の内容(50%)を合わせて総合的に評価
教科書	必要資料は随時配布。参考図書を紹介。
参考書	上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版社) 武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版」(第一出版)
履修上の注意・備考	栄養学概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255411	担当教員	森田 賢治、Arvind Kumar、加藤 郁佳		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	脳科学特論 Functions and Dysfunctions of the Brain				

授業の目的・概要	This lecture gives an introduction to modern systems, cognitive, and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits, computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making), and computational approaches to neuropsychiatric disorders.
授業計画	The currently planned order is as follows, though this can be changed: - activity dynamics of neurons and neural circuits - computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making - computational approaches to neuropsychiatric disorders
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	none
参考書	will be announced in the lecture
履修上の注意・備考	脳科学特論 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09255412	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、小国 喜弘、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	ダイバーシティ・インクルージョン概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09256101	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学) Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教授・学習にかかわる認知プロセス, 小学校～高校の授業における教授・学習のプロセス, それに関連する子どもの発達のプロセス, それらの学習や発達を促進する学習内容・学習方法などについて一人一人の学習者の視点から心理学的に明らかにする。それらの心理学的知見をもとに, 子どもの学力の形成やウェルビーイングの向上に有効な各教科の学習内容や学習方法の構成についても検討する。
授業計画	第1回:世界における教育の動向と教授・学習心理学, 発達心理学の意義 第2回:教授・学習心理学の展開:行動主義、認知主義、状況主義 第3回:認知発達心理学の展開:構成主義、社会的構成主義 第4回:教授・学習の心理学的対象:概念的理解と手続き的知識 第5回:教授・学習の心理学的過程:概念変化と思考の漸進的構成 第6回:教授・学習のベースとなる発達過程Ⅰ:数学的思考の発達 第7回:教授・学習のベースとなる発達過程Ⅱ:科学的思考の発達 第8回:教授・学習に関わる認知過程Ⅰ:探究を通じた概念的理解の深まり 第9回:教授・学習に関わる認知過程Ⅱ:協同解決を通じた思考の再構造化 第10回:教授・学習を通じた変化Ⅰ:協同的探究学習のプロセスと効果 第11回:教授・学習を通じた変化Ⅱ:協同的探究学習の長期的効果 第12回:教授・学習と発達の関連性:理解の深まりとウェルビーイングの向上 第13回:教授・学習の国際比較:心理学研究を生かした教育の課題の解決
授業の方法	学校の授業における教授・学習のプロセスや, それに関連する発達や認知のプロセスについて, 教科書に記載されている具体的な研究事例をもとに深く理解し, さらに, それにもとづく学習方法や学習内容の構成について, 教科書に記載されている心理学研究を中心に考察を深める。
成績評価方法	最終レポート(期末レポート), 授業時の小レポート, 授業への参加状況を総合して行う。
教科書	『「わかる」はどう深まるかー子どもの思考の発達と協同的探究学習』(藤村宣之著, ちとせプレス, 2025 年)
参考書	『新しい時代の教育方法(第 3 版)』(田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著, 有斐閣, 2024 年) 『国際的に見る教育のイノベーションー日本の学校の未来を俯瞰するー』(恒吉僚子・藤村宣之著, 勁草書房, 2023 年) 『発達心理学ー周りの世界と関わりながら人はいかに育つかー(第 2 版)』(藤村宣之編著, ミネルヴァ書房, 2019 年) 『数学的・科学的リテラシーの心理学ー子どもの学力はどう高まるかー』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012 年)
履修上の注意・備考	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09256102	担当教員	針生 悦子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology				

授業の目的・概要	ことばを話す，問題をうまく解決する，他者の気持ちを理解する，など，おとなになればたいいていできるようになっていることが「できない」（ようみ見える）状態で，子どもは生まれてくる。そこからの発達のプロセスとはどのようなもので，そのプロセスを支え，また，そのプロセスに影響を及ぼしているのはどのような要因か，そして，それらの能力や特性の生涯にわたる変化とはどのようなものか。これらの問題について概観し考察していく。
授業計画	以下の内容をカバーする予定である。 ①認知機能の発達および感情・社会性の発達 ②自己と他者の関係のあり方と心理的発達 ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識および考え方 ⑤高齢者の心理
授業の方法	講義形式。
成績評価方法	授業初回到説明する。
教科書	授業内で適宜、紹介する。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	発達心理学
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（公）心理学

時間割コード	09256201	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4	学 期	S1S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅱ（心理学実験） Experiments in Educational Psychology II				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査（質問紙）データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場（学校、老人ホーム）の見学も行う。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	教育心理学実験演習Ⅱ（心理学実験） 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09256202	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4	学 期	A1A2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology III				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	必要に応じて授業中に指示する
履修上の注意・備考	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) 初回授業では希望テーマ調査へ回答いただくため、スマートフォン、PC 等の Google フォームに回答できる端末を持参してください。 2 回目以降の授業は、配属されたグループごとに異なる教室になります。初回授業での指示にしたがってください。 【履修上の注意点】 2018 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅲ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09256501	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	通年	時 限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導 Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行う。
授業計画	個別指導とコース教員参加の発表会によって構成される。
授業の方法	個別あるいは集団で実施する。
成績評価方法	参加を以って行う。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育心理学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09257201	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習 I Laboratory in Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	予定項目は以下のとおりである。 1. ガイダンス 2. Excel, JASP による簡単なデータ処理・統計処理 3, 4. Matlab の使い方 5. 動作分析 6. 運動学習課題
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する
履修上の注意・備考	身体教育学演習 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09257202	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅱ Laboratory in Physical and Health Education Ⅱ				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する。
履修上の注意・備考	身体教育学演習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09257203	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	2	学 期	A1	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅲ Laboratory in Physical and Health Education III				

授業の目的・概要	身体教育学演習Ⅰ,Ⅱで得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。
授業計画	2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。
授業の方法	・2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。 ・毎週、進捗状況を報告する。 ・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	参考書は指定しない。
履修上の注意・備考	身体教育学演習Ⅲ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09257204	担当教員	野崎 大地、東郷 史治		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目) Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	2025 年度は 7 月 23 日ー26 日に実施予定(費用は個人負担)。 ガイダンスを 6 月中旬、事前打ち合わせを 7 月中旬に行う。 日程は決まり次第揭示する。
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
履修上の注意・備考	運動指導方法(夏季野外種目)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09257501	担当教員	東郷 史治、林 拓志、森田 賢治、多賀 厳太郎、山本 義春、野崎 大地		
単位数	2	学 期	通年	時 限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	身体教育学研究指導
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258001	担当教員	隠岐 さや香、平石 晃樹、山名 淳、小国 喜弘、片山 勝茂、大塚 類		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 4
講義題目	基礎教育学概論 Introduction to Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	この授業は、基礎教育学は人文・社会科学的なテキスト解釈の方法によって教育現実に接近しようとする領域であり、教育哲学、教育史、教育人間学、教育臨床学などの分野を含んで教育学の基礎的領域を構成している。 この概論では、教育哲学・教育史・教育人間学・教育臨床学の分野を中心として、教育と教育学の基礎的・基本的問題についての概観を与えるとともに、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想についての理解を深める。
授業計画	オリエンテーション 西洋教育史(1)教育史とはなにか(隠岐) 西洋教育史(2)近代公教育を振り返る(隠岐) 日本教育史(1)1945 年以降の教育史を概観する(小国) 日本教育史(2)教育史を通して現在を考えるーインクルーシブ教育を阻むもの(小国) 教育臨床学(1)〈臨床〉とは何か(大塚) 教育臨床学(2)〈現場〉から考える(大塚) 教育哲学(1)教育学にとって哲学とは何か(ビルドゥング論を中心に)(山名) 教育哲学(2)人間・文化・記憶ー教育哲学の一事例(山名) 教育倫理学(1)教育と暴力(平石) 教育倫理学(2)教育と正義(平石) 教育人間学(1)教育基本法における教育の目的・目標及び理念(片山) 教育人間学(2)現代社会におけるシティズンシップ(市民性)教育の役割と限界(片山)
授業の方法	講義による。それぞれ教員が、各自の専門領域と問題意識に基づき、現代教育学についての重要なトピックをとりあげて解説する。
成績評価方法	各担当教員によるレポート試験と、授業での平常点を総合する形で評価する。
教科書	講義において指示する。
参考書	講義において指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学概論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照

時間割コード	09258002	担当教員	山辺 恵理子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 2
講義題目	Philosophical Issues in Education Philosophical Issues in Education				

授業の目的・概要	COURSE OBJECTIVES The aim of this course is to deepen students’ understandings on education through philosophical dialogues on ethical and controversial issues in education. Abilities 1) to pose philosophical questions, 2) to think logically and critically, 3) to listen to counterarguments and to take them into serious account, 4) to reflect on one’s own conceptions, perceptions, and assumptions and at times reshape or even abandon them, and 5) to read and write philosophical papers, are essential to philosophical dialogues, and thus will be developed and assessed in this course.
授業計画	COURSE OUTLINE (TENTATIVE) 1.Introduction: What is philosophy, ethics, and education? 2.What defines a “child”? Inquiry with Philippe Ariès 3.What defines a “man”? Inquiry with Immanuel Kant 4.What makes a “child” an “adult”? Multiple purposes of education 5.What happens in between childhood and adulthood?: Redefining education 6.What are the co-relations between education, teaching, and learning? 7.What makes a good teacher?: Inquiry with Jacques Rancière 8.What makes a good teacher?: Inquiry with Paulo Freire 9.Rethinking children’s rights and abilities for political participation 10.Does education build or burn bridges between different groups? 11.Students’ Presentation and Facilitation #1: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 12.Students’ Presentation and Facilitation #2: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 13.Students’ Presentation and Facilitation #3: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 14.Students’ Presentation and Facilitation #4: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class’ philosophical dialogue to deepen the argument. 15.Reflection and Final Discussions
授業の方法	COURSE REQUIREMENTS AND POLICIES All classes will be conducted in English. Students are required to read assigned papers before class, and be well prepared to participate in class discussions. Active participation is essential throughout the course.
成績評価方法	GRADING CRITERIA Class participation 30% Mid-term essay and in-class discussions 30% Final essay 40%
教科書	None. Reading assignments will be announced or handed out in class.
参考書	Ariès, P. (1965). Centuries of Childhood: A Social History of Family Life. Oxford, England: Vintage Books. Biesta, J. J. G. (2010). Good Education in an Age of Measurement: Ethics, Politics, Democracy. Paradigm Publishers. Fr
履修上の注意・備考	Philosophical Issues in Education The first class will be held online, following the university instructions. Please log in to Zoom using the following ID and password: Meeting ID: 929 2211 2575 password: philosophy
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258003	担当教員	北村 友人、藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2	学 期	A2	時 限	月 3, 月 4
講義題目	学校教育学概論 An Introduction to Study on School Education				

授業の目的・概要	私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされ、当事者である子どもや教師はどのように生き、なにを経験しているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに子どもの学習、教師の学習、世界やグローバル社会との関係における学校、という3つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。
授業計画	第 1 回～第 4 回（藤江）学校における教師と子どもの学習と発達 第 5 回～第 8 回（浅井）授業の研究を通じた教師の学習 第 9 回～第 12 回（北村）持続可能な社会を実現するための教育のあり方 第 13 回 まとめ
授業の方法	授業の方法: 第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、3名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。 本講義は、対面方式で実施する。
成績評価方法	成績評価方法: 授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて授業中に指示する。
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意・備考	学校教育学概論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258004	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	教育行財政学 Educational Administration and Educational Finance				

授業の目的・概要	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。村上が教育行政分野、勝野が教育(学校)経営分野、橋野が教育財政分野をそれぞれ担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
授業計画	以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある 教育行政分野(村上担当) 国の教育行政制度、自治体の教育行政制度、教育行政における国と自治体の関係、教育課程・教科書に関する制度 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 教育における平等(アファーマティブアクション)、「効果のある学校」研究、教員の研修と評価、子どもの権利と学校 教育財政分野(橋野担当) 教育財政と政府間財政、教育費負担に関する政策と政治、教員の人材確保と労働環境、教育政策におけるデータフィクションと「エビデンスに基づく政策立案」
授業の方法	教員による講義、質問に対する回答・解説を中心にしながら、適宜、グループでの意見交換や議論を交えて行う。
成績評価方法	期末試験による
教科書	特になし
参考書	村上祐介・勝野正章編著(2024)『教育行政と学校経営(改訂新版)』(放送大学教育振興会) 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』(有斐閣) 勝野正章・藤本典裕編著(2015)『教育行政学(改訂新版)』(学文社) 青木栄一・川上泰彦編著(2023)『改訂版 教育の政治・行政・経営』(放送大学教育振興会)
履修上の注意・備考	教育行財政学
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学 (公)経済学(国際経済を含む)

時間割コード	09258005	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	社会教育論 I Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	1. 社会教育・生涯学習とは何か 2. 社会教育の歴史的な理解 3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論 4. 生涯学習の国際的動向①: 欧米の動向を中心に 5. 生涯学習の国際的動向②: アジアの動向を中心に 6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策 7. 社会教育施設・職員 8. 学校教育と社会教育・生涯学習 9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習① 10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習② 11. まちづくりと社会教育・生涯学習 12. 参画型社会と市民の学び 13. 期末試験
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末レポート 70%
教科書	なし
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	社会教育論 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09258006	担当教員	宮田 玲		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents				

授業の目的・概要	標準的な統計学や調査法演習の一手手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うと言う意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることになります。
授業計画	1 導入 2 R の基本: 値のタイプとデータのかたち 3 R の基本: 関数の利用とグラフの基本 4 量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 5～7 探索的なデータの解析と可視化 8～10 推測統計(区間推定と検定の考え方) 11 相関と回帰 12～13: 総合演習
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組み合わせを進めます。
成績評価方法	授業参加度(グループワーク、質問等)20%、演習課題(宿題含む)50%、授業内小テスト 30%
教科書	使いません。
参考書	関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。
履修上の注意・備考	情報・資料分析論演習
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258007	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 4
講義題目	教育研究調査法演習 Seminar on the Basics of Educational Research				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「認識する」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミックな議論に参加し「認識する」基本的な手続きを学ぶ。授業は、参照すること・表現すること、構成すること、知識を参照することの3モジュールからなる。いわゆる「社会調査」などを扱う授業ではない。この程度のことをスキルとして身に付けておかないと、公共圏において独立した個人として社会的、経済的、政治的意思決定に参加することは割と難しいかもしれないという、本当に基本的な思考のスキルを扱う。したがって、扱うことのほとんどは、義務教育段階で、そうでない場合でもせいぜいが高等学校までで扱われていることであり、基本この授業はその意識化と復習である。 This lecture course deals with symbolic and language technologies that enable us to “think” which has nothing to do with “I think” “I feel” etc. The lecture consists of three parts; i.e. (1) to express; (2) to compose; and (3) to refer to. It covers most essential skills necessary to manipulate the symbolic and language technologies; i.e. those (supposedly) addressed in compulsory education.
授業計画	1. 序論:考えていることと考えていると考えること、などおよび診断 2. 近代以降:ガリレオ・ガリレイ偽金鑑識官、デカルトと記号の問題、「べきだ」の普遍へ向けた解放 3. 参照すること(1) 4. 参照すること(2) 5. 表現すること(1) 6. 表現すること(2) 7. 構成すること(1) 8. 構成すること(2) 9. 構成すること(3) 10. 構成すること(4) 11. 知識を参照すること 12. 文書のテクノロジー 13. およそ考えることを可能にする条件をめぐって
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な課題を、4:3:3の割合で評価する予定です。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。またそれ以外の個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	教育研究調査法演習 オンラインで行います。そもそも、本授業で扱うことは、空間的・時間的に離れたところでも、「理解」できるような言語表現の構成とそれに伴うテクノロジーに関わるものであり、対面で何らかの「ね、わかるでしょ」というチャネルに甘えるのは不適切だからです。もちろん、オンラインのほうが短期的な学習効果があがるという保証も研究ありませんが。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258008	担当教員	野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2	学 期	A2	時 限	火 2, 金 2
講義題目	バイオダイナミクス Biodynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。 1. イントロダクション 2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～ 3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～ 4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～ 5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～ 6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～ 7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～ 8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～ 9. 記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～ 10. 意思決定のダイナミクス
授業の方法	使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	講義中に指定する。
参考書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	バイオダイナミクス 使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。 http://researchmap.jp/dnozaki/資料公開/ ITC-LMS「教材」(森田担当分)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09258009	担当教員	佐々木 司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 4
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病) Functional Anatomy				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造と機能、それに関連した癌、生活習慣病、精神疾患などの疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	最終回は期末試験とし、残りを、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生などに分けて講義を行う。
授業の方法	オンラインで授業を行う
成績評価方法	期末試験での評価を主とする。 期末試験は対面で行う。
教科書	佐々木司(編)公認心理師ベーシック講座 人体の構造と機能及び疾病 (KS 心理学専門書) . 講談社
参考書	必要な場合は授業中に示す
履修上の注意・備考	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09258010	担当教員	寺尾 尚大		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 2
講義題目	心理学統計法 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	本授業では、心理学の研究においてよく利用される各種統計手法を学修するうえで必要となってくる基礎的な事項について講義を行います。具体的には、心理学研究と統計の関係について解説したうえで分布の記述的指標とその性質について学修し、その後、相関関係の把握と回帰分析、確率モデルと標本分布について学修します。本授業の目標は、これらの内容を理解し修得することです。
授業計画	本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。 第 1 回 オリエンテーション、心理学研究と統計 第 2 回 分布の代表値 第 3 回 分布の散布度 第 4 回 変数の線形変換と標準化 第 5 回 共分散と相関係数 第 6 回 回帰分析に関する解説 1 第 7 回 回帰分析に関する解説 2 第 8 回 相関と共変と因果、測定の妥当性と信頼性 第 9 回 確率モデルと標本分布の基本的な考え方 第 10 回 比率の標本分布の導出 第 11 回 正規分布モデルと平均の標本分布 第 12 回 2 変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布 第 13 回 確率モデルの適用に関する諸問題
授業の方法	すべての回の講義は、対面で実施します。講義は、教科書に基づき作成した資料を利用します。式の展開を実施するので、ノートやルーズリーフ、タブレットなど、式の展開を担当者の板書と一緒に追えるものを持参してください。宿題として、講義回に対応する内容について、統計分析ソフト R を用いた演習課題を 10 回課します。
成績評価方法	期末テスト 60%、R の課題 20%、毎回の感想入力 20%
教科書	南風原朝和（2002）. 心理統計学の基礎——統合的理解のために 有斐閣.
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊（2009）. 心理統計学ワークブッカー理解の確認と深化のために 有斐閣. 石井秀宗（2014）. 人間科学のための統計分析——ここに関心があるすべての人のために 医歯薬出版.
履修上の注意・備考	心理学統計法 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258011	担当教員	能智 正博、稲吉 玲美、大瀧 玲子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 1
講義題目	公認心理師の職責 Professionalism of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師法の施行に伴い、国家資格である「公認心理師」が誕生した。本資格は心理学の知識に基づいて、医療・教育・福祉・産業・司法の主に 5 領域での業務を行うため、その職責の基本についての理解と各領域での実践や連携の在り方の基礎的理解を本講義を通して身に着けることが求められる。 公認心理師の資格を得るためには学部課程で 25 の必修科目を履修することが必須となる。本科目「公認心理師の職責」は公認心理師の必須科目であり、かつ公認心理師という資格の説明会も兼ねている。資格取得に関心を持っているものは幅広く履修することが望まれる。
授業計画	第 1 回：イントロダクション・公認心理師の役割 第 2 回：公認心理師の法的義務及び倫理 第 3 回：リスクマネジメント（利用者の安全確保と情報管理） 第4回：各領域の具体的業務：医療領域① 第 5 回：各領域の具体的業務：医療領域② 第 6 回：各領域の具体的業務：教育領域① 第 7 回：各領域の具体的業務：教育領域② 第 8 回：各領域の具体的業務：福祉領域① 第 9 回：各領域の具体的業務：福祉領域② 第 10 回：各領域の具体的業務：産業領域① 第 11 回：各領域の具体的業務：司法領域① 第 12 回：支援者としての自己課題発見・解決能力 第 13 回：生涯学習への準備
授業の方法	オンラインと対面での実施とする。具体的なスケジュールは初回に配布するスケジュールを確認すること。
成績評価方法	出席点 30%、レポート 70%
教科書	特に指定しない
参考書	講義内で適宜紹介する
履修上の注意・備考	公認心理師の職責 授業計画の順番は変更となることがある。初回にて、スケジュールを説明するので確認すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258012	担当教員	清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査（質問紙）データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場（学校、老人ホーム）の見学も行う。
授業の方法	実習，見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	教育心理学実験演習 I 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09258013	担当教員	山本 義春、森田 賢治、野崎 大地		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論 I Introduction to Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
授業計画	主要な設定課題は以下の通りである(2023 年度)。 ・ICT/IoT とヘルスケア ・日常生活のモバイル行動医学 ・生体のゆらぎとその役割 ・睡眠のしくみ ・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構 ・価値の学習の脳身体機構 ・価値に基づく意思決定の脳身体機構 ・疾患の機序(依存症などに焦点を当てて) ・身体運動の制御・学習の潜在性 ・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン ・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構 ・身体運動の学習過程の科学
授業の方法	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。
教科書	授業内で提示する。
参考書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	身体教育学概論 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理

時間割コード	09258014	担当教員	多賀 厳太郎、東郷 史治、西田 淳志		
単位数	2	学 期	A2	時 限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論Ⅱ Introduction to Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。 発達とは何か・健康とは何か？保健で何を学ぶか？ 心身の発達・心身の健康・発達と遺伝・環境 脳の発達・免疫・アレルギーと感染症予防 睡眠・運動・代謝・セーフティ・プロモーション 認知・言語・学習・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学 動的システム・小児発達障害とはどのようなものか
授業計画	発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ 健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的な方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ
授業の方法	教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。
成績評価方法	出席、レポート、試験の総合評価とする。
教科書	指定はしない。
参考書	ストロガッツ: 非線形ダイナミクスとカオス、 田中久陽、中尾裕也、千葉逸人(訳)丸善出版 2015 木原雅子、木原正博 訳: 医学的研究のデザイン(第4版)メディカル・サイエンス・インターナショナル社
履修上の注意・備考	身体教育学概論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09258015	担当教員	山下 絢		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 4
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling				

授業の目的・概要	このクラスでは、データを用いてどのように学校を描くのか、そのための問題設定、データの所在、基礎的な分析手法について学びます。講義で扱う具体的な事例は教育社会学のトピックを取り上げます。この講義を通じて、データ分析を用いた論文が読めるようになることを主目標としながら、学校や教育のみならず、事象を定量的に説明/議論する際の視点も身につけられるようになることを目標としています。問題を議論するためのデータそのものや、データ分析に関わる最新のトレンドについても紹介し、この講義の受講後に受講者各自がより発展的に学ぶ際のヒントも提示しています。
授業計画	1. イントロダクション 2. リサーチデザイン: データで学校をどう描くのか? 3. 統計資料の整理: どこに、どのような調査データがあるのか? 4. アンケート調査の構成と特徴 5. アンケート調査の実際 6. 変数の種類: どのようにデータで示すのか? 7. 1 つの変数の特徴の記述: 代表値、散布度、標準化 8. 2 つの変数の関係の記述(1): 散布図、共分散、相関係数 9. 2 つの変数の関係の記述(2): クロス表集計、オッズとオッズ比 10. 因果関係と相関関係: 第 3 の変数、疑似相関 11. データ分析の落とし穴: Chance, Bias, Confounder 12. 調整変数と媒介変数 13. 学校に関するデータ分析をめぐる最近のトピック
授業の方法	・担当者による解説 ・グループワーク
成績評価方法	授業への参加度(80%)及び最終レポート(20%)
教科書	指定しない
参考書	・Bohnstedt, George. and Knoke, David. 1998. Statistics for Social Data Analysis, F E Peacock ; 2nd (=1998,海野道郎・中村隆監訳『社会統計学-社会調査のためのデータ分析入門-』ハーベスト社). ・本田由紀.2021.『「日本」ってどんな国?: 国際比較データで社会が見えてくる』筑摩書房 ・King, G., Keohane,
履修上の注意・備考	学校はデータでどう描けるか 本講義は社会調査士資格認定科目(C: 基本的な資料とデータの分析に関する科目)に該当します。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

・教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス

時間割コード	09259101	担当教員	中村 ともえ		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	国語科教育法(基礎) Basic Studies on Japanese Language				

授業の目的・概要	中・高等学校の国語教科書に採録されている(されたことのある)日本の近現代の文学作品を取り上げ、読解する。作品の読解の上でポイントとなる箇所や表現に受講者がフォーカスできるようになること、その上で段階的な発問や活動を設定できるようになることが目標である。
授業計画	導入として、小・中・高等学校の国語教科書に採録されている文学教材を各1作品取り上げ、物語を読むとはどのような経験か、本文に何が書かれていないかを考察する。次に、教科書には作品の一部のみが採録されている作品、具体的には中島敦「古譚」より『山月記』、夏目漱石『夢十夜』より「第一夜」「第六夜」を取り上げ、作品の総体を踏まえて改めて解釈する。また、詩の音読と分析、作品の要約といった活動を通じた読解の方法を提示・体験する。最後に、安部公房の『鞆』『赤い繭』などいくつかの短篇小説を取り上げ、読解のポイントとなる箇所や表現について、段階的な発問を立てる練習をする。
授業の方法	講義形式に加え、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。
成績評価方法	授業内の課題と、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	谷川俊太郎『自選谷川俊太郎詩集』(2013 年、岩波文庫、4003119215)。その他はプリント配布。
参考書	中島敦『ちくま日本文学 012 中島敦』(2008 年、筑摩書房、4480425128)、夏目漱石『夢十夜』(1986 年、岩波文庫、4003101197)、石垣りん『石垣りん詩集』(伊藤比呂美編、2015 年、岩波文庫、4003120019)、茨木のり子『茨木のり子詩集』(谷川俊太郎編、2014 年、岩波文庫、4003119517)、安部公房『壁』(1969 年、新潮文庫、4101121028)・『笑う月』(1984 年、新潮文庫、4101121184)。
履修上の注意・備考	国語科教育法(基礎)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09259102	担当教員	頼所 本一		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)A Practical Studies on Japanese Language A				

授業の目的・概要

【講義にかかわって】1.教育実習に臨む 3 つの『観』 |(1)国語観(対:ことば)| (2)生徒観(対:ひと)| (3)自己観(対:わたし)| 2.テキストとつながる |(1)惚れ込んだテキストを選出する。ほとんどの実習校ではテキスト指定だと思いますが、どうか、そのテキストを惚れ込んでください。|(2)そのテキストから生徒と一緒に考えたい「叙述」を決め出してください。|(3)その叙述には「倫理」と「論理」が内包されています。|(4)国語の授業は、その叙述の意味(倫理)と関係(論理)の編み直しです。|(5)言うなれば国語の授業は、ことばへの気づき直し、問い直し、編み直しです。| 3.生徒とつながる |(1)授業の終わりには「振り返りカード」を生徒に記入させてください。その「振り返りカード」から、その子の考えや思いが見えてきます。|(2)生徒の「読み」の相には、|①『頭』(論理)で読む生徒|②『肌』(五感)で読む生徒|③『経験』で読む生徒|が見受けられます。それらの相の異なる生徒がグループワーク(学び合い)を通して、ことばと向き合う差異を感受し、ことばの意味と関係を編み直していきます。|(3)差異から学びは始まります。|(4)言うなれば、学習課題は、言葉には意味と関係において差異が内在されていることに生徒が気づき直すきっかけでなければならない。|| 4.授業では… |(1)【第1時】テキストとの出会いと対話です。〈あなた〉の聲で音読してみてください。そして、生徒に心に残った叙述とその理由をワークシートに記入させてください。⇒生徒の叙述への needs が掴めるはずです。|(2)【第2時】叙述の意味と関係の編み直し⇒生徒が考えてみたい叙述の意味と関係を明らかにしていきます。同じ叙述でも、頭で考える生徒もいれば、五感で感受する生徒もいる、さらに自分の経験で考える生徒もいます。同じ「ことば」であっても意味や関係性から差異が生まれるのです。その差異がことばの思考を深めます。|(3)【授業で大事なこと】詳細は講義でお話します。|・scaffolding(スキャフォールディング)教師の手立て|・4人グループ編成(学び合い)|・教師の転回⇒学ぶ教師、聴く教師、つなぐ教師| 5.〈わたし〉とつながる |(1)なるべく実習生同士で実習授業を見合いましょう。|(2)授業をみる point⇒生徒の具体的な学びの姿を見て、授業者に伝える。|(3)その子がどんなときに学びが深まったか？ |(4)逆にどんなときに学びが低迷したか？ |(5)生徒にとって必要感のある学習課題だったか？ |(6)Scaffolding(足場架け)は適切だったか？ || 6.本講座の大きな特徴 【『探究の課題』の設定】 本講座の大きな特徴は、教育実習における授業での「学習課題の設定」にあります。|・* どのような学習課題(問い)を設定するかで授業の良し悪しの80%が決まります。|・* 生徒が考えてみたい！！という必要感が無い課題だと教師が引っ張る、生徒にとって受け身の授業になってしまいます。|・* 生徒の motivation を高める学習課題(問い)は… |①生徒が考えてみたい『叙述』を学習課題に据える|②その『叙述』から多様性は生まれるか考える。⇒「意味」の多様性、「関係」の多様性|③正解が無い課題⇒正解・不正解は問題ではありません。大事なことは、生徒がどれだけ「叙述」の意味と関係を編み直したかです。授業の初めに、この叙述の意味を〇〇だと思っていた生徒が授業の終わりでは口口だと気づき直した、問い直した…というように言葉の意味と関係を編み直す授業ができれば凄いことだと思います。生徒のことば観を変えたのですから…。『学び』の最終ゴールは『変わる』ことです。|④そこで、本講座では以下の3つを学習課題の『不問』としています。|①「主題」を問わない⇒この作品の主題は何か？ |②「心情」(登場人物の気持ち)を問わない⇒この登場人物の気持ちは？ 心情は？ |③「理由」(なぜ?)を問わない⇒なぜですか？ |です。主題中心主義の国語の授業から、作品(テキスト)中心主義の授業への転回です。たぶん、みなさんが中学校・高等学校で受けてきた国語の授業とは全く異なる学習課題(問い)だと思います。|本講座で、みなさんと一緒に共有したいことは「教える」(作品論・作家論・文章読解)国語の授業ではありません。テキストのことばを通して読み味わう、読み描く、文脈を読む授業にしたいのです。詳細については実際の講義でお話します。【学習課題 3 つの不問の意図】|①主題(テーマ)を問わない|文学は主題論や作家論を超えている。(作家が書こうとしているものから作品は超えている)|②気持ち(心情)を問わない|文学は不条理の世界を描いています。文学のもつ感情は言葉にできない。気持ちを聞くことで人生の真実が消える。生徒は建前を答えるしかできない。気持ちは「行動」と「状況」のなかに表現されている。|③理由(なぜ?)を問わない|理由は一つではない。文学はそんなに単純なものではない(複

	雑な因果関係)。文学は不条理。不条理のなかに真実がある。不条理のなかで、人は『もう一人のわたし』『もう一人のあなた』『もうひとつの世界』『もうひとつの真実』を生きていく。 【模擬授業の試み】 そして、講義後半は受講生全員に模擬授業(20～30分:受講者数によって時間帯に変更あり)をしていただきます。「教える」授業ではありません。ことばを「読み味わう/読み描く」授業です。受講生(学生)が生徒役になって学習課題を追及します。授業デザインには受講生全員が理解できる『共有の課題』(平等性)と、グループで追及し合う『探究の課題』(質の向上)の2つを設定します。 このような授業デザインづくりや学習課題づくりを受講生の仲間と共有することで、今後の教育実習に生かしていたければ幸いです。
授業計画	1日目『くあなた』を感受していく 1回【演習】 共通テキストによる学習課題の設定の在り方 ⇒どのような学習課題がことばを読み味わうことにつながるのか? 2回【演習ペア】 生徒役である受講生を知る ⇒模擬授業では受講生が生徒役になります。生徒のことを何も知らないで行う授業は授業ではなく講義です。まず、生徒を知っていくことが授業づくりの基本であり、生徒を知ることが学習課題の設定にもつながります。 3回【グループ】 模擬授業での学習課題づくり ⇒グループ間で、どんな学習課題を設定すればいいか話し合ってみてください。構想を練る。 ★学習課題を設定する上での3つの不問 ①テーマ(主題)は問わない ①理由を問わない(どうして?なぜ?) ②気持ち(心情)を問わない 2日目『子どものくらしに身を置くということ』～教育現場で実践を重ねている先輩から学ぶ 4回【講話】 志津田萌さん(現東京都立深川第三中学校教諭 東京大学教育学部教育学研究科博士課程)※予定 5回【演習】 志津田さんを囲んでのreflection 6回【演習】 模擬授業ワークシート作成 3日目『模擬授業「1人30分間」』～くわたし』が構想した学習課題は受講生を夢中にさせたか?工夫させたか?もがかせたか?～ 7回【模擬授業】 1人30分間×3人 *授業者の順番は講義当日お知らせします。 8回【模擬授業】 1人30分間×3人 9回【模擬授業】 ②1人30分間×3人 4日目模擬授業「1人30分間」教師の居方(聴く・つなぐ・もどす)を授業に取り入れる 10回【模擬授業】 ③1人30分間×3人 11回【模擬授業】 1人30分間×3人 12回【模擬授業】 1人30分間×4人 *受講生的人数によって内容に変更もあります。 13回【演習】 講義 reflection
授業の方法	講義 グループ学習(男女混合) 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業(20分間の模擬授業)
成績評価方法	①事前提出物(模擬授業テキスト・メッセージカード等)状況 ②講義中の提出物(保育園見学事後レポート・模擬授業ワークシート)状況 ③講義の出席状況 ④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。4,000字以上。必ず 受講後2週間以内)
教科書	「学びの光源」 頓所本一著 明治図書 2,500円 *Amazonにて購入いただけます。
参考書	「授業研究入門」稲垣忠彦・佐藤学 岩波書店 「学びのゆくえ」牛山榮世 岩波書店 「教師花伝書」佐藤学 小学館 「教師の身体技法」佐藤学 太郎次郎社
履修上の注意・備考	国語科教育法(実践)A
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09259103	担当教員	工藤 裕子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B Practical Studies on Japanese Language B				

授業の目的・概要	本授業は、教育実習に必要な技能を身につけることを目標とします。 目標 1.中等教育における国語科の授業計画と実践の手順を理解し、教材研究に基づく学習指導案を作成する。 2.協働学習、探究的な学習を意識した学習活動を取り入れて授業を計画する。 3.目的と状況に即した教具の選定や使用方法の工夫を取り入れて授業を計画する。 4.授業改善につながる観察の要点を理解し、適切に授業を見学する。
授業計画	第1・2回 中学校・高等学校国語科学習指導要領の目標・内容 第3・4回 国語科における教材の役割 第5・6回 探究的・協働的な学習の意義と方法 第7・8回 教材研究・指導案作成 第9～13回 指導案検討・模擬授業・授業検討 第14回 試験
授業の方法	担当者による講義、受講生による議論、模擬授業、授業検討。
成績評価方法	参加状況・提出物(学習指導案・レポート)・試験により、総合的に評価する。
教科書	【国語編】中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説【国語編】高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説
参考書	【国語編】中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説【国語編】高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説
履修上の注意・備考	国語科教育法(実践)B
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09259104	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎) Basic Studies on Social Studies, Geography and History				

授業の目的・概要	<テーマ> 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解 <到達目標> 1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を 理解している。 2. 中学生(及び高校生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、評価の考え方の基本を理解している。 3. 中学校社会科の学習指導案の構成を理解して(高校への接続を視野に入れて)、具体的に作成できるとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 <授業概要> 本授業は、①社会科の成立からその後の変遷と学習指導要領における社会科(地理・歴史的分野)及び 地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係を把握し、③教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を行う。 その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。
授業計画	* 4／4の第1回目の授業をオンライン授業とする 第1回:オリエンテーションー社会科との出会いー、第2回:社会科の成立ー「問題解決学習と系統学習」ー、第3回:社会科の変遷と新しい学力観ー「『覚える』から『考える』社会科へ」ー、第4回:中学校学習指導要領における社会科(地理的分野)の目標・内容・指導上の留意点、地理歴史科の成立と学習指導要領における地理歴史科の目標と構成、第5回:中学校学習指導要領における社会科と歴史的分野の目標・内容・指導上の留意点、高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点ー「歴史総合」「地理総合」ー、第6回:社会科授業論1(地理的分野)ー「地理的技能、地図の活用と読図・作図」ー、第7回:社会科授業論2(歴史的分野)ー「資料の活用と歴史的思考力」ー、第8回:社会科学習指導案の作成1ー「学習指導案の骨子をつくる」ー、第9回:社会科学習指導案の作成2ー「学習評価と問い、教材の効果的な活用」ー、第10回:社会科学習指導案と模擬授業1ー導入を中心にー、第 11 回:社会科学習指導案と模擬授業2ー「語り」を中心にー、第12回:社会科学習指導案と模擬授業3ー「板書」を中心にー、第13回:社会科地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正 * 模擬授業の回数や方法については受講者の人数により変更あり
授業の方法	講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を 60%、発表活動など授業への取り組みを 40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成 30 年) 文部科学省『高等学校学習指導解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成 31 年)
参考書	荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022 年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成 20 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年) このほか授業中に適宜資料を配布する。
履修上の注意・備考	社会科・地理歴史科教育法(基礎)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09259105	担当教員	田中 暁龍		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践) A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	<テーマ> 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解と指導の実践 <到達目標> 1. 高校学習指導要領における地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を深く理解している。 2. 高校生の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。 3. 地理歴史科にかかわる専門領域や探究的な実践研究の動向を知り、様々な指導理論を理解している。 4. 高等学校地理歴史科の学習指導案の構成を理解して、具体的に作成するとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 <授業の概要> 本授業は、①高校学習指導要領における地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。
授業計画	第1回:オリエンテーションー地歴科における講義型と探究型の授業、 第2回:歴史教育と教科書ー日本の教科書と世界の教科書、共通教科書ー、 第3回:探究型で学ぶ地理歴史科教育の実践と評価ー「思考・判断・表現力等」の育成ー、 第4回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点1ー「地理総合」「地理探究」ー、 第5回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点2ー「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」ー、 第6回:モノ教材の効果的な活用と博学連携、地理情報システム<GIS> 第7回:地域調査ー伝統・文化の理解と持続可能な社会の形成ー 東大赤門出発で本郷地域のフィールドワークを実施し、教材研究を行います 第8回:資料(文字史料・絵画資料等)の効果的な活用と「問い」 第9回:現代的な諸課題と新科目「歴史総合」、学習指導案の作成、 第 10 回:模擬授業1ー導入「効果的な導入とは」、 第 11 回:模擬授業2ー展開「資料の活用」「単元の基軸となる問い」、 第 12 回:模擬授業3ーまとめ「現代的な諸課題とのかかわり」、 第 13 回:社会科・地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返り *学習指導要領の分析結果報告と模擬授業に関しては、履修者の人数により予定を変更します。
授業の方法	本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業運営を進めていく。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を 60%、発表活動など授業への取り組みを 40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成 30 年) 文部科学省『高等学校学習指導解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成 31 年)
参考書	荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022 年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成 20 年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年) このほか授業中に適宜資料を配布する。
履修上の注意・備考	社会科・地理歴史科教育法(実践)A
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09259106	担当教員	武田 竜一		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践) A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	中学校社会科と高等学校における地理・歴史における授業内容について、学習指導要領や教科書などの位置づけを理解した上で、具体的なイメージをつかむ。将来、社会科の教員を志望する者が受講する科目であるため、各自がすぐれた授業実践を積極的に学び、授業デザインを組み立てられるようになることが、最終的な目標となる。戦後に誕生した社会科の歴史をたどりながら、経験主義と系統主義カリキュラムの間で揺れ動いてきた社会科をどう評価し、今後の社会科教育はどうあるべきか、受講者とともに考えたい。
授業計画	1.オリエンテーション 2.社会科教育の歴史とその目標 3.学習指導要領を読み解く① 4.学習指導要領を読み解く② 5.検定教科書の分析 6.社会科における資質・能力 7.主権者教育とシティズンシップ教育 8.授業づくりの実際 9.模擬授業とその検討① 10.模擬授業とその検討② 11.模擬授業とその検討③ 12.模擬授業とその検討④ 13.「主体的・対話的で深い学び」とは？ 14.筆記試験
授業の方法	講義と演習(受講者同士の意見交換、模擬授業の相互評価の実施など)を組み合わせる。毎回のテーマに関心をもち、教員として生きる自身の将来をイメージしながら主体的に参加してほしい。
成績評価方法	模擬授業、筆記試験が主たる評価の材料となるが、授業に積極的に「参加」する姿勢を高く評価する。
教科書	特になし
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領・社会科(平成 29 年告示) 高等学校学習指導要領・地理歴史科(平成 30 年告示) 中学校社会科地理的分野・歴史的分野教科書 高等学校地理総合・歴史総合教科書など その他、適宜授業のなかで参考文献については紹介する。
履修上の注意・備考	社会科・地理歴史科教育法(実践) A
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09259107	担当教員	村野 光則		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 教育実習の基礎知識 第 3 回 学習指導案の作り方 第 4 回 学習科学の知見を授業に生かす 第 5 回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第 6 回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第 7 回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第 8 回 すぐれた授業実践に学ぶ 第 9 回 模擬授業A①(各 20 分＋ふりかえり) 第 10 回 模擬授業A②(各 20 分＋ふりかえり) 第 11 回 模擬授業B①(各 45 分＋ふりかえり) 第 12 回 模擬授業B②(各 45 分＋ふりかえり) 第 13 回 模擬授業B③(各 45 分＋ふりかえり)
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業およびふりかえりレポート, 出席数
教科書	『公共』(実教出版)公共 704
参考書	室橋祐貴『子ども若者抑圧社会・日本』光文社新書 市川伸一『考えることの科学』(中公新書) 汐見稔幸『教えから学びへ』(河出新書) 本田由紀『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書) 宮本太郎『生活保障』(岩波新書) ダン・ロースタイン『たった一つを変えるだけ』(新評論) 瀬木比呂志『現代日本人の法意識』(講談社現代新書)
履修上の注意・備考	社会科・公民科教育法(実践)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09259108	担当教員	村野 光則		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 教育実習の基礎知識 第 3 回 学習指導案の作り方 第 4 回 学習科学の知見を授業に生かす 第 5 回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第 6 回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第 7 回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第 8 回 すぐれた授業実践に学ぶ 第 9 回 模擬授業A①(各 20 分＋ふりかえり) 第 10 回 模擬授業A②(各 20 分＋ふりかえり) 第 11 回 模擬授業B①(各 45 分＋ふりかえり) 第 12 回 模擬授業B②(各 45 分＋ふりかえり) 第 13 回 模擬授業B③(各 45 分＋ふりかえり)
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業とふりかえりレポート, 出席数
教科書	『公共』(実教出版)公共 704
参考書	室橋祐貴『子ども若者抑圧社会・日本』光文社新書 市川伸一『考えることの科学』(中公新書) 汐見稔幸『教えから学びへ』(河出新書) 本田由紀『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書) 宮本太郎『生活保障』(岩波新書) ダン・ロースタイン『たった一つを変えるだけ』(新評論) 瀬木比呂志『現代日本人の法意識』(講談社現代新書)
履修上の注意・備考	社会科・公民科教育法(実践)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09259109	担当教員	家本 繁		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎) Basic Studies on Mathematics				

授業の目的・概要	中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。数学体験館での体験も行う予定である。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。
授業計画	第1回:「数学教育とは」オリエンテーション 第2回:「戦後の数学教育の変遷」学習指導要領の変遷 第3回:「領域研究1」A「数と式領域」(1)文字と式を中心として 第4回:「領域研究2」A「数と式領域」(2)方程式と数の構成 第5回:「領域研究3」B「図形領域」図形の見方(1) 第6回:「領域研究4」B「図形領域」ユークリッド言論に学ぶ(2) 第7回:「領域研究5」C「関数領域」(1)関数の基礎 第8回:「領域研究6」C「関数領域」(2)数学的な見方・考え方 第9回:「領域研究7」D「データの活用領域」データの活用 第10回:「領域研究7」D「データの活用領域」確率について 第11回:デジタル教科書と ICT の活用 第12回: 授業の実際と学習指導案について 第13回: 学習指導案の作成 第14回:まとめと到達度確認
授業の方法	講義とグループ活動・作業的活動を行う。 アクティブラーニングを基本とする。
成績評価方法	平常点および小論文課題と筆記テストを行い、評価する。 学習指導案の作成・提出は必須である。
教科書	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編(平成 29 年 7 月) ※授業開始時まで各自購入しておいてください。
参考書	小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説算数編 (平成 29 年 7 月) 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学・理数編(平成 30 年 7 月)
履修上の注意・備考	数学科教育法(基礎)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09259110	担当教員	中筋 麻貴		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 2
講義題目	数学科教育法(実践)A Practical Studies on Mathematics A				

授業の目的・概要	中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。そのためには、授業技術に加え、関連する幅広い知識が必要である。本講義では、数学教育の目的と現在直面している課題を理解し、これからの数学教育を担う教師として必要な知識と方法をアクティブ・ラーニング(双方向授業・模擬授業など)を取り入れた講義を通して学んでゆく。具体的には、中学校数学の検定教科書を用いた教材研究、指導案作成および模擬授業とその評価を中心に講義を進める。また、時間が許す範囲で教員採用試験対策に取り組む。 到達目標は以下の通りとする。 (1)これからの数学教育のあり方、課題点について学ぶ。 (2)中学・高校数学の指導内容を深く理解し、よりよい授業の指導法(デジタル教材および ICT 機器の活用を含む)を習得する。 (3)生徒の数学に対する意識をふまえ、興味・関心をひきだす授業展開の考察 以上の内容をもとに、現在の数学教育における問題や課題点に対し、主体的に解決できる能力を身につけることを到達目標とする。
授業計画	第 1 回:オリエンテーション。中学・高等学校の学習指導要領の確認および授業分担について 第 2 回:教材研究の重要性と学習指導案の作成について 第 3 回:模擬授業 1 (1 年:文字式),「導入」の仕方 第 4 回:模擬授業 2 (1 年:方程式), 発問と声かけ 第 5 回:模擬授業 3 (1 年:比例と反比例), 板書指導 I 第 6 回:模擬授業 4 (1 年:平面図形と空間図形), プリント教材の作成 第 7 回:模擬授業 5 (2 年:連立方程式), デジタル機器の利用 第 8 回:模擬授業 6 (2 年:1 次関数), 模擬授業の評価 第 9 回:模擬授業 7 (2 年:平行と合同／三角形と四角形), 板書指導 II 第 10 回:模擬授業 8 (2 年:確率), 教材研究 第 11 回:模擬授業 9 (3 年:平方根), 教員採用試験にむけて I 第 12 回:模擬授業 10 (3 年:二次方程式／関数 $y=ax^2$), 教員採用試験にむけて II 第 13 回:模擬授業 11 (3 年:円／三平方の定理), 教員採用試験にむけて III 第 14 回:振り返りおよび到達度確認
授業の方法	中学校数学の検定教科書を用いた教材研究, 指導案作成および模擬授業とその評価, および受講生としての授業参加を必須として行う。
成績評価方法	模擬授業, 模擬授業の学習指導案, 授業参加, 課題を総合的に判断し評価する。
教科書	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示) 中学校学習指導要領解説・数学編(平成 29 年 7 月, 文部科学省) 中学校数学の検定済教科書
参考書	数学教育, 模擬授業, 教員採用試験を扱うテキストであれば, どれを参考にしてもよい。
履修上の注意・備考	数学科教育法(実践)A 講義資料の提供については授業内で連絡する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09259111	担当教員	西脇 佳子、今野 雅典		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B Practical Studies on Mathematics B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	第1回:「数学」と「学校数学」との違い 第2回: 現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム 第3回: 学習指導要領の歴史 第4回: 学習指導法 第5回: 評価 第6回: 教材研究(空間図形の模型作りを例にして) 第7回: 教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして) 第8回: 教材開発(教科書の問題を生かす) 第9回: 教材開発(生徒の反応・誤答を生かす) 第10回: 数学的な考え方 第11回: ICTの活用 第12回: 数学的モデル化 第13回: 学習指導案の書き方 第14回: 模擬授業(学習指導案の進め方) 第15回: 模擬授業(授業を評価する)
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
参考書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
履修上の注意・備考	数学科教育法(実践)B 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09259112	担当教員	對比地 覚		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	理科教育法(実践)A Practical Studies on Natural Science A				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。 理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、演習や模擬授業で実践する。 具体的には「理科教育では何をするのか」、「指導案の作成」、「実験・観察を含む授業運営」、「評価の演習」などの事項を扱う。 この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 理科教育の目的・学習指導要領 2. 授業の方法 3. 学習指導案の書き方 4. 学習指導案の作成/検討 5. 評価の方法 6. 評価の演習Ⅰ 7. 実験・観察の意義 8. 授業における安全管理 9. 模擬授業の準備 10. 模擬授業① 11. 模擬授業② 12. 探究活動の指導 13. 評価の演習Ⅱ 14. 昨今の学校教育を取り巻く動向
授業の方法	実技演習や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校理科 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校理科
履修上の注意・備考	理科教育法(実践)A
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09259113	担当教員	田邊 康夫		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 4
講義題目	理科教育法(実践)C Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。 理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。 この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業I① 9. 模擬授業I② 10. 実験・観察の意義・授業における安全管理 11. 模擬授業Ⅱ① 12. 模擬授業Ⅱ② 13. 模擬授業Ⅱ③
授業の方法	・講義や解説 ・グループワークによる検討、模擬授業の実践
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、模擬授業、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	理科教育法(実践)C
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09259114	担当教員	青木 秀憲、上岡 洋晴		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)A Practical Studies on Health and Physical Education A				

授業の目的・概要	保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営では、自身の技術、知識、経験などをもとに構成することが基本となるが、中学生・高校生の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは難しい。授業は不測の問題が発生する危険を常に帯びており、そのような事態に的確に対応することも求められる。また、授業運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備と現場での実行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした能力を養成する第一歩と位置付けている。 保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を希望する場合を除き、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。なお、教員免許取得を希望する者は下記の「その他」の欄を参照のこと。 本授業は、2024 年度 S2 で「実践 B」が、A2 で「実践 C」が既に開講されており、今回の「実践 A」では過去に「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生じる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。 The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class. The main things to do in this class are followings: •Understanding physical education curriculum guidelines •Creating physical education lesson plans •Having a mock physical education class
授業計画	主に以下の内容を学習するが、既修者と初修者では授業内容に若干の違いが生じる場合もある。 1. イントロダクション 体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義 2. 学習指導案の考え方・理念 3. 未熟練者の動作の分析 4. 学習指導案・授業時案の作成および発表・質疑 5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校等での授業見学) 6. 体育実技模擬授業を一人 2 回程度(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施) 7. 体育実模擬授業振り返り 8. ニュースポーツの理解および実践 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続(火曜 1 限・2 限)で実施し、S2 の期間中に合計 7 回授業日がある。
授業の方法	本授業はすべて対面で実施する。履修希望者は第 1 回の授業日に直接教室に集合すること。授業期間の前半は講義、ディスカッション、作業が中心。後半は履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う体育実技の模擬授業や、学校現場に出向いて行う授業見学など、実習が中心となる。
成績評価方法	実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。
教科書	文 部 科 学 省 . 中 学 校 : 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 度 告 示) 「 第 7 節 保 健 体 育 」 . https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf その他、随時、授業時に紹介する。
参考書	必要があれば、随時授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	保健体育科教育法(実践)A <注意:教員免許状取得を考えている学生へ> 平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計8単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。 教員免許状の取得を希望する場合、自身に

時間割コード	09259115	担当教員	青木 秀憲		
単位数	2	学 期	A2	時 限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)B Practical Studies on Health and Physical Education B				

授業の目的・概要	保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営は、自身の技術、知識、経験などをもとに構成することが基本となるが、中学生・高校生の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは難しい。授業は不測の問題が発生する危険を常に帯びており、そのような事態に的確に対処することも求められる。また、授業運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備と現場での実行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした能力を養成する第一歩と位置付けている。 保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を希望する場合を除き、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。教員免許取得を希望する者は、下記の「その他」の欄を参照のこと。 本授業は、2024 年度 S2 で「実践 B」が、A2 で「実践 C」が既に関講され、2025 年度は S2 で「実践 A」、A2 で「実践 B」が関講される。従って、本年度の「実践 B」では過去に「実践」を履修した者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。そのため既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。 The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class. The main things to do in this class are followings: ・Understanding physical education curriculum guidelines ・Creating physical education lesson plans ・Having a mock physical education class
授業計画	本授業の主な内容は以下の通り。 1. イントロダクション(体育教師に求められる役割、東京大学で体育を学ぶ意義等) 2. 学習指導指導要領、学習指導案の理解および指導時案(授業案)の作成実習 3. 教育学部附属中等教育学校授業見学 4. 運動指導実践例学習 5. 体育実技模擬授業 6. 保健模擬授業 7. 体育・スポーツでの安全管理 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続(火曜日 1 限、2 限)で実施し、A2 期間中に合計 7 回の授業を行う。 ※「運動指導実践例学習」は様々な運動指導現場で活動する方をゲストスピーカーとしてお招きし、その活動の様子を伺い、質疑を実施するもの。 ※履修者の人数や既修者、初修者の人数比率によっては上記スケジュールの一部を調整、変更する場合がある。
授業の方法	中学校、高等学校の体育や保健の授業を想定し、履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う「模擬授業」と、実際の学校現場に出向いて行う「授業見学」など、実践的な実習が授業の中心となる。なお、初めて「保健体育科教育法(実践)」を履修する者が多い場合は、基本事項(学習指導案の解説、動作分析等)の比率を高める場合もある。本授業はすべて対面で実施する予定。履修希望者は第 1 回の授業日に、直接教室へ集合すること。
成績評価方法	実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。
教科書	文 部 科 学 省 . 中 学 校 : 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 度 告 示) 「 第 7 節 保 健 体 育 」 . https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf その他、随時、授業時に紹介する。
参考書	必要があれば、随時授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	保健体育科教育法(実践)B <注意:教員免許状取得を考えている学生へ> 平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身

体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計8単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。
また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する
(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。| 教員免許状の取得を希望する場合、自身に

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09259116	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	英語科教育法(実践)A Practical Studies on English Language A				

授業の目的・概要	授業の到達目標及びテーマ 1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。 2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。 3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。 4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。
授業計画	第1回:イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】 第2回:英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】 第3回:学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】 第4回:英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】 第5回:4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】 第6回:4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】 第7回:新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】 第8回:ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板、生成 AI】 第9回:授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】 第10回:学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】 第11回:録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】 第12回:新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】 第13回:ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】 第14回:学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】 第15回:授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】
授業の方法	まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。
成績評価方法	毎回の講義内容に関するリアクションペーパー（20%）、模擬授業の学習指導案（20%）、模擬授業への講評と議論（20%）、グループ・ワークによるマイクロティーチング（20%）英語教育に関する最終レポート（20%）を総合的に評価する。
教科書	小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東洋館出版社 ISBN978-4-491-03460-7 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05168-5 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1558-50 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2 高等学校学習指導要領(平成 30 年 3
参考書	JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店 Jim Scrivener. (2011) Leaning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition. Oxford: Macmillan Books.
履修上の注意・備考	英語科教育法(実践)A

時間割コード	09259117	担当教員	高橋 和子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	英語科教育法(実践)B Practical Studies on English Language B				

授業の目的・概要	小学校・中学校・高等学校の英語教材に焦点を置いて、これらの構造と特色を踏まえた授業実践を目指します。【目標】 1) コミュニケーション能力育成を目指す日本の英語教育のあり方を、英語教材の変遷を通して理解することができる 2) 英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色を理解することができる 3) 小学校・中学校・高等学校における、英語教材のあり方を理解することができる 4) 英語で書かれたテキストをもとに、自ら英語教材を作成することができる【概要】 ・コミュニケーション能力重視の英語教育と、英語教材の変遷について ・英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色について ・各校種における英語教材の特色について ・英語教材と問いの立て方について ・デジタル時代における英語教材のあり方について
授業計画	第1回: イントロダクション 第2回: コミュニケーション能力重視の英語教育と英語教材: 1980年代以降を中心に 第3回: 英語教材の見かた: 本文、質問／発問、学習活動／言語活動 第4回: 小学校英語教材(1) 会話文 第5回: 小学校英語教材(2) 絵本・物語文 第6回: 中学校英語教材(1) 会話文 第7回: 中学校英語教材(2) 説明文 第8回: 中学校英語教材(3) 物語文 第9回: 高等学校英語教材(1) 会話文 第10回: 高等学校英語教材(2) 説明文 第11回: 高等学校英語教材(3) 物語文 第12回: これからの英語教材 第13回: 最終レポート ※注意: 上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。
授業の方法	・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習を組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。
成績評価方法	・課題(教材作成を含む)50%、最終レポート 50% ・上記にグループワークの成果等も踏まえて、総合的に評価します。
教科書	・LMSで教材を配布します。 ・小学校・中学校・高等学校『学習指導要領』、および『学習指導要領解説』を使用します。 以下の文部科学省ホームページより入手可能です(2025年2月9日現在): https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
参考書	・田中武夫・田中知聡 (2018)『英語授業の発問づくり』明治図書 ・Berger, Warren. & Foster, Elise. (2020). Beautiful questions in the classroom. Corwin. ・McKee, Robert. (2014). Story: Substance, structure, style, and the principles of screenwriting.
履修上の注意・備考	英語科教育法(実践)B ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、ITC-LMSのお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09259118	担当教員	根子 雄一郎		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)C Practical Studies on English Language C				

授業の目的・概要	第二言語習得および英語教授法に関する理論とその教育現場における実践的応用を学び、中等教育における英語指導の効果的な実施を目指す。具体的には、単元計画および授業案の作成、授業の実施、ならびに学習効果の測定と評価を適切に行う能力の習得を目的とする。 This course offers an overview of Second Language Acquisition (SLA) theories and various approaches and methods in English language teaching. By the end of the course; students are expected to be able to plan and deliver effective English lessons. They will develop skills in designing a course of English lessons; conducting English language instruction in the classroom and creating assessments to evaluate learners' progress.
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 第二言語習得① 第3回 第二言語習得② 第4回 外国語教授法① 第5回 外国語教授法② 第6回 学習方略と動機付け 第7回 学習効果測定と評価 第8回 授業計画 第9回 単元計画 第 10 回 学習指導案 第 11 回 模擬授業① 第 12 回 模擬授業② 第 13 回 まとめ
授業の方法	講義およびディスカッションを通じて、英語教育に関する知識と理解を深める。さらに、後半の授業においては、習得した知識と考え方を応用し、授業計画を立案した上で模擬授業を実施する。受講者同士の対話を通じて学びを深めることを期待する。
成績評価方法	以下の3点で評価をする。評価の観点については授業内で説明する。 (1)単元計画・学習指導案・模擬授業 コースの終わりに模擬授業を行う。その際に単元計画と学習指導案を作成する課題を課す。 (2)エッセイ 英語の授業に関するトピックについて、エッセイ課題を課す。 (3)授業への参加 受講者同士のディスカッションや模擬授業に対するフィードバックなど、授業への貢献を総合的に評価する。
教科書	授業の際に担当教員が資料を配布する。
参考書	英語教授法について Richards, J. C., & Rodgers, T. S. (2014). Approaches and methods in language teaching. Cambridge university press. 第二言語習得について Vanpatten, B., & Benati, A. G. (2010). Key terms in second language acquisition. Ne
履修上の注意・備考	英語科教育法(実践)C
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09259119	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ Educational Principles II				

授業の目的・概要	本授業は、教職課程の「教育の基礎的理解の関する科目」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に該当する科目である。教育とはどのような営みなのか、何をもって教育と定義するのか、そして教育とはどのような歴史的経緯を辿って今の在り方になったのか、といった原理的な問いに対峙しつつ、これから教職に就き未来の教育を創りあげる者としての自覚と課題意識を身につけるための、準備作業として位置づける。 この授業を通じて、受講生は(1)社会の変化と教育に関する出来事を結びつけ、社会・歴史的構成物として教育を捉える視点をもつことができる、(2)教育実践の背後の理念を捉え、理念から具体的な教育実践へとつなげる道筋を描くことができる、(3)現代の教育を巡る諸課題に対し、多様かつ幅広い視点からアプローチすることができる。
授業計画	1. 教育を捉える枠組み (1)「人間は教育によってのみ人間となることができる」 (2)「子ども」の発見と子ども観の変遷 (3)日本の教育の歴史(1) (4)日本の教育の歴史(2) 2. 発達を巡る理論と実践 (1)発達という物語 (2)甘えと依存 ～日本の子育ての原理～ (3)脱・発達論とその行く末 3. 学校教育の輪郭 (1)オルタナティブ・スクール (2)教えない教育は可能か ～わざの習得と伝達～ (3)学校教育の外へ 4. 教育を巡る諸議論 (1)教育と経済原理 (2)愛と欲望の教育 (3)3.11 が教育に問いかけるもの
授業の方法	講義形式を基本とするが、可能な範囲でディスカッションの時間も設ける。 振り返りシートを用い、双方向的な授業を試みる。
成績評価方法	期末レポート(60%)、振り返りシート(40%)
教科書	特に指定しない
参考書	授業時に指示する
履修上の注意・備考	教育原理Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照

時間割コード	09259120	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2	学 期	S1	時 限	金 1, 金 2
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	【目標】 学習および発達の過程について理解を深め、発達段階に即した子どもの心理的特性を理解し、教育実践場面へつなげるための基礎となる考え方を身につける。 1. 教育心理学で扱われてきた学習の原理、発達、思考の特徴などについて理解を深める。 2. 発達段階に即して子どもの心的メカニズムを理解し、教育実践へつなげるための能力を育む。 3. 教員になったときに直面する問題に対して、心理学的な観点から考えることができる。 【概要】 教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」を中心に子どもの発達状況に応じてどのような心理メカニズムが働いているかについて理解を深めていく。
授業計画	第1回:学習の原理 第2回:記憶のメカニズム 第3回:乳児期から児童期の発達の過程 第4回:青年期以降の発達の過程 第5回:ことばや概念の発達 第6回:問題解決と推論のプロセス 第7回:協同で取り組むことの効果 第8回:学習方略の有効性 第10回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ 第11回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ 第12回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは 第13回:活動性を高める授業づくり 第14回:教育実践に対する教育心理学の貢献 第15回:まとめ
授業の方法	一部オンライン授業を取り入れます。 オンライン＋対面で授業を進めます。具体的な方法については初回の授業で案内しますので必ず参加してください。
成績評価方法	授業への貢献度(10%)各回の課題提出 レポート(30%) 学期末試験(60%) ただし、出席状況(各回の課題提出の状況)が悪い場合には試験の結果によらず不可とします。 ※授業実施方針によりオンライン授業となった場合には、学期末試験をレポートに置き換えます。
教科書	特に指定しない。
参考書	『絶対役立つ教育心理学』第二版 藤田哲也編 ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	教育心理Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照 ※D 参照

時間割コード	09259121	担当教員	堤 英俊		
単位数	1	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	特別支援教育総論 I				
	An Introduction to Special Needs Education I				

授業の目的・概要	本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。
授業計画	次のようなテーマを検討する。 1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮 3. 障害の個人モデルと社会モデル 4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性 5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等) 6. 人種・国籍・性・母国語、貧困等の理解 7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ 8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体 9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用 10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習 11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携 12. 個別の指導計画・個別的教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動 13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育 14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて 15. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題
授業の方法	講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクションペーパー(40%)、課題レポート(60%)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書	堤英俊(2019)『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたちーインクルーシブ社会への教育学ー』東京大学出版会。 木村泰子・小国喜弘 編(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。 インクルーシブ授業研究会 編(2025)『インクルージョンの物語を織るカリキュラムづくり』ミネルヴァ書房。 原田琢也・伊藤駿 編(2024)『インクルーシブな教育と社会ーはじめて学ぶ人のための 15 章ー』ミネルヴァ書房。 この他、授業の中で関係する文献を紹介する。
履修上の注意・備考	特別支援教育総論 I 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

時間割コード	09259122	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	教育課程Ⅱ Curriculum Studies II				

授業の目的・概要	テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」 日本の教育課程の歴史的変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。
授業計画	第1回:教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性 第2回:現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程 第3回:教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係 第4回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期 第5回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958 年~1977 年 第6回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989 年~1998 年 第7回:2017 年改訂学習指導要領の全体構造と特徴－2008 年学習指導要領との比較を通して 第8回:カリキュラム・マネジメントの意義 第9回:カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価 第10回:カリキュラム・マネジメントの方法 第11回:教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶー小学校 第12回:総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶー中学校 第13回:教育課程の試作ー学校教育目標を検討する 第14回:試作した教育目標と教科の関係を検討する 第15回:試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する
授業の方法	全面对面授業 1)授業形式は講義。 2) 毎回、講義への感想の提出を求める(当日の授業時間内に提出)。 3)感想ではなく、アンケートや特定のテーマについての意見を求めることもある。
成績評価方法	感想の提出(50%)、テスト(50%)の合算による。
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領解説 総則編』。いずれも文部科学省ホームページからダウンロード可能。
参考書	根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房、2019
履修上の注意・備考	教育課程Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09259123	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理学的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。
授業計画	道徳教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。
授業の方法	講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、報告をおこなう。
成績評価方法	成績は、授業時間内に行うコメント、小レポート、課題提出で判断する。成績評価対象者は、全授業の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。
教科書	教科書は使用しない。
参考書	参考書は使用しないが、次のものを使用する。 1 文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』 2 文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) 総則編』 3 文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) 特別の教科 道徳編』 3 は、可能であれば持参すること。 その他、関連する資料・文献等は授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	道徳教育法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 ※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09259124	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	S1	時 限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 ー 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていくか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的(探究的)な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。
授業計画	授業計画 第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 第7回 授業案発表
授業の方法	総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人が一人ひとりで実際の授業を構想し、グループでの相互評価を元に さらに練り上げて学習指導案に結実させる。
成績評価方法	毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	総合的な学習の時間の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09259125	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	S2	時 限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 ー 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていくか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的(探究的)な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。
授業計画	授業計画 第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 第7回 授業案発表
授業の方法	総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人が一人ひとりで実際の授業を構想し、グループでの相互評価を元に さらに練り上げて学習指導案に結実させる。
成績評価方法	毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	総合的な学習の時間の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09259126	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	A1	時 限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 ー 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていくか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的(探究的)な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。
授業計画	授業計画 第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 第7回 授業案発表
授業の方法	総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人が一人ひとりで実際の授業を構想し、グループでの相互評価を元に さらに練り上げて学習指導案に結実させる。
成績評価方法	毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	総合的な学習の時間の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09259127	担当教員	林 尚示		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	特別活動は、各教科、特別の教科道徳および総合的な学習の時間以外の教育活動として、生徒の学校や学級の生活における具体的な展開に即した種々の価値の高い教育活動を統合したもので、教育課程の基準の中に位置付けられているものです。望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標としています。この目標を達成できるように指導する方法を学びます。
授業計画	1 オリエンテーション 授業内容・講義の進め方等 2 特別活動とは 3 学級活動・ホームルーム活動の目標と内容 4 学級活動・ホームルーム活動の評価方法と学習指導案 5 模擬学級活動・ホームルーム活動 6 児童会活動・生徒会活動の目標と内容 7 児童会活動・生徒会活動の評価方法と学習指導案 8 模擬生徒会活動 9 クラブ活動・部活動の目標と内容 10 クラブ活動・部活動の評価方法と指導計画 11 学校行事の目標と内容 12 学校行事の評価方法と学習指導案 13 模擬学校行事 14 授業の振り返り
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加してください。
成績評価方法	各回の授業課題(60%)、授業参加態度等(40%)により、総合的に判断する。
教科書	林尚示編(2022).特別活動-改訂二版:総合的な学習(探究)の時間とともに(教師のための教育学シリーズ).学文社 ○講義内容及び今日的な教育課題を盛り込んだ自作教材を配布
参考書	中学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ) 高等学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)(同前)
履修上の注意・備考	特別活動の指導法 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照 ※1 参照

時間割コード	09259128	担当教員	林 尚示		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities				

授業の目的・概要	特別活動は、各教科、特別の教科道徳および総合的な学習の時間以外の教育活動として、生徒の学校や学級の生活における具体的な展開に即した種々の価値の高い教育活動を統合したもので、教育課程の基準の中に位置付けられているものです。望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標としています。この目標を達成できるように指導する方法を学びます。
授業計画	1 オリエンテーション 授業内容・講義の進め方等 2 特別活動とは 3 学級活動・ホームルーム活動の目標と内容 4 学級活動・ホームルーム活動の評価方法と学習指導案 5 模擬学級活動・ホームルーム活動 6 児童会活動・生徒会活動の目標と内容 7 児童会活動・生徒会活動の評価方法と学習指導案 8 模擬生徒会活動 9 クラブ活動・部活動の目標と内容 10 クラブ活動・部活動の評価方法と指導計画 11 学校行事の目標と内容 12 学校行事の評価方法と学習指導案 13 模擬学校行事 14 授業の振り返り
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加してください。
成績評価方法	各回の授業課題(60%)、授業参加態度等(40%)により、総合的に判断する。
教科書	林尚示編(2022).特別活動-改訂二版:総合的な学習(探究)の時間とともに(教師のための教育学シリーズ).学文社 ○講義内容及び今日的な教育課題を盛り込んだ自作教材を配布
参考書	中学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ) 高等学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)(同前)
履修上の注意・備考	特別活動の指導法
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照 ※1 参照

時間割コード	09259129	担当教員	黒田 友紀		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ Teaching Methods II				

授業の目的・概要	【概要】本授業では、教育方法の理論や、学びや授業、教育評価に関する基本的な考え方について理解し、さまざまな学習形態や ICT・教材教具を活用した授業を具体的にデザインできることをねらいとする。また、実際の授業映像の分析から平等で質の高い学びについて検討し、「学びの専門家」としての教師の技(アート)についてともに考察を行いたい。 【目標】・教育方法の理論と歴史、子どもの学びや授業、教育評価などの基礎的事項について理解する。 ・授業の目的に応じ、学習形態・教材教具や ICT を活用して、具体的に授業をデザインすることができる ・教材研究の方法や授業の構成を考え、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。
授業計画	1. 教育方法とは何か、授業について振り返る 2. 授業とは何か、教えると学ぶ、授業という場 3. 教育方法の理論と歴史(1)一斉授業の成立 4. 教育方法の理論と歴史(2)子ども中心主義・進歩主義の教育 5. 授業のデザイン(1)多様な空間・学習形態 6. 教育のデザイン(2)カリキュラムと授業デザイン 7. 教育のデザイン(3)課題の設定・教材・教具 8. 教育方法の実践例(1)協働的な学び、アクティブ・ラーニング 9. 教育方法の実践例(2)ICT の活用 10. 教育評価(1)教育業過とは何か、学習指導案の作成方法、教材研究 11. 授業評価(2)教育評価の理論と方法 12. 授業評価(3)授業デザインと評価:何を評価するか、どんな資質能力を測定するか 13. 授業の省察:子どもの学びの様子から考える 14. 授業の省察:授業研究と協議会での学び、教師の学びと成長 15. これまでのまとめ
授業の方法	・主として、授業のテーマに沿って共有した資料に基づいて、講義＋小グループによるディスカッションと質疑＋補足説明によって授業をすすめる。 ・授業ビデオの視聴を行う場合、小グループおよび全体でのディスカッションを行い、その後リフレクションとして小レポートを作成してもらう。
成績評価方法	授業のリアクションペーパー・小レポート(50%)、授業・議論への参加(15%)、最終レポート(35%)で総合的に評価する。
教科書	特に指定せず、必要な資料は適宜共有する。
参考書	佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年 小室弘毅・齋藤智哉編著『ワークで学ぶ教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019 年 その他、講義の中で、適宜資料を配付する。
履修上の注意・備考	教育の方法Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09259130	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2	学 期	A1	時 限	金 2, 金 3
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

授業の目的・概要	■授業の概要 もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょう？ 教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。 受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ生徒の立場で生徒指導・進路指導を経験してきたはずです。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場になって理解を深めていきましょう。 ■授業の目標 本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。 ■授業の到達目標 1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。 4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。 6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。 ■Course overview If a student falls asleep in class&comma; how should the teacher respond? In the presence of a middle school student who expresses reluctance to attend high school&comma; what manner of discourse would be appropriate? In response to a consultation about being ignored by classmates&comma; what specific steps should be taken? A teacher's daily existence is a series of difficult decisions. Student guidance and career counseling are both arduous educational activities that reach into the deepest&comma; most profound depths of a child's personality and dignity&comma; and while it is possible for children to hold their teachers in awe as "lifelong mentors&comma;" there is also the potential for deep harm. All of you students have probably experienced student guidance and career counseling in your previous school lives. In this lecture&comma; using those memories as a foundation&comma; let us deepen our understanding while assuming the standpoint of a teacher.
授業計画	第1回: 生徒指導・進路指導の意義と目的 第2回: 生徒指導の現状(1)学校の抱える問題(体罰) 第3回: 生徒指導の現状(2)学校の抱える問題(行き過ぎた指導) 第4回: 生徒指導の現状(3)学校の抱える問題(校則問題) 第5回: 生徒指導の理論(1)生徒指導の原理と学校教育裁判 第6回: 生徒指導の理論(2)教師の生徒指導上の諸問題の背景要因 第7回: 生徒指導の方法(1)特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携 第8回: 生徒指導の方法(2)対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST 第9回: 生徒指導の方法(3)暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱・インターネット使用等の現状と対応 第 10 回: 進路指導の理論と方法(1)進路指導・キャリア教育の原理 第 11 回: 進路指導の理論と方法(2)進路指導の科学(職業選択編) 第 12 回: 進路指導の理論と方法(3)進路指導の科学(進学指導編) 第 13 回: 進路指導の理論と方法(4)進路指導のケーススタディ 第 14 回: 総括
授業の方法	・2 週目以降に班分けを行い、毎週グループディスカッションを実施します。 ・毎授業後にコメントペーパー等の提出を求め、内容を履修者に匿名で共有します。 ・配付資料はすべて ITC-LMS 上で配付します。 ・授業は基本的にすべて録画し、復習や補講に供する予定です。 ・授業内で扱いきれない内容(分野別の職業指導等)について、オンデマンド

	動画を提供します(受講は任意です)。
成績評価方法	・対面授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内評価 60%(発言・グループワーク・コメントペーパー、ピアレビュー等)、期末レポート 40%で評価します。 ・対面授業について遅刻・欠席・早退をした場合は、次週授業までにビデオ補講を実施することを求めます。 ・期末レポートの評価方法には、履修者相互の匿名ピアレビューを含みます。
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回資料を電子媒体で配付します。
参考書	・文部科学省『学習指導要領』および『学習指導要領解説 総則編』(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm) ・文部科学省『生徒指導提要』2022年版(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm)。 ・内田良・山本宏樹[編著]『だれが校則を決めるのか: 民主主義と学校』岩波書店、2022 年。 ・山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指
履修上の注意・備考	生徒指導・進路指導 学生からの質問・相談には随時お答えしていますので、お気軽にご連絡ください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照 ※K 参照

時間割コード	09259131	担当教員	北原 祐理		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II				

授業の目的・概要	【目的】教育相談とは、児童・生徒一人ひとりの心理社会的発達や教育上の問題を理解し、人格的な成長を促進する活動です。その過程では、個人が各々の発達に即して自己理解を深め、集団の中で他者との関係性を育むことを援助することが求められます。学校現場における教育相談は、教員や心理職の個別の活動に限らず、両者の連携や組織風土を通して実践されます。本講義では、児童・生徒を理解するための心理学的知識や対応例を学び、受講者自身の専門性や立場を交えて教育相談の実践について考えることをめざします。 【到達目標】 ① 学校における教育相談の理念について説明することができる。 ② 児童・生徒の課題や不適応の意味を多角的な視点から説明することができる。 ③ カウンセリングの理論や技法に関する基礎知識を身につける。 ④ 教育相談における組織的な取り組み(支援計画の作成、学内外の連携など)の必要性を理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション:なぜ教育相談を学ぶのか 第2回 子どもを理解するためのまなざし:児童期 第3回 子どもを理解するためのまなざし:思春期 第4回 教育相談におけるアセスメント 第5回 心理検査の実際と活用 第6回 子どもと関わる:カウンセリングの理論 第7回 子どもと関わる:カウンセリングの実践 第8回 子どもと関わる:メンタライジングの理論と実践 第9回 チームとしての学校:組織的な支援体制 第 10 回 生徒指導上の諸課題:不登校、いじめ 第 11 回 特性を踏まえた援助:発達障害 第 12 回 集団を育てる:心の健康教育 第 13 回 教師のメンタルヘルスと自己理解
授業の方法	講義形式を基本として、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。受講者は毎授業後に自身の考えや気づきをまとめたリアクションペーパーを提出し、これが出席点として換算される。必要に応じて、授業の冒頭でリアクションへのフィードバックを行う。
成績評価方法	・出席状況(リアクションペーパー):40% ・課題(グループ討議・小レポート):20% ・期末レポート:40% ※ 積極的な参加を求めるとともに、教職科目のために参加状況が芳しくない者は不可とすることがある。
教科書	指定しない。授業中に資料を配布する。
参考書	「絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う」藤田哲也(監修) ミネルヴァ書房(2017 年) 「やさしく学ぶ教職課程 教育相談」角南なおみ(編著) 学文社(2020 年) 「子どもを支援する教育の心理学」村上香奈・山崎浩一(編) ミネルヴァ書房(2021 年) 「深掘り! 関係行政論 教育分野」高坂康雅 北大路書房(2021 年) 「実践・子どもと親へのメンタライジング臨床:取り組みの第一歩」西村馨(編著) 岩崎学術出版社(2022 年)
履修上の注意・備考	教育相談Ⅱ ※本科目は持ち出し科目に該当します。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照 ※L 参照

時間割コード	09259132	担当教員	未定		
単位数	3	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習 I Student Teaching I				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、2 月に 1 日、3 月に 1 日の計 2 日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第 1 週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第 2 週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7 月または 11 月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後 1 週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員 2 名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	教育実習 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (2 週間)

時間割コード	09259133	担当教員	未定		
単位数	5	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習Ⅱ Student Teaching II				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、2 月に 1 日、3 月に 1 日の計 2 日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第 1 週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第 2 週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7 月または 11 月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後 1 週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員 2 名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	教育実習Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (3 週間以上)

時間割コード	09259134	担当教員	藤江 康彦、浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	学校体験活動 I Experience in School Activities I				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動について、観察と参加を通じて理解を深める。 2. 児童及び生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 3. 教師の活動の観察を通して、教師の役割や校務分掌のありかたについて理解する。 4. 授業の観察とその記録を通して、児童及び生徒の学習過程、教師による学習環境デザインのありかたを事例的に理解する。 5. 上記 1～4 についての省察を通して、教育実習における自己の目標を設定し、教職への関心や意欲を高める。
授業計画	事前指導は、5 月中旬以降(S セメスター)または 9 月中旬以降(A セメスター)の 2 日間(約 7 時間)で、本学担当教員による事前講義及び本学教育学部の事務担当から事務上の諸注意についての説明を行う。また、受入校において、学校管理職や担当教諭による講義・指導(学校体験活動の概要説明)、担当教員による実習内容の詳細な説明及び実習の進め方について打合せと指導を行う。 本活動の指導計画は、受入校によって異なるため一概には記載できないが、受入校における教育活動をはじめとする活動全般について、支援や補助業務を行う。大学における科目担当教員が受入校の受入担当教諭と密に連携をとり、指導を進める。その際に、履修者は毎回の活動の自己評価シートを提出し、その内容の確認を受入校の担当教諭と本学担当教員が行い、フィードバックを行う。 事後指導は、活動期間終了時に随時実施され、本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者により、活動内容に関する報告や振り返り等を行う。また、今後の教職課程の履修計画と教育実習への参加見通しを確認し目標設定を行う。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深める。 本活動では、履修生が参加する活動に関連する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、担当教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「活動レポート」の作成や本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者によるグループ討議によって、活動の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。本学担当教員が、履修者の作成した自己評価シートを精査し、受入校から提出される報告書の内容を勘案したうえで総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	学校体験活動 I
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259135	担当教員	藤江 康彦、浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	学校体験活動Ⅱ Experience in School Activities II				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動について、観察と参加を通じて理解を深める。 2. 児童及び生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 3. 教師の活動の観察を通して、教師の役割や校務分掌のありかたについて理解する。 4. 授業の観察とその記録を通して、児童及び生徒の学習過程、教師による学習環境デザインのありかたを事例的に理解する。 5. 上記 1～4 についての省察を通して、教育実習における自己の目標を設定し、教職への関心や意欲を高める。
授業計画	事前指導は、5 月中旬以降(S セメスター)または 9 月中旬以降(A セメスター)の 2 日間(約 7 時間)で、本学担当教員による事前講義及び本学教育学部の事務担当から事務上の諸注意についての説明を行う。また、受入校において、学校管理職や担当教諭による講義・指導(学校体験活動の概要説明)、担当教員による実習内容の詳細な説明及び実習の進め方について打合せと指導を行う。 本活動の指導計画は、受入校によって異なるため一概には記載できないが、受入校における教育活動をはじめとする活動全般について、支援や補助業務を行う。大学における科目担当教員が受入校の受入担当教諭と密に連携をとり、指導を進める。その際に、履修者は毎回の活動の自己評価シートを提出し、その内容の確認を受入校の担当教諭と本学担当教員が行い、フィードバックを行う。 事後指導は、活動期間終了時に随時実施され、本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者により、活動内容に関する報告や振り返り等を行う。また、今後の教職課程の履修計画と教育実習への参加見通しを確認し目標設定を行う。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深める。 本活動では、履修生が参加する活動に関連する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、担当教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「活動レポート」の作成や本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者によるグループ討議によって、活動の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。本学担当教員が、履修者の作成した自己評価シートを精査し、受入校から提出される報告書の内容を勘案したうえで総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	学校体験活動Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259136	担当教員	未定		
単位数	2	学 期	A2	時 限	金 5, 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高) Seminar on Professional Practice in Teaching				

授業の目的・概要	教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。 内容は、以下の 2 つに大別される。 ① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解: 現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。 ② 授業の計画・実施・研究協議: グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。
授業計画	－
授業の方法	教育学研究科教員と東大附属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。
成績評価方法	演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。
教科書	特に指定しない。
参考書	各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。
履修上の注意・備考	教職実践演習(中・高)
教育職員免許法上の認定科目	

・教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス

時間割コード	09259201	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 5
講義題目	教育原理Ⅰ Educational PrinciplesⅠ				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐり、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。 Objectifying and relativizing each experience of being educated through the exchange of opinions.That is the primary goal of this course.
授業計画	授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。 1. 人間のメルクマール 2. 人類化と人間化 3. 近代化の行方:イゾラド 4. 生命倫理を考える:エンハンスメント 5. 正常と異常を考える:野生児の事例 6. 近代学校の胎動と近代の人間観 7. 臨界期 8. 現代発達環境論 9. 発達と教育の基礎理論 10. 明治初期の教育 11. 戦時下の教育 12. 教育基本法 13. 戦後の中等教育制度 14. 学力観:PISA等の構想 15. 現代の学校改革
授業の方法	基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す(LMSに提出)。相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。 「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。
成績評価方法	学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、いずれにしても、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。
教科書	堀尾輝久他編『新版 地球時代の教育原理』(三恵社)
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育原理Ⅰ ※2024 年度以前開講「教育原理」(担当教員:下地秀樹)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照

時間割コード	09259202	担当教員	鈴木 悠太		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 4
講義題目	教師論 I Teaching and Teacher Education I				

授業の目的・概要	本授業の主題は、授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践である。すなわち、受講者のこれまでの学校教育における体験(被教育体験)を基盤とし、学びとは何か、授業とは何か、教職とは何か、学校とは何かについての原理的な検討を経て、より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基礎を独自に形成することである。 これらを通して、より良い教育の担い手(生涯において学び続ける教師)となるための基盤を確立する。 本授業の到達目標は、①学校改革・授業改革の基本となる概念や理論を活用し、②受講者自身のこれまでの教育体験(被教育体験)を深く省察し自己に相応しい教育観を形成し、③より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基盤について独自の見解を客観的・具体的に説明できること、である。
授業計画	1. 「学校改革の現場の声を聴き、現場から学ぶ」とは何か。 2. 授業研究を中心とする学校改革 3. 学校改革の理論 4. 授業改革の理論 5. 学校改革の事例:日本国内の展開 6. 学校改革の事例:国際的な展開 7. 授業改革の事例:日本国内の展開 8. 授業改革の事例:国際的な展開 9. 教師の専門家共同体 10. 教師の専門家としての学び 11. 教職の専門性 12. 協同的な学び 13. 教育政策実施研究の視点 14.授業改革・学校改革研究の方法論 15. 授業改革・学校改革のアクション・リサーチ
授業の方法	本授業の方法は、教科書や配布資料に基づき、学校改革・授業改革の概念や理論についての講義を行い、適宜グループ・ワーク(協同学習)を取り入れる。受講者には、それぞれの被教育体験を基盤としながら、自己に相応しい教育観の形成やより良い学校とより良い授業の構想に関する自己の見解を説明できるようになることが期待される。
成績評価方法	最終レポート:50%(授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践の理解、教育観の省察と形成)、平常点評価:50%(授業の到達目標の達成のための授業への参加度と授業内の小レポートの作成)。
教科書	鈴木悠太、2022、『学校改革の理論—アメリカ教育学の追究—』、勁草書房。 Yuta Suzuki, 2022, Reforming Lesson Study in Japan: Theories of Action for Schools as Learning Communities, Routledge。 鈴木悠太、2018、『教師の「専門家共同」の形成と展開—アメリカ学校改革研究の系譜—』、勁草書房。
参考書	鈴木悠太、2019、「学校の教師」、高橋浩・金田健司(編)『教育の本質と教師の学び』、学文社、pp. 123-146。 秋田喜代美・佐藤学(編)、2015、『新しい時代の教職入門【改訂版】』、有斐閣。 佐藤学、2015、『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン—』、岩波書店。 佐藤学、1997、『教師というアボリア—反省的实践へ—』、世織書房。
履修上の注意・備考	教師論 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照 ※B 参照

時間割コード	09259203	担当教員	高井良 健一		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	教師論Ⅱ Teaching and Teacher Education II				

授業の目的・概要	教師という職業は、生徒にとって身近な職業であるが、その仕事の奥行き―難しさと複雑さ―を正確に理解することはたやすいことではない。逆に、この職業は、身近であるがゆえにはじめからわかつたつもりになる危険をはらんでいる。そして、現在、教師の仕事はますます重要になるとともに、困難さを増している。こうした状況の中で、教師を志す人たちが確かなヴィジョンをもち、学びの世界に踏み出せるように、この教職論の授業では、教師の世界を内側―教師による語り・教師のライフストーリー―と外側―教職の社会的位置づけ・社会的使命―から理解することをめざしている。また、授業のなかでは、受講生が主体となり、参加するセッションも取り入れる。公教育における教師の使命は、民主主義社会を担う他者への配慮に満ちた市民を育成することにある。自らもアクティブな市民であるとともに、他者への配慮に満ちた市民を育てるという使命をもった教師たちが、東京大学から巣立っていくことを期待している。 なお、具体的な授業の到達目標及びテーマは次の通りである。 1.教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。 2.教職を将来の進路として真剣に検討している学生に進路選択のための材料を提供する。 3.教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む。
授業計画	第1講 イントロダクション 第2講 教師になるということ(1)「教育実習」という関門 第3講 教師になるということ(2)「新任教師」の格闘 第4講 教師になるということ(3)「新任教師」の挑戦 第5講 教師の生活世界(1)「教師の一日と一週間」 第6講 教師の生活世界(2)「教師の一年と一生」 第7講 教師の学びと法規 第8講 教師としての危機とレジリエンス 第9講 時代と教師 / 多文化共生と教師のしごと 第 10 講 世界の教師たち「イギリスの教育改革」 第 11 講 世界の教育改革「フィンランドの教育改革」 第 12 講 日本の授業改革「輝け 28 の瞳」 第 13 講 これからの学校教育と教師 /最終レポート作成
授業の方法	講義、ビデオ視聴、グループ・ディスカッション、ライティングのほか、個人発表、ワークショップなど、協働的な学び、アクティブ・ラーニングを取り入れる。
成績評価方法	授業への参加(個人発表・グループワーク・コメント・ミニレポート)70 点と最終レポート 30 点で総合的に評価する。(最終レポートは原則として三日目の最終講で執筆する。全日程参加した人は、追加レポートの提出は不要。) なお、集中講義なので全日程参加が原則となる。ただし、正課の授業、試験などの「やむを得ない理由」による部分欠席(最大3コマまで)の場合のみ、参考書◎の第6章を読んで、8 月 31 日(土)までに、takaira@tku.ac.jp にメールの添付ファイルで追加レポート(A4 5枚以上)を提出する代替措置
教科書	とくに指定しない。毎回、授業の内容に関連するレジュメや資料を準備する。
参考書	教師論についての学びを深めるためには、以下の参考書がガイドとなる。 ◎ 秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』(有斐閣) ☆ 高井良健一『教師のライフストーリー―高校教師の中年期の危機と再生』(勁草書房) ★ 金子奨・高井良健一・木村優編『「協働の学び」が変えた学校―新座高校 学校改革の 10 年』(大月書店) ○ 佐藤学ほか編『岩波講座 教育 変革への展望4 学びの専門家としての教師』(岩波書店) □ 武田忠・伊藤功一編『教師が変わるとき・授業が変わるとき』(評論社) □ 伊藤功一『校内研修』(国
履修上の注意・備考	教師論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照 ※B 参照

時間割コード	09259204	担当教員	中村 知世		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 4
講義題目	教育と社会 Education and Society				

授業の目的・概要	本講義では、「格差」というキーワードを軸とし、教育という現象が社会の中にあり、社会的に構築されるという見方を養うことを目的とする。近代学校教育は、国民国家の発展や労働者の育成など、「社会」の求めで生まれ、その形も時代とともに変化してきた。そして現代は、機会均等や平等を達成できるとの期待とは異なり、様々な「格差」が現れ、「格差」を生み出す装置になってしまっている学校教育の側面に注目が集まっている。 本講義では、こうした教育をめぐる「格差」について、特に今日問題となっているテーマを取り上げ、実際に格差を示すデータを見ながら教育への教育社会学的見方を養っていきたい。具体的には子どもの出身階層間、公立学校間、学校階層間、ジェンダー、エスニシティなど、格差を生み出す境界線・分断線への理解を深める。そして、本講義が教職課程であることにかんがみ、こうした格差に対し教師はどのように向かい合えば良いか、一緒に考えを深めていきたい。「社会」と「教育」の相互作用を知ることによって、例えば「問題児」といったレッテルを貼られ、自己責任化されていた子どもの「問題」が、実は大きな社会問題に埋め込まれた事がらであったことが分かるようになるだろう。 In this lecture&comma; the keyword &quot;disparity&quot; will serve as a central theme&comma; with the goal of fostering an understanding that education is a phenomenon embedded in society and socially constructed. Modern school education emerged in response to societal demands&comma; such as the development of nation-states and the training of workers&comma; and its form has evolved over time. However&comma; contrary to expectations that education would achieve equal opportunities and fairness&comma; contemporary school education has instead become a mechanism that generates various forms of disparity&comma; drawing increasing attention to this issue. This lecture will focus on the disparities in education&comma; particularly those that are pressing issues today. By examining actual data that illustrate these disparities&comma; we will develop a sociological perspective on education. Specifically&comma; we will deepen our understanding of the boundaries and divisions that create disparities&comma; such as those based on children's socioeconomic backgrounds&comma; differences among public schools&comma; school hierarchies&comma; gender&comma; and ethnicity. Furthermore&comma; considering that this course is part of a teacher training program&comma; we will explore how educators should confront and address these disparities. By understanding the interaction between society and education&comma; we will come to recognize that issues seems to be attributed to individual children—such as being labeled a &quot;problem child&quot; and held personally responsible—are often deeply embedded in broader social problems.
授業計画	第 1 回 イントロダクション(オンデマンド型オンライン授業予定) 第 2 回 教育は社会の中で行われている 第 3 回 教育と社会階層 第 4 回 学校間格差 第 5 回 高校階層構造 第 6 回 中間まとめ(オンデマンド型オンライン授業予定) 第 7 回 社会的存在としての教師 第 8 回 教師-生徒関係 第 9 回 子育てと格差 第 10 回 非行と学校教育(オンデマンド型オンライン授業予定) 第 11 回 進路選択と大学進学 第 12 回 ジェンダー・セクシュアリティと格差(オンデマンド型オンライン授業予定) 第 13 回 移民の子どもたち Session 1: Introduction (Scheduled as an On-Demand Online Lecture) Session 2: Education within Society Session 3: Education and Social Class Session 4: Disparities Between Schools Session 5: The Hierarchical Structure of High Schools Session 6: Review Session (Scheduled as an On-Demand Online Lecture) Session 7: Teachers as Social Beings Session 8: Teacher-Student Relationships Session 9: Parenting and Disparities Session 10: Juvenile Delinquency and School Education (Scheduled as an On-Demand Online Lecture) Session 11: Career Choices and University Admission Session 12: Gender&comma; Sexuality&comma; and Disparities (Scheduled as an On-Demand Online Lecture) Session 13: Children of Immigrants
授業の方法	各回の授業のテーマに基づき、教科書の指定部分をあらかじめ読んでくることを前提として授業を進める。授業では初

	めに、前回授業に対するコメントへのフィードバックを行っていく。その後、各回の授業の主テーマに関して、教科書の補助的な解説や追加的な資料を提示し、より詳しい理解を促す。また、授業中には積極的に履修者同士にディスカッションや意見共有を求める。ただし、センシティブな内容を含む体験の共有などが行われる可能性がある場合には、ディスカッションへ参加しない自由も確保する。 The course will proc
成績評価方法	・各回のコメントペーパー: 20% ・期末レポート: 80% ・Comment Papers: 20% ・Final Report: 80%
教科書	中村高康・松岡亮二編 2021『現場で使える教育社会学: 教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房
参考書	ケン・ブラマー(赤川学監訳), 2021, 『現場で使える教育社会学: 教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	教育と社会
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照 ※C 参照

時間割コード	09259205	担当教員	清河 幸子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I				

授業の目的・概要	【目標】「学ぶこと」や「教えること」に関連した心理学的知見を学び、それらに関連した諸問題に対する関心を高め、問題解決に資する体系的な知識と技能を習得することを目標とする。 【概要】教育心理学の中でも「教授・学習」「認知」を中心とした講義を行う。各テーマについて心理学的知見を紹介する。また、それらの知見を踏まえて、受講者自身にとっての「教授・学習」経験についての振り返る。
授業計画	第 1 回:ガイダンス・「学習」とは？ 第 2 回:行動主義からみた学習(1):古典的条件づけ 第 3 回:行動主義からみた学習(2):オペラント条件づけ 第 4 回:行動主義からみた学習(3):観察学習・学習の原理 第 5 回:認知主義からみた学習(1):二重貯蔵モデル・作業記憶モデル 第 6 回:認知主義からみた学習(2):処理水準アプローチ 第 7 回:認知主義からみた学習(3):記憶の種類 第 8 回:状況主義からみた学習 第 9 回:学習を支える要因(1):動機づけ・マインドセット 第 10 回:学習を支える要因(2):学習方略・メタ認知 第 11 回:学習を支える要因(3):教育評価 第 12 回:学習を支える要因(4):他者との相互作用 第 13 回:理解確認テスト ※講義内容および順序は変更になることがある。
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが、適宜、小グループでの討論を行う。また、トピックに関連した実験や質問紙調査を実施し、体験的に学ぶ機会を提供する。
成績評価方法	課題(50%)および理解確認テスト(50%)により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育心理 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照 ※D 参照

時間割コード	09259206	担当教員	岩田 一正		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 5
講義題目	教育課程 I Curriculum Studies I				

授業の目的・概要	教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。 この課題に迫るために、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史的変遷・役割・意義・改訂の背景、教科横断的総合的学習、カリキュラムを改善するための学力調査の方法、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを概観していく。そしてこの作業を通じて、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。
授業計画	1. オリエンテーション 2. カリキュラムの構成要素 3. 戦前・戦時期のカリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947 年、1951 年、1958 年学習指導要領の内容、社会的背景】 4. 学習指導要領の変遷 2【1968 年、1977 年、1989 年学習指導要領の内容、社会的背景】 5. 学習指導要領の変遷 3【1998 年、2008 年、2017 年学習指導要領の内容、社会的背景】 6. カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】 7. 教科領域横断的総合的な学習の編成 1【総合的な学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】 8. 教科領域横断的総合的な学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】 9. カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型、教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異 10. ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】 11. ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】 12. 他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】 13. 他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】 14. 他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】 15. まとめ 以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。
授業の方法	本授業はプレゼンテーション・ソフトを用いた講義形式として実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料を視聴する機会を設ける。なお、テーマによってはグループ・ワークに取り組み、それを踏まえてレポートを記述してもらう。 講義で用いるスライドを PDF ファイルとしたものを ITC-LMS を通じて配布するので、事前に読んでもらいたい。
成績評価方法	筆記試験(60%:前記した「授業の目標」達成しているかどうかを評価する)、小レポート(40%:授業の際に提示する課題について簡単なレポートを何回か執筆してもらうこととなる)。
教科書	金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019 年。
参考書	文部科学省(文部省)『学習指導要領』(各年度版) Philip Jackson&comma; Life in Classrooms&comma; Holt&comma; Rinehart and Winston&comma;1968. 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』1・2・3、ぎょうせい。 同前『生きるための知識と技能』4・5・6・7・8、明石書店。 ブルデュー、パスロン『再生産』藤原書店、1991 年。 生田久美子編著『男女共学・別学を問いなおす』東洋館出版社、2011 年。 丹羽美之・吉見
履修上の注意・備考	教育課程 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09259207	担当教員	西野 真由美		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校教育の課題を捉え、教科等横断的な視点や地域社会のリソースを活用した道徳教育のカリキュラムを開発し、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。
授業計画	以下のテーマに沿って、進めます。 (1)学校における道徳教育の意義 学校で「道徳」を「教える」ことができるのか。できるとしても、教えるべきなのか。そして、何を教えるのか。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何を指すのかを批判的に検討しましょう。 (2)日本における道徳教育の歴史 明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。 (3)道徳教育の理論 代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。 また、道徳の特別教科化で企図された「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。 (4)現代的な諸課題に応える道徳教育 キャリア教育、科学技術教育、情報教育など現代的な諸課題に道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。
授業の方法	対面で実施予定です。授業では、ほぼ毎回、グループワークを実施し、ディスカッションや共同作業に取り組んでいただきます。授業で使用する資料や課題は、ITC-LMS で配布していきます。授業前後に確認するようにしましょう。
成績評価方法	毎時間の授業で提出していただくアクションペーパーと授業で指定する参考文献へのレポートで評価します。
教科書	講義テーマごとにレジュメを配布します。
参考書	参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。
履修上の注意・備考	道徳教育の理論と実践
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 ※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09259208	担当教員	草薨 佳奈子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 5
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity				

授業の目的・概要	社会が変わる中、特別活動の内容や指導法も変化している。特別活動は教科外活動を通じて多岐にわたる資質・能力の育成が期待されているが、教科書がなく教員の創造性や指導力が試される領域であるともいえる。本コースでは、特別活動の目標、内容、実践、課題を学ぶとともに、人間形成、他者との共存、社会との関わり方など、将来の社会生活につながる能力・資質能力の育成、時代とともに変わる学校教育のあり方についても検討していく。
授業計画	第 1 回 教科外活動としての特別活動 第 2 回 特別活動の目標と意義 第 3 回 学級活動・ホームルーム活動 第 4 回 学校行事の意義と実践 第 5 回 生徒会活動の意義と実践 第 6 回 特別活動と生徒指導 第 7 回 特別活動における体験活動 第 8 回 特別活動における人間形成と市民性教育 第 9 回 グループ発表 第 10 回 グループ発表 第 11 回 グループ発表 第 12 回 グループ発表 第 13 回 海外の特別活動とその実践 第 14 回 特別活動の指導と評価 第 15 回 特別活動の今日的役割、まとめ
授業の方法	特別活動は日々の学校生活で重要な役割を果たしているが、教科の活動と比較すると教育的意義が必ずしも理解されていないことが多い。本講義では批判的に特別活動の目的や教育活動の内容を検討し、これからの社会を担う次世代の育成に、必要な資質・能力について考えていく。また批判的思考力や協働する体験をつけるため、グループディスカッションを行う他、グループ発表、レポートにも取り組む。
成績評価方法	本授業の評価は、以下の規準によって行う。 授業への参加度・リアクションペーパー(30%)、グループ発表(30%)、期末レポートの内容(40%)により、総合的に判断する。
教科書	『特別活動』上岡学編著 ミネルヴァ書房
参考書	『特別活動の理論と実践（アクティベート教育学 11）』単行本（ソフトカバー） 汐見稔幸（監修）, 奈須正裕（監修）, 上岡 学（編集）, 林 尚示（編集） 『特別活動論 /（新・教職課程シリーズ）』犬塚文雄編著、一藝社 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2016）学級・学校文化を創る特別活動（中学校編） 中学校学習指導要領 解説 特別活動編（文部科学省ホームページ） 高等学校学習指導要領 解説 特別活動編（文部科学省ホームページ）（同前） 中学校学習
履修上の注意・備考	特別活動論
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照 ※1 参照

時間割コード	09259209	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 5, 月 6
講義題目	教育の方法 I Teaching Methods I				

授業の目的・概要	具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。 次の3つの内容が柱となる。 ・学ぶとはどういうことか。 ・学習を促す授業のあり方はどういうものか。 ・教師は実践からどのように学び成長していくのか。
授業計画	1. 実践記録から学ぶ 2. 教育実践の法則性と固有性 3. 海外の実践事例から学ぶ 4. 学習観の転換 5. 子どもの「間違い」をどう捉えるか 6. 教科内容と教材 7. 教師が発する言葉 8. 協同学習の意義と技法 9. 自律的な学習 10. ファシリテーターとしての教師 11. 授業をめぐる対話と省察 12. ミニ模擬授業の実施 13. ミニ模擬授業の検討会 14. 省察を通じた教師の成長 15. 教師による実践研究
授業の方法	グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	定期試験は行わず、授業中に出题する課題をもって評価を行う。 出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。
教科書	指定しない。
参考書	渡辺貴裕『授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ―』くろしお出版、2019 年 フレット・コルトハーヘン『教師教育学 ―理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ―』学文社、2010 年 その他、授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	教育の方法 I
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09259210	担当教員	栗田 佳代子		
単位数	1	学 期	W	時 限	集中
講義題目	ICT を活用した効果的な授業づくり Creating effective your course using ICT				

授業の目的・概要	授業の概要 本授業では、今後の教育における ICT 技術の重要性を理解し、教師として正しい知識を獲得し、未来の教育に活用していくための基盤を形成することを目指す。ICT 技術は日進月歩で進化を続けるものであることから、基礎知識を得て活用しつつも常に更新し、生徒や学生とともに学んでいく姿勢を獲得することも目的の一つである。 特に生成 AI の活用に注目する。 授業のテーマ及び到達目標 ・現代社会を支える ICT 技術の意義および役割を説明できる ・ICT 技術が未来の学びの可能性を広げ、特に協働学習と個別最適化に寄与することを体験する ・ICT 技術を利用した教育の陥穽を説明できる ・これからの教師の指導力および校務に ICT 活用が必須であり、多少なりとも使えるようになる ・情報モラルや情報セキュリティを含めて ICT 技術の活用を説明できる
授業計画	授業計画 第1回：現代社会の ICT の役割、学校とテクノロジー 第2回：学びにおける対話・協働に寄与する ICT 技術 第3回：個別最適化された学びを実現する ICT 技術 第4回：オンライン授業のデザイン 基礎的な設計論 第5回：オンライン授業のデザイン アクティブラーニングをとりいれた授業 第6回：ICT 技術の陥穽 第7回：情報モラル・情報セキュリティの基礎知識 第8回：校務に活用する ICT 技術 この科目は集中講義形式として行い、1 単位に相当する内容を含む。
授業の方法	下記日程の集中講義形式で行う 2 月 17 日(火)2,3,4 時限 2 月 18 日(水)2,3,4 時限 (6 時限で 8 回分の内容を含む)
成績評価方法	集中講義への参加時の各種ワークへの参加および取り組み(50%)と終了後のレポート課題(50%)で評価を行う。
教科書	特に定めない
参考書	浅野大介(2021)「教育 DX で「未来の教室」をつくらう—GIGA スクール構想で「学校」は生まれ変わるか」学陽書房
履修上の注意・備考	ICT を活用した効果的な授業づくり 集中講義では Google Classroom を紹介し、使う予定である。 生成 AI を利用予定であるため、無料アカウントでよいので取得しておくこと。生成 AI の種類は問わないが、授業では chatGPT を例に進める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※M参照

時間割コード	09259211	担当教員	鈴木 雅博		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance				

授業の目的・概要	◆授業の概要 生徒指導とは「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」である(生徒指導提要[令和4年版])。ここに、「自分らしく生きる」という個人の生き方の問題を「社会」との関係のなかで、どう折り合いをつけるのかという難しい課題を見てとることができる。進路指導も「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく」キャリア発達をめざすものとされるが(2011 年1月中央教育審議会答申)、ここにも同種の緊張関係を見出せる。教師は、時に葛藤を孕む「自分らしさ」と「社会」の関係について、どのように生徒指導・進路指導を行うことを求められ、それを行っているのか。その理念と実際を法制度・文化・社会情勢との関連において理解することが本講座の課題となる。 ◆授業の到達目標 (1)生徒指導の意義および原理を理解する。 (2)すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 (3)児童生徒が抱える生徒指導上の課題と、養護教諭等の教職員、外部の専門家および関係機関等との連携も含めた対応の在り方を理解する。 (4)進路指導・キャリア教育の意義および原理を理解する。 (5)すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 (6)児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。
授業計画	1 生徒指導の意義とチーム学校 2 生徒指導と子どもの権利 3 校則問題を考える① 4 校則問題を考える② 5 生徒指導における懲戒・体罰・不適切な指導① 6 生徒指導における懲戒・体罰・不適切な指導② 7 いじめ問題① 8 いじめ問題② 9 不登校の現状・教育機会確保法 10 フリーター・ニートとキャリア教育① 11 フリーター・ニートとキャリア教育② 12 高卒就職の進路指導① 13 高卒就職の進路指導②
授業の方法	講義形式を基本としつつ、適宜ディスカッションを行う。
成績評価方法	授業後の小レポート 30%、期末レポート 70% 。なお、欠席は4回までとする。
教科書	特に指定しない。 レジュメ・資料を配布する。
参考書	『生徒指導提要』(令和4年版) 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』文部科学省 『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)』文部科学省 いずれも Web で入手可能。
履修上の注意・備考	進路指導・生徒指導
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照 ※K 参照

時間割コード	09259212	担当教員	新井 素子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 2
講義題目	教育相談Ⅰ School CounselingⅠ				

授業の目的・概要	学校教育における教育相談の意義と理論やカウンセリングの理論や技法に関する基礎的知識などを習得するとともに、事例を通じて教育相談の具体的な進め方や対応の要点、学内外の連携など教育において児童生徒を支援する際に必要な知識や技術についてできる限り深く考えて理解することを目指す。
授業計画	第1回:オリエンテーション／教育相談の意義など 第2回:子どもの理解①(幼児期～児童期) 第3回:子どもの理解②(児童期～思春期) 第4回:カウンセリングの基本とその考え方 第5回:カウンセリングの基本的な技法 第6回:学校における子どものアセスメント 第7回:子どもの抱える困難①(貧困, 児童虐待, ヤングケアラーなど) 第8回:子どもの抱える困難②(非行, 差別,ジェンダーなど) 第9回:発達障がいについての理解① 第10回:発達障がいについての理解② 第11回:保護者への対応・教師のストレス 第12回:学校教育システムの連携・多職種連携, スクールカウンセリングなど
授業の方法	講義形式を基本とする。講義内では教育相談に関連して具体的な事例について小グループでの話し合いやペアワークを行うことを予定している。グループワークなどとそのフィードバックを通じて、履修者が講義で学んだことをより深く考察・理解することが期待できる。毎回授業の最後にその日学んだことについて振り返ってリアクションペーパーにまとめて提出する。
成績評価方法	授業参加およびリアクションペーパー等(40%) 定期試験(60%)
教科書	指定しない。授業時に資料を配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意・備考	教育相談Ⅰ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照 ※L 参照

時間割コード	09259213	担当教員	小国 喜弘、大内 紀彦、崔 榮繁、池野 絵美、飯野 由里子、星加 良司		
単位数	1	学 期	A1	時 限	金 5
講義題目	特別支援教育総論Ⅱ An Introduction to Special Needs Education II				

授業の目的・概要	本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。
授業計画	第 1 回(10/4) ガイダンス&ゲスト講義 第 2 回(10/11) 学校の中の「社会的障壁」をどう失くすのか:合理的配慮と環境の整備 第 3 回(10/18) 「共に学ぶ」学校・授業をどのようにつくればいいのか:個別指導計画、ユニバーサルデザインの問題 第 4 回(10/25) インクルーシブ教育の理念を再考する 第 5 回(11/1) カナダの経験から学ぶインクルーシブ教育の可能性 第 6 回(11/8) イタリアの経験から学ぶインクルーシブ教育の可能性 第 7 回(11/15) 「障害の社会モデル」と特別支援教育の課題
授業の方法	オンラインで行う。 講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー(計 50 点)、期末レポート(50 点)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	適宜配布する
参考書	木村泰子・小国喜弘(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。 この他、各回の授業の中で関係する文献を紹介する。
履修上の注意・備考	特別支援教育総論Ⅱ
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

・特設科目

時間割コード	09259901	担当教員	小国 喜弘、本間 里美		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	重度障害者の地域生活から学ぶ障害の社会モデル Learning about the Social Model of Disability through the Independent Living of People with Severe Disabilities				

授業の目的・概要	【授業の概要】「障害」とは何でしょうか。考えたことはありますか？この授業は ALS などの難病により重度の障害がある当事者や彼らを支える人々との講義や体験を通して、障害について考え、自分ができることを考える授業です。 【授業の到達目標】重度障害当事者の地域生活や、障害のモデル(考え方)について学び、障害について自分事として考えることにより、地域の医療、福祉、教育の充実に貢献できる人材としての態度を形成することである。
授業計画	本授業は2日間の講義と2日間の体験により構成されている。 1日目 重度障害当事者が生きていくこと、学び、育ち、そして暮らすこと(重度障害当事者や専門職による講義) 2日目・3日目 地域で暮らす重度障害当事者の生活(当事者の暮らす地域での見学・体験 6 時間) 4日目 見学・体験での経験や学びの共有 「障害の医学モデル」「障害の社会モデル」(重度障害当事者や専門職による講義) 自らの経験や、講義及び見学・体験を通しての学びを振り返り「障害とは何か」を考える(学生同士、障害当事者講師、有識者との意見交換) インクルーシブ社会の実現についての考察
授業の方法	1日目:講義・グループワーク 2日目・3日目:当事者宅での介助見学・体験 4日目:講義・グループワーク なお、本講義では実習費用として約2千円を徴収する。
成績評価方法	授業への参加状況
教科書	教科書は授業時に配布する。
参考書	・岡部宏生(2023) 境を越えて Part1 このまま死ぬるか！？. ぶどう社 ISBN-10 : 4892402559 ・海老原宏美(2019) わたしが障害者じゃなくなる日 ～難病で動けなくてもふつうに生きられる世の中のつくりかた. 旬報社 ISBN-10 : 4845115891
履修上の注意・備考	重度障害者の地域生活から学ぶ障害の社会モデル 履修希望者が 20 人を超えた場合、履修者の選考を行う。そのため結果として、履修できない場合があり得ることに注意すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259902	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	ディスアビリティ・スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	<目的・目標> ディスアビリティ(障害=「できなさ」)について考えるとは、どのような営みだろうか？それは、「できなさ」を抱える個体の性質について知ることと同時に、いやむしろそれ以上に、「できること」を条件付け、意味付け、価値付けている社会のあり方について考察することである。 この授業では、(1)近年の新しい障害研究のパラダイムと、それに基づく基礎的な理論枠組みについて理解するとともに、(2)社会システムを支える様々な制度や規範と障害問題との連関について、多角的に分析する視点を獲得することを目的とする。 <授業概要> 前半でディスアビリティ・スタディーズの基礎的な概念や視点について解説し、後半では関連する日本語文献の講読等を通じてその理解を深化させる。 ※なお、この授業は、学部横断型「バリアフリー教育プログラム」のコア科目 A 群(選択必修)として開講されている。
授業計画	1. ガイダンス 2. ディスアビリティとは何か I:近代のカテゴリーとしての障害 3. ディスアビリティとは何か II:無力化のメカニズム 4. ディスアビリティとは何か III:リスク社会と排除される身体 5. ディスアビリティとは何か IV:「障害の社会モデル」という視点 6. ディスアビリティとは何か V:「障害平等」はいかにして可能か 7. 文献講読 II 8. 文献講読 III 9. 文献講読 III 10. 文献講読 IV 11. 文献講読 V 12. ゲストスピーカーとの対話 13. まとめ
授業の方法	教員による講義、受講生による文献報告、ゲストスピーカーを迎えての対話等を組み合わせて授業を進める。いずれの形式においても、受講生の主体的・積極的な参加により、インタラクティブにディスカッションを展開することが期待されている。
成績評価方法	平常点 50%、レポート 50%の比率で評価を行う。平常点は、授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して評価する。レポートは、授業の終了時に提出を求め、授業目標への到達度の観点から評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書	授業内で適宜指示する。
履修上の注意・備考	ディスアビリティ・スタディーズ 授業に関する問い合わせ先 hoshika@p.u-tokyo.ac.jp
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259903	担当教員	綾屋 紗月、並木 重宏、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、星加 良司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 4
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies				

授業の目的・概要	【目標】 1. バリアフリーの基本概念と歴史を理解し、多様な障害についての基礎的知識を習得する。 2. 医療、福祉、教育、研究、都市計画、法律、文化などの多様な視点からバリアフリーを 考察できる。 3. 障害の社会モデルと個人モデルの違いを理解し、社会的包摂の視点を持つことができる。 4. 障害当事者の視点から学び、実社会における課題を具体的に認識する。 5. バリアフリー社会の実現に向けて、自ら考え、行動できる基礎を築く。 【概要】 本授業は、社会の分断が進むなかで、障害の有無にかかわらず、また、多様な障害を持つ人たち同士が、連帯して共に生きる社会を実現するために必要な知識を学ぶことを目的とする。バリアフリーの概念を多角的に捉え、医療、福祉、教育、研究、都市設計、法制度、文化などの視点から考察し、実践的な知見を得る。オムニバス形式で、多様な視点からバリアフリーの課題と可能性を探る。
授業計画	5 人の教員が 2 回または 3 回ずつ担当し、各教員の障害の専門分野における最前線について講義する。 【各教員の主な研究分野】 星加: ディスアビリティの社会モデルに基づく社会理論／障害者のシティズンシップと 社会的位置／障害平等施策としての合理的配慮／社会的包摂のためのバリアフリー 教育など 近藤: 障害のある児童生徒・学生の教育における支援技術と人的支援 熊谷: 当事者研究と認識的不正義・ナラティブ・組織変革／医学の多様性と包摂性 並木: 障害学生の科学分野における実験・実習支援 綾屋: 当事者研究の歴史・理念・方法／当事者参加型研究／ニューロダイバーシティ運動と 自閉コミュニティ 【講義担当予定】※担当教員のスケジュールは変更する可能性がある。 -10 月- 8 日(水) 14:55-16:40 綾屋 15 日(水) 14:55-16:40 綾屋 22 日(水) 14:55-16:40 綾屋 29 日(水) 14:55-16:40 熊谷 -11 月- 5 日(水) 14:55-16:40 熊谷 19 日(水) 14:55-16:40 近藤 26 日(水) 14:55-16:40 近藤 -12 月- 3 日(水) 14:55-16:40 近藤 10 日(水) 14:55-16:40 並木 17 日(水) 14:55-16:40 並木 24 日(水) 14:55-16:40 並木 -1 月- 7 日(水) 14:55-16:40 星加 14 日(水) 14:55-16:40 星加
授業の方法	本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(近藤武夫、熊谷晋一郎、並木重宏、綾屋紗月)および東京大学学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センターに所属する教員(星加良司)がオムニバス形式で行う講義である。全回オンライン授業であり、各学生は東京大学の ZOOM アカウントにてサインインした状態で入室すること。ZOOMIには氏名を記入し、授業開始時間までに ZOOM に入室すること。ZOOM の URL は UTOL に記載する。
成績評価方法	◎受講生は提出締切日までに、各教員の授業に対して以下の2つの課題に取り組む。 A) 各教員の 3 回分(教員によっては 2 回分)の授業の要約(1000 文字程度) B) 各教員が出題するレポート課題(1000 文字程度) ※つまり各学生は「2000 文字程度×教員 5 人分」の授業要約&レポート課題を提出する。 ◎要約 10 点満点、レポート 10 点満点の計 20 点満点にて各教員が採点したのち、 教員全員分の得点を合計した 100 点満点にて評価する。
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する
履修上の注意・備考	バリアフリー総論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259904	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会 Diversity and Society				

授業の目的・概要	近年「ダイバーシティ(多様性)」という言葉が、社会や組織の目指すべき目標と関連づけられて語られるようになっていいます。そこでは性別や年齢、性的指向や性自認、障害等にもとづく差異が、社会全体の「活力」や企業の「生産性」向上に直結するものとして語られがちです。しかし、私たちの間にある差異は平板なものとしてではなく、権力関係を含んだものとして存在しています。それゆえ、さまざまな摩擦や衝突を生み出すものでもあります。 この授業の目的は、私たちの間の差異の編成のされ方やそこに働く権力関係に目を向けることで、ダイバーシティを社会的公正の観点から捉え直すことにあります。その際、フェミニズム研究やクィア研究、ディスアビリティ研究等の知見を参照することで、ダイバーシティについて学際的かつ多領域的に学んでいきます。
授業計画	第 1 回 ガイダンス&イントロダクション 第 2 回 レクチャー:バリアとマジョリティ性① 第 3 回 レクチャー:バリアとマジョリティ性② 第 4 回 ミニレポート:自分のマジョリティ性について考える 第 5 回 レクチャー:バリアとしての「男らしさを競う文化」 第 6 回 レクチャー:バリアとしての強制的異性愛・強制的健全性 第 7 回 レクチャー:マジョリティ性と特権① 第 8 回 グループワーク:マジョリティ性と特権② 特権リストを作ってみよう 第 9 回 レクチャー:カミングアウトを通して考える特権 第 10 回 レクチャー:特権とインターセクショナルリティ 第 11 回 レクチャー:障害女性とケア 第 12 回 レクチャー:「誰もが活躍できる社会」の落とし穴 第 13 回 期末レポートの執筆に向けた準備
授業の方法	・対面で実施します ・講義およびディスカッションは日本語で行います。指定文献および追加の教材は ITC-LMS で共有します ・授業内容は、担当教員による講義が中心です。グループディスカッションを実施する回もあります
成績評価方法	1)平常点(コメントシートの提出):30 点 2)ミニレポート:20 点 3)期末レポート:50 点
教科書	特になし
参考書	飯野由里子・西倉実季・星加良司(2022)『「社会」を扱う新たなモード―「障害の社会モデル」の使い方』生活書院
履修上の注意・備考	ダイバーシティと社会
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259905	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3
講義題目	フェミニズム理論 Feminist Theory				

授業の目的・概要	フェミニズム理論は、1960 年代後半に登場した第二波フェミニズム(女性解放運動)の運動と思想を受け、発展してきた知の枠組です。当初は、女性学(Women’s Studies)と呼ばれる学問領域の中で、主に男女間の不平等や格差の検証に焦点をあて、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかするための道具立てとして用いられてきました。その後 1980 年代になると、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、男性学(Men’s Studies)という専門領域の登場にも寄与します。ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された 1980 年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」をそれぞれ別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられることになります。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。「女性学」や「男性学」に代わるものとして、「ジェンダー論」という名称が好まれるようになった理由の一端はここにあります。こうした経緯を経て、現在フェミニズム理論は、男女間だけではなく多様な女性・男性の間に存在するさまざまな差別や不平等、格差(Ex. 就業機会の不平等や健康医療アクセスの格差など)を捉える知の枠組みとして展開されています。この授業は、フェミニズム理論が登場・発展した歴史的背景に加え、フェミニズム理論の基礎的な概念や考え方を紹介することを目的としています。2025 年度は、「インターセクショナリティ」と呼ばれる「見方」(perspective)に焦点を当てます。インターセクショナリティは、人種や階級、性的指向や性自認、障害などの複数の差別がどのように交差し、一人の人間の経験に影響を与えているかを捉えるための見方のことを指します。こうした見方が登場・発展してきた歴史的経緯を押さえることで、複雑な抑圧構造を理解する上で、マイノリティ女性の経験と知識を反映したフェミニズム実践が不可欠であることを学びます。この授業を通じ、多様な視点からフェミニズムを捉える洞察力を身に付け、社会の複雑な問題に対する批判的思考を深めることを期待します。
授業計画	第 1 回 ガイダンス&イントロダクション 第 2 回 ポストフェミニズム批判(1) 第 3 回 ポストフェミニズム批判(2) 第 4 回 ブラック・フェミニズムにおけるインターセクショナリティ 第 5 回 インターセクショナリティにおける 3 つの「関係性」 第 6 回 インターセクショナリティと認識的抵抗 第 7 回 インターセクショナリティの「批判性」 第 8 回 SRHR(性と生殖に関する健康と権利)とリプロダクティブ・ジャスティス運動 第 9 回 障害女性による優生保護法国家賠償訴訟 第 10 回 戦時性暴力と女性国際戦犯法廷 第 11 回 セックスワーカー差別とどう闘うか 第 12 回 トランス差別とどう闘うか 第 13 回 まとめとふりかえり
授業の方法	90 分程度の講義の後、LMS に講義の要旨(ポイント)やコメントを書き込む時間をとります。講義はパワーポイントを投影しながら行いますが、プリント(パワーポイントを印刷したもの)は配布しません。パワーポイントのデータは授業の前日の夜までに LMS にアップします。必要に応じて各自ダウンロード・印刷し、授業に持参してください。
成績評価方法	1)平常点 40 点 2)読書レポート 20 点 3)期末レポート 40 点(文字数:2,500 字程度)
教科書	なし
参考書	カイラ・シュラー(川副智子訳・飯野由里子監訳)『ホワイト・フェミニズムを解体する——インターセクショナル・フェミニズムによる対抗史』明石書店、2023 年 熊本理抄『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』解放出版社、2020 年 コリンズ、パトリシア・ヒル『インターセクショナリティの批判的社会理論』勁草書房、2024 年
履修上の注意・備考	フェミニズム理論
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259906	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	1	学 期	A2	時 限	火 3
講義題目	インクルーシブ社会のための実践知 Practical Knowledge for an Inclusive Society				

授業の目的・概要	多様な差異を持つ人々が包摂される社会を実現することは、現代の重要な社会的課題となっている。また近年では、多様性=ダイバーシティ(性別、年齢、言語、身体特性等)の尊重のみならず、包摂性=インクルージョン(所属感覚、差異の尊重、民主的な意思決定等)の向上が重要であることが注目されるようになった。ただし、多様性の向上は必ずしも包摂性の向上を伴うとは限らず、また、多様な属性の差異によって包摂性の度合いにギャップが生じていることも指摘されている。こうした乖離を埋めるための実践として、ジェンダーやエスニシティに関わる意識的・無意識的な偏見の解消、障害のある人の参加機会を保障する「合理的配慮」や「バリアフリー」等、学校、企業、行政機関等様々な現場で、様々な取り組みが施行/試行されている。この授業では、集団や組織の「インクルーシブネス」を可視化する方法や「インクルーシビティ」を高める実践手法等を紹介し、その実施過程に潜む課題や問題点について議論する。
授業計画	第 1 回 ガイダンス&イントロダクション 第 2 回 学校・地域におけるインクルージョン(1) 第 3 回 学校・地域におけるインクルージョン(2) 第 4 回 中間まとめ 第 5 回 企業組織におけるインクルージョン(1) 第 6 回 企業組織におけるインクルージョン(2) 第 7 回 まとめと振り返り
授業の方法	本授業は、講義およびディスカッションによって構成されます。受講生には積極的に発言することが期待されます。
成績評価方法	1)平常点 2)期末レポート
教科書	なし
参考書	飯野由里子、星加良司、西倉実季 2022『「社会」を扱う新たなモードー「障害の社会モデル」の使い方』生活書院
履修上の注意・備考	インクルーシブ社会のための実践知
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259907	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性 Experiential learning of disabilityand employment: Potential for a Barrier-Free Society				

授業の目的・概要	今日では、多様な特性や背景を持つ人々が互いに尊重しあい、十全に能力を発揮できる状態(ダイバーシティ・インクルージョン)の価値は広く知られるようになった。一方で、歴史的に労働市場から阻害されてきた障害者については、いまだ包摂(インクルージョン)は道半ばであると言わざるをえない。その背景には、「障害」という概念自体が「働けない身体」をカテゴリー化するためのラベルとして「発明」されたという社会構造的問題があるが、そうであるからこそ、「労働市場における障害者の包摂」という課題は、理論的にも実践的にもクリティカルな課題である。 この授業は、座学と体験実習によって構成され、障害者の就労現場における体験学習とその振り返りを通して、社会のバリアフリー化に向けた実践的・具体的な可能性を探究することを目的とする。なお、本講座は富士電気株式会社、及び株式会社富士電気フロンティアのご協力(寄付を含む)を得て運営されている。
授業計画	■第 1 回 8/18 @本郷キャンパス ・労働市場における「障害者」の位置づけについて ・障害者雇用をめぐる諸制度について ・実習先についての情報提供・留意事項 ■第 2 回 8/19 @富士電気フロンティア川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・障害のある従業員からの聞き取り ■第 3 回 8/20 @富士電気フロンティア 川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・就労インストラクターからの聞き取り ■第 4 回 8/21 @本郷キャンパス ・体験実習の振り返り ・実習レポートの作成
授業の方法	講義と実習を組み合わせ、体験やディスカッションを中心にインタラクティブな授業を展開する。
成績評価方法	実習及びディスカッションへの参加状況と、最終授業時に作成するレポートの内容について、積極性・的確性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	講義中で指示する
履修上の注意・備考	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性 実習先への入館のため、学生の所属と氏名を実習先企業にも共有するが、この授業の目的にのみ使われるものとする
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259908	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性 Experiential learning of disabilityand employment: Potential for a Barrier-Free Society				

授業の目的・概要	今日では、多様な特性や背景を持つ人々が互いに尊重しあい、十全に能力を発揮できる状態(ダイバーシティ・インクルージョン)の価値は広く知られるようになった。一方で、歴史的に労働市場から阻害されてきた障害者については、いまだ包摂(インクルージョン)は道半ばであると言わざるをえない。その背景には、「障害」という概念自体が「働けない身体」をカテゴリー化するためのラベルとして「発明」されたという社会構造的問題があるが、そうであるからこそ、「労働市場における障害者の包摂」という課題は、理論的にも実践的にもクリティカルな課題である。 この授業は、座学と体験実習によって構成され、障害者の就労現場における体験学習とその振り返りを通して、社会のバリアフリー化に向けた実践的・具体的な可能性を探究することを目的とする。なお、本講座は富士電気株式会社、及び株式会社富士電気フロンティアのご協力(寄付を含む)を得て運営されている。
授業計画	■第 1 回 2/17 @本郷キャンパス ・労働市場における「障害者」の位置づけについて ・障害者雇用をめぐる諸制度について ・実習先についての情報提供・留意事項 ■第 2 回 2/18 @富士電気フロンティア川崎工場 ・障害者の就労原場体験 ・障害のある従業員からの聞き取り ■第 3 回 2/19 @富士電気フロンティア 川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・就労インストラクターからの聞き取り ■第 4 回 2/20 @富士電気フロンティア 川崎工場 ・体験実習の振り返り ・実習レポートの作成
授業の方法	講義と実習を組み合わせ、体験やディスカッションを中心にインタラクティブな授業を展開する。
成績評価方法	実習及びディスカッションへの参加状況と、最終授業時に作成するレポートの内容について、積極性・的確性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	講義中で指示する
履修上の注意・備考	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性 実習先への入館のため、学生の所属と氏名を実習先企業にも共有するが、この授業の目的にのみ使われるものとする
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259909	担当教員	遠藤 利彦、多賀 厳太郎、浅井 幸子、野澤 祥子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	発達保育実践政策学概論 Introduction to Early Childhood Development, Education, and Policy Research				

授業の目的・概要	発達保育実践政策学は、子どもの育ちを中心に置き、子育て・保育の実践や政策のあり方について、学術的に解明検討を行う学際的学問領域である。本授業では、発達保育実践政策学に関わる多様なトピック、すなわち、乳幼児の発達、保育の理論・歴史・実践・制度・政策についての基礎的事項ならびに国内外の最新研究動向を学ぶ。さらに、学んだことや自身の経験に基づき、これからの子育て・保育の実践や政策、それを支える研究のあり方について他者と議論し、考える。
授業計画	下記の内容について講義とグループワークによって学ぶ。 ①発達保育実践政策学の考え方と研究例 ②胎児・新生児・乳児の発達 ③乳幼児の認知的発達と子育て・保育(1) ④乳幼児の認知的発達と子育て・保育(2) ⑤乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(1) ⑥乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(2) ⑦保育の思想と歴史 ⑧保育の制度・政策 ⑨特別なニーズをもつ子どもと保育(1) ⑩特別なニーズをもつ子どもと保育(2) ⑪小学校への移行 ⑫父親の子育て ⑬これからの子育て・保育について考える:ディスカッション
授業の方法	講義とグループワークを適宜交えながら授業を進める。
成績評価方法	レポート
教科書	『あらゆる学問は保育につながる 発達保育実践政策学の挑戦』秋田喜代美(監修) 山邊昭則・多賀厳太郎(編) 東京大学出版会
参考書	『乳幼児の発達と保育 食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』秋田喜代美(監修) 遠藤利彦・渡辺はま・多賀厳太郎(編著) 朝倉書店 『園庭を豊かな育ちの場に: 実践につながる質の向上のヒントと事例』秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太(著) ひかりのくに 『園づくりのことば 保育をつなぐミドルリーダーの秘訣』井庭崇・秋田喜代美(編著) 野澤祥子・天野美和子・宮田まり子(著) 丸善出版 『保育学用語辞典』秋田喜代美(監修) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(編著)中央法
履修上の注意・備考	発達保育実践政策学概論 開催日程 1 月 28 日(火)1～5 限 1 月 29 日(水)2～5 限 1 月 30 日(木)2～5 限
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259910	担当教員	中西 正康、岡田 猛		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 6
講義題目	演技実践 Acting Lesson				

授業の目的・概要	相手の言葉を聞いてそれを繰り返すレペティション練習を中心に学びます。ただ言葉を繰り返すだけではなく、相手の様子、心の態度から気持ちや感情を受け取り、それを自分がどう感じているのかを相手に伝えます。この練習を行うことにより楽器（自分自身）が繊細になり、相手と共鳴し、交流ができ、思考を使わずに衝動に従い自由になれ、想像の世界で真実に生きることができるようになります。他、自分自身と向き合うモノログ、五感を研ぎ澄ますセンサーワーク、シーンで役を実際に演じ、プロの俳優が行っているトレーニングを学びます。
授業計画	1 自己紹介 志望動機 ムーブメント トラスト練習 シアターゲーム 演技の定義 2 モノログ（自分のモノログ）を読む 3 モノログ（自分以外の人のモノログ）を読む 4 一語 一行 レペティション 5 レペティション 6 レペティション 7 レペティション 8 シーンスタディ① 9 シーンスタディ① 10 シーンスタディ② 11 モノログ② 12 シーンスタディ③ 13 シーンスタディ③
授業の方法	対面型
成績評価方法	平常点
教科書	而立書房『リアリズム演技』ポビー中西
参考書	而立書房『The モノログ集』BNAW 編
履修上の注意・備考	演技実践 定員 20 名になります。 定員オーバーの場合には、抽選になります。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259911	担当教員	近藤 良平、岡田 猛		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	身体表現の実践 Practice of Physical Expression				

授業の目的・概要	本授業は、第一線で活躍する振付家・ダンサーの近藤良平による身体表現の授業である。 本授業では「身体で表現を創出していくとはどういうことなのか」を、講師の経験に基づいた様々なアプローチを実際に身体を動かして体験しながら探索していくことを大きな目的としている。
授業計画	対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細は、受講者の様子や、受講者とのやり取りの上で決定していく。大枠は以下の流れで、身体や身体表現、ダンスの可能性を講師とともに体験していくものである。 1. 出会い 2. 身体表現のワーク① 3. 身体表現のワーク② 4. 身体表現のワーク③ 5. 身体表現のワーク④ 6. 身体表現のワーク⑤ 7. まとめ
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	身体表現の実践 ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259912	担当教員	Steven Fischer		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 2, 木 2
講義題目	Cartoon Storytelling Cartoon Storytelling				

授業の目的・概要	This course is for anyone who has an interest in expressing themselves through cartoons and those interested in cartoons as an art form. You will realize your potential of becoming a cartoonist no matter your skill level. This course introduces students to the possibilities cartooning offers as a vehicle to express and communicate effectively. This is a project-based course. Our objective is to create an original story with original characters. Each student creates their own story prompted by a real life experience. We will look at narrative structure, character development, creativity, and drawing with the intent of using cartoon art as personal expression – using real life experiences and personal conflict as prompts for new work. This class is also a basic introduction to the nature of creativity, how we position self to generate ideas for an original story with original characters using personal experience or observation as prompt. You will learn what makes a good story, how to construct a new narrative, how to develop believable characters, and the basic cartoon drawing techniques.				
授業計画	Tuesdays and Thursdays (105 min each session) June 3–July 15, times: morning 2 (10.25 – 12.10)				
授業の方法	lecture, exercises, projects				
成績評価方法	class participation 25% attendance and attitude 25% writing assignments 25% final project 25%				
教科書	n/a				
参考書	n/a				
履修上の注意・備考	Cartoon Storytelling n/a				
教育職員免許法上の認定科目					

時間割コード	09259913	担当教員	王 冀中		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	油画材料与表現技法 Oil Painting Materials and Expression Techniques				

授業の目的・概要	中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料与表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。 授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る 授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。
授業計画	授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用方法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ
授業の方法	4 日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。
成績評価方法	油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	油画材料与表現技法 授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備し、提供するので、材料費として 2000 円を初日に持参のこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259914	担当教員	王 冀中		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	油画材料与表現技法 Oil Painting Materials and Expression Techniques				

授業の目的・概要	中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料与表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。 授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る 授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。
授業計画	授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用方法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ
授業の方法	4 日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。
成績評価方法	油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	油画材料与表現技法 授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備し、提供するので、材料費として 2000 円を初日に持参のこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259915	担当教員	中野 優子、岡田 猛		
単位数	2	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	コンテンポラリーダンス創作の実践 Contemporary Dance Creation and Performance				

授業の目的・概要	本授業の目的は、「コンテンポラリーダンスの創作を実際に体験してみること」である。実際に心と身体を動かしながら、参加者それぞれが自分の心と身体だからこそできるダンスをクラスメイトと協力しながら創作・発表する。それを通して、自分自身やクラスメイトのこれまでに気が付かなかった魅力に気が付いたり、日常を捉えなおしたりすることを目指す。
授業計画	対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、参加者の提案を踏まえて、随時変更する。今のところは、以下のように、コンテンポラリーダンス創作の一つのアプローチを共に体験していこうと考えている。 1 お互いを知る・仲良くなる 2 どんどん出会う(自分の身体、イメージ、感覚、他者の身体、空間、音楽と出会う) 3 リンクさせる(気持ちやイメージと身体をつなげる、他者とつながる) 4 のんびりのる(湧き上がるものを待ったり、音にのったりと動かされる身体を知る) 5 ひらくとひめる(表現を空間に広げる・開くことと、秘めていくことを体験する) 6 みんなで創る(これまでの経験を基に、みんなで協力してシーンを創る) 7 つなげて伝える(創ったことをつなげて、伝え合う) ※身体表現をベースにしながらもドローイングや写真など、いろいろなメディアを組みあわせて創作しようと考えています。 ※毎日が楽しくなるような宿題を課す回もあるかもしれません。 ※参加者のみなさんと了解をとった上で、コンタクト(背中と背中を預け合う等の接触)を行う可能性があります。1 人でも了解を得られない場合はもちろん実施いたしません。みなさんとお話をしながら決めていきたいと思います。
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やジャーナル(コメントシート)の提出状況、4. 最終レポート
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	コンテンポラリーダンス創作の実践 ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も大歓迎します。また、どの学部の学生も大歓迎します。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259916	担当教員	尾上 明代		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	ドラマセラピーを通じた表現実践				
	Practice for Expression through Drama Therapy				

授業の目的・概要	授業の目標 ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。 グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。 ドラマセラピーの理論的背景についての基本的理解が得られる。 <「演じること」は身体、感情、知性を統合して行う活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由で楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。> 授業の概要 ドラマや劇を演じることを通して表現力や創造性を高め、かつ対人関係をより豊かにすることを目指すコースである。 「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。 グループワークの中においては自分を客観視できることに加え、ドラマにより自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。 ドラマセラピーの多くの手法の中から社会臨床的なアプローチも体験する。 「ドラマで役を生きる」ということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、体得できる内容なので、さまざまな学部・研究科の多くの方の履修をお薦めする。 社会において、特に学修においては「ことば」を多用し、頭で考えることが非常に多い。「ことば」がとても重要である一方、「ことば」にならないものや「ことば」を超えたもの、また自他の身体に意識を向けることは、学生にとって大変重要なトレーニングの一つと言える。この授業では、「普段」と違う体験と時間、そして全人的な学びを提供する。 <ドラマセラピーはクリエイティブ・アーツセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。この手法により、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解が深まり、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。> * 岡田 猛・縣拓 (2013)&comma; 芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法&comma; 認知科学&comma; 20(1)&comma; pp27-45.
授業計画	Day1 第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと最初の interaction のためのゲーム 第2回 想像力・創造力・表現力を豊かに 第3回 フィクション(架空)とリアリティ(現実)の間を行き来する 第4回 おとぎ話―象徴・架空の力 Day2 第5回 創造力・即興力・自発性を豊かに 第6回 社会臨床的アプローチ1(被抑圧者の演劇―1) 第7回 (同上―2) Day3 第8回 ドラマセラピーの基本的な理論 第9回 社会臨床的アプローチ2―対人関係、及び社会問題の探索(ソシオドラマー1) 第10回 (同上―2) Day4 第11回 ドラマセラピーの事例 第12回 心の障害物を乗り越えるドラマ 第13回 グループプロセスの終結・まとめ
授業の方法	夏季集中授業として4日間(2週末)で実施します。この授業形態を活かして、体験・ディスカッション・座学などをバランスよく配置し、わかりやすく、また疲れすぎないプロセスを作り進めていきます。 表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらいます。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていきます。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してください
成績評価方法	表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、 授業参加の様子やディスカッションの内容(50%)、 期末レポート(50%)から総合して評価する。
教科書	資料を配布します
参考書	心ひらくドラマセラピー: 自分を表現すればコミュニケーションはもっとうまくいく! 尾上明代著(河出書房新社) ドラマ

	セラピーのプロセス・技法・上演―演じることから現実へ ルネ・エムナー 著（北大路書房）
履修上の注意・備考	ドラマセラピーを通した表現実践 夏季集中として、4 日間（2週末）で実施します。 8 月 2 日（土） 2～5限 8 月 3 日（日） 2～4 限 8 月 9 日（土） 2～4 限 8 月 10 日（日）2～4 限
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259917	担当教員	O JUN		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	超ドローイング演習 Drawing Exercise				

授業の目的・概要	絵(ドローイング)を制作して、対象を見ること、描くことについて各々の身体を通して実感してみる。 また、人と芸術、美術の永い歴史と意味について考える機会にしたい。 自分で絵を描くこと、制作体験を自他ともに共有し体験する。
授業計画	> 8月4日(月) :2~3時限(2コマ)ガイダンス、レクチャー、実技演習 > > 5日(火): 2~4時限(3コマ)実技演習 > > 6日: (水)2~4時限(3コマ)実技演習、ギャラリーツアー > > 7日(木): 2~4時限(3コマ)実技演習、アーティストトーク(吉開菜央さん?) > > 8日(金): 2~3時限(2コマ)内容:展示、鑑賞 > > 計 13コマ
授業の方法	● 画材の種類、使用方などの練習 ●ドローイングとその方法についての説明及びさまざまなエクササイズの実践 ● 古典、近現代の美術、芸術の歴史、表現方法、様式の変遷についてのレクチャー ● ギャラリー、美術館で展覧会や作品鑑賞 ● アーティストを招いてトークを聴く ● 最終回はそれぞれが制作したドローイング、作品を構内、教室内に展示して鑑賞する。エキジビションの実践
成績評価方法	実技の授業の為、出席を重視する。さらに当人の授業への関心度、集中度、制作意欲、制作物の状態をみて総合的に評価し採点する。
教科書	特に無し
参考書	特に無し
履修上の注意・備考	超ドローイング演習 本授業はアーティスト、専門家を養成する授業ではない。美術への興味や関心、知識について実践的な制作で体験的に学習するものである。その体験によって現代を美術を通して思考する機会としたい。作品個々の優劣ではなく、見る、触れる、描く、思うことを各々が経験することを本授業の目的としたい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259918	担当教員	塚田 哲也、岡田 猛		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 5
講義題目	書と字と手と目（書字とデザイン） Calligraphy, Typography, Hands, and Eyes (Japanese Calligraphy and Character Design)				

授業の目的・概要	わたしたちがふだん使っている「書体」や「フォント」などさまざまなデザインの「文字」。これらはもともと手で書かれることによってかたちが成立しました。 この授業では実際に筆を持ち、書くことで、文字（漢字・ひらがな）のかたちはどうできあがっているかを体験し、文字のなりたちと歴史による変遷をふまえ、各要素の構成とそこに秘められた身体性を理解します。また同時に文字を見る目、書を見る目を養います。 さらにはそれらをふまえて、これから文字はどうなっていくか、またこの「文字」がことばやコミュニケーションとともに今後どのようなようになっていくのかを想像し、あたらしい文字のありかたを模索します。
授業計画	前半では筆の持ち方からはじめ、文字の基本形（スタンダード）となる楷書『雁塔聖教序』を手本として、文字を成り立たせるための基本的な筆の運び方・構成の原則を学び、文字はどのような姿をしているかを把握します。同時に書の歴史についても学び、そのかたちの変遷を筆づかいとともに体験します。また、漢字をもとにうまれた日本独自の文字である「ひらがな」についてもそのかたちを学びます。
授業の方法	授業では、実際に墨を磨り筆を用いて半紙に課題となる楷書・ひらがなを書いていきます。 序盤では基本的な筆の扱い方から点画の書き方を学び、授業を追うごとに文字のブロックごとの構成などを学んでいきます。
成績評価方法	出席（50%）と授業への取り組み（25%）、および提出物やその内容（25%）を総合的に評価します。
教科書	『石川九楊の書道入門 石川メソッドで 30 日基本完全マスター』石川九楊・著（芸術新聞社）定価：2,400 円＋税
参考書	適宜授業内で紹介をします
履修上の注意・備考	書と字と手と目（書字とデザイン） 専門的技術は不要です。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259919	担当教員	高田 由利子		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	音楽療法を通した表現実践 Practice for Expression through Music Therapy				

授業の目的・概要	・日常生活の中で受動的に聴取している音や音楽を能動的に聴取する体験をもつことにより、音や音楽は自分とその周囲の環境に対してどのような影響を与えているのかについて理解する。 ・能動的な聴き方を身につけるための様々な感覚(聴覚、視覚、触覚、嗅覚など)を使った身体表現に取り組むことで、自己の感情・思考・身体についてより敏感になることから自己理解を深める機会をもつ。 ・自己理解を深めるプロセスでは、他者や環境にも注意を向けていくため、音を媒体とした他者との協働ワークを通して、より円滑なコミュニケーションを図るためのふるまいを身につける。 ・音や音楽のもつ生理・心理・社会的な機能について自分なりに考察することができる。
授業計画	Day1 自己の外界にある音を聴く 第1回 オリエンテーション、音楽に関連した自己紹介 ※他者に共有してもいい音や音楽を紹介(スマホや CD などに音源を準備)してください。第2回 マリー・シェーファーにおける「サウンド・エデュケーション」の概念を援用した音楽聴取ワーク① 第3回 絵から音を聴く、音から絵を観る 視覚と聴覚の交叉におけるワーク② Day2 自己に内在する音を聴く 第4回 音楽療法の理論と技法 第5回 音楽、ムーブメント、描画を融合させた表現アートセラピーにおける自己探求のためのワーク③ 第6回 ワーク③の続きと振り返り Day3 自己と他者(コミュニティ)が共有する音を聴く 第7回 音楽が療法として用いられる歴史の変遷、文化・社会的背景 第8回 音・音楽の聴取体験から自己のポートフォリオを作成するためのワーク④ 第9回 グループプレゼンテーションの計画1 Day4 自己と社会が共有する音を聴く 第10回 音楽のもつ社会的な機能における健康観 第11回 グループプレゼンテーションの計画2 第12回 グループプレゼンテーション 第13回 クロージングのための聴取、総括
授業の方法	授業形態としては、講義と演習を取り入れた枠組みとなります。頭で理解するよりも身体で捉える感覚を大切にするため、演習の部分が多くなります。ワークの進め方としては、まず、体験から入ることが多いです。その後、その体験の背後にあるメカニズムについて説明をします。また、自己洞察を深めるためにも、必ず、ワークについての振り返りの時間もちます。この時、何を感じたり思ったのかについて、少数(2名から3名)の人たちと共有して頂きます。ただし、共有が難しいという方は、配慮してまいります。ワークをする上で一番大切なことは、安
成績評価方法	授業内ワークの参加やプレゼンテーションの内容(30%)、授業内振り返りレポート(30%)、最終レポート(40%)
教科書	特になし。授業内で配布資料あり。
参考書	・石黒千晶・横地早和子・岡田猛(編著)(2023) 触発するアート・コミュニケーション あいり出版 ・Bruscia, K.E.(1998). Defining music Therapy. Barcelona Publishers, Gilsum, NH.(生野里花訳:音楽療法を定義する.東海大学出版会, 2001.)
履修上の注意・備考	音楽療法を通した表現実践 春季集中として、4 日間で実施します。 2026 年 2 月 17 日(火) 2〜4 限 2 月 18 日(水) 2〜4 限 2 月 19 日(木) 2〜4 限 2 月 20 日(金)1〜4 限
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259920	担当教員	田中 庸介		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	なめらかな詩表現実践 Practice of Poetic Expression				

授業の目的・概要	優れた詩の表現は、作者の実存と言語表出との思いがけないやりとりによって生まれます。本授業では特に詩の表現実践を通して、なめらかな日本語表現の基礎となる「読む、書く、聞く、話す」の能力を三日間で集中的に高めます。講師は現代詩人であると同時に第一線の細胞生物学者であり、芸術創造連携研究機構(ACUT)の副機構長として芸術科学連携にも取り組んでいます。今回は、総合大学におけるソリッドな芸術実践の一環として、詩の表現実践のレッスンを開講します。 Extraordinary poetic expression can be provided by unexpected encounter between the writer and the literature. On this course, we aim to augment your ability of reading, writing, hearing, and speaking in Japanese, through practice of poetic expression. This mentor is a contemporary poet and cell biologist, and also working on art-science collaboration as the vice president of The Art Center, UTokyo (ACUT). This lesson on poetic expression will therefore deeply contribute to the promotion of solid art practice in UTokyo.
授業計画	1) 詩のワークショップ 2) 詩の朗読法 3) 詩作品の講読 の三つのメソドロジーを組み合わせ、三日間で集中的に詩の表現実践を訓練します。有名ゲストスピーカーの参加も交渉中です。 Combination of poetry workshops, lessons of poetry recitation, and close reading classes of poetry will be repeatedly held in a three days' intensive course.
授業の方法	以下の三つのメソッドを通して、全分野での表現の基礎となる「なめらかな詩表現」への道を指導します。 1) 詩のワークショップ Poetry workshops 数字短歌ワークショップ、詩の穴埋めワークショップなどにより、ことばへの親しみを深め、表現における驚きの感覚をつかむ。 2) 詩の朗読法 Lessons of poetry recitation 肉声を空間に打ち込むための軽い体動法と場当たりのレッスンを通じ、空間の響きの聴きとり方を体得する。 3) 詩作品の講読 Close reading cl
成績評価方法	出席と提出課題の評価 Attendance and assignments
教科書	茨木のり子『詩のころろを読む』(岩波ジュニア新書 9) 斎藤倫『ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集 (福音館創作童話シリーズ)』(福音館書店)
参考書	田中 庸介 詩集『ぴんくの砂袋』(思潮社) 田中 庸介 編・詩誌「妃」 https://kisakipoetry.base.shop/ Filreis, A., Safford, A.S. (Eds.) "The Difference Is Spreading" (UPenn Press) ModPo https://modpo.org/
履修上の注意・備考	なめらかな詩表現実践 東京大学芸術創造連携研究機構 The Art Center, UTokyo https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/ ACUT2024 プロジェクト ACUT2024 Project https://www.acut2024.com/ 田中 庸介「アウトリーチ活動としての詩のワークショップ、その光輝」日本現代詩人会 https://www.japan-poets-association.com/ 「アウトリーチ活動としての詩のワークショップ」 /
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259921	担当教員	高橋 文子、岡田 猛		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 2
講義題目	絵画と造形のアート表現演習 Painting and Formative Art Expression Practice				

授業の目的・概要	【目標】臨床美術※(クリニカルアート)の手法で絵画・造形の作品制作の楽しさを体験することで、自らの感性と表現する力を再発見し、創造性と自己表現力を高めることを目的としています。 また、他者とアートを介在してコミュニケーションをしたり、他者の作品を見ることで自分とは違う感性に触れ、他者理解を深めることも目的としています。 ※臨床美術は作品制作を通じて、絵の得手不得手に関係なく誰でも表現活動ができるアートメソッドです。医療・教育・福祉・企業など様々な機関で取り入れられています。 [Objective.] The purpose of this program is to rediscover one's own sensitivity and ability to express oneself and to enhance creativity and self-expression through experiencing the joy of creating paintings and sculptures using clinical art* (clinical art) methods. It also aims to deepen understanding of others by communicating with others through art and by experiencing sensitivities different from one's own through looking at other people's artwork. *Clinical art is an art method that allows anyone to engage in expressive activities through the creation of artwork&comma; regardless of whether they are good or bad at drawing. It has been adopted by various organizations in the medical&comma; educational&comma; welfare&comma; and corporate sectors. 【概要】 オイルパステルを中心に、墨・アクリル絵の具・粘土など様々な画材を用いて、具象・抽象の絵画や造形の表現演習を行います。またギャラリートークやロールプレイングなどでアートを通したコミュニケーションの演習を行います。 [Summary] In the class&comma; students will practice figurative and abstract painting and modeling expression using a variety of painting materials&comma; mainly oil pastels&comma; but also sumi ink&comma; acrylic paint&comma; mediums&comma; and clay. Students will also practice communication through art by giving gallery talks and role-playing.
授業計画	コミュニケーションを通じてプロセスを楽しみながらアート表現をしていきます。 授業の様子をみながらカリキュラムを変更することもあります。 1 回目「ガイダンス 画面に触発されるミニ抽象画制作」感覚をほぐす 2 回目「リンゴの量感画制作」五感を使いモチーフに向き合う 3 回目「五感のアナログ画制作」五感で感じたことを抽象表現する 5 回目「ギャラリートーク・対話型鑑賞」鑑賞を通して観察・発見を促す 4 回目「感性地図を通じたコミュニケーション」 5 回目「2人で描くアナログ画制作」共同制作・アートコミュニケーション 6 回目「色彩感覚演習」自然物の色を発見して色を作る 7 回目「色彩と空間のコンポジション制作」平面を立体へと展開する 8 回目「数字の形とアナログ造形表現制作」数字を形(フォルム)として捉えて構成する 9 回目「フロッタージュコラージュ制作」身の回りの物をフロッタージュし、その素材を使って 構成する 10 回目 デジタル文化財ミュージアム小石川クロス見学 11 回目「動きのある空間造形」異素材を使って 空間を意識する 12 回目「量感画制作」野菜を量感画の手法を用いて描く 13 回目「量感画ロールプレイング」伝える側の視点になってアートセッションをしてみる
授業の方法	作品演習が授業の中心となりまして、個人で制作するものと、共同で制作するものがあります。また、感じたことの言語化、グループディスカッション、対話も行っていきます。 授業後半では、ミュージアム見学を計画しています。
成績評価方法	制作演習中心の授業ですので、出席を重視します。 授業への前向きな取り組み・自分なりの創意工夫(70%)、レポート(30%)を総合的に評価します。
教科書	特にありません。 必要に応じてプリントを配布します。
参考書	「臨床美術―認知症治療としてのアートセラピー」金子健二編 日本地域社会研究所刊 「臨床美術―認知症医療と芸術のコラボレーション」宇野正威、TOPPAN 芸造研(旧:芸術造形研究所)編 金剛出版発行
履修上の注意・備考	絵画と造形のアート表現演習 絵の得意不得意に関係なく、どなたでも表現できる時間です。苦手意識のある方こそこの機会にアート表現を通して自分の感覚を向き合うことをお勧めします。 人は誰でも表現者です。アート表現は、普段使わない感覚を活性化すること

	ができます。自分自身の感覚と向き合い自分を再発見する機会にもなります。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259922	担当教員	大塚 ヒロタ、和泉 淳子、岡田 猛		
単位数	2	学 期	A2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	狂言とコメディア・デラルテ(古典喜劇の実践演習) Kyogen and Commedia dell'Arte (Practical Exercises in Classical Comedy)				

授業の目的・概要	本授業の目的は、「日本とイタリアの伝統的な喜劇(狂言とコメディアデラルテ)の表現を実際に体験してみること」である。実際に心と身体を動かしながら、参加者 1 人 1 人が芸と自分に向き合い、自分の心と身体だからこそできる表現を試みる。それを通して、伝統と創造の関係や、自分が何者であるのか、自分の強みを理解し、弱みを魅力に変えたり、日常を捉えなおしたりすることを目指す。
授業計画	対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、参加者の提案も踏まえながら必要に応じて随時変更する。今のところは、以下のように、狂言とコメディア・デラルテ双方のキーワードをピックアップし、それをトピックとして、レクチャーや実技、講師同士の対談などを組み合わせて行う予定である。 1 イントロダクション:「笑いと伝統」 2 「キャラクターと役」 3 「型とシステム」 4 狂言とコメディア・デラルテそれぞれの表現① 5 狂言とコメディア・デラルテそれぞれの表現② 6 狂言とコメディア・デラルテそれぞれの表現③ 7 発表
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の 4 点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. レポート
教科書	特になし。 (狂言とコメディア・デラルテについて前知識を入れてくるとよい)
参考書	特になし
履修上の注意・備考	狂言とコメディア・デラルテ(古典喜劇の実践演習) 表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う表現も専門的な技術のベースは必要としません。初めて表現や演劇を行う方も歓迎します。また、どの学部 of 学生も大歓迎です。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09259923	担当教員	佐藤 悠、岡田 猛		
単位数	2	学 期	A2	時 限	月 3, 月 4
講義題目	美術鑑賞を思考方法として応用する Applying Art Appreciation as a Method of Thinking				

授業の目的・概要	美術鑑賞のプロセスを、複雑な問いに向き合う思考法の一種と捉える。それらを受講者各自が課題解決に応用するための、インプット・アウトプットが一つになった授業。鑑賞に慣れてない方も、そうでない方も、お互いが価値になりあえる内容になっています。鑑賞における、個々の思考プロセスを重要視するため、鑑賞作品や美術史等、専門的な内容に深く触れる授業ではありません。 This class views the process of art appreciation as a method of thinking to engage with complex questions. It integrates both input and output, enabling participants to apply this process to problem-solving. The class is designed to be valuable for both those new to art appreciation and those with more experience, fostering mutual growth. Emphasizing individual thought processes during appreciation, the class does not delve deeply into specialized topics such as specific artworks or art history. Please note that the class will be conducted in Japanese.
授業計画	1: 鑑賞のパターンを思考ツールとして捉えてみる: 基礎編 鑑賞パターンの収集: アウトフレームのための仮のフレーム型をつかむ 2: 鑑賞のパターンを思考ツールとして捉えてみる: 応用編 前回の応用・資料との関わり・長時間の試行とワンダリング・新たな鑑賞パターンの創造 3: 制限の中での鑑賞 思考やコミュニケーションに制限を制限を加えた鑑賞での気づき 4: 表現を用いた鑑賞: インプットとアウトプットの双方を意識した鑑賞 5: フィールドワーク① これまで培ってきた経験によって、実際の現場から何が見いだせるのかを試す。 6: フィールドワーク② 広範囲 前回より広範囲のフィールドで実施 7: ただ話す 授業の成果を、「ただ集団で集まって話すこと」というシンプルで日常的な行為に集約させてみる。
授業の方法	【基本的な授業形式】 前半: 2時間程度のワークショップ(グループワーク)とレクチャー 後半: 1時間程度のディスカッション
成績評価方法	出席とレポート
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	美術鑑賞を思考方法として応用する
教育職員免許法上の認定科目	